

THE HORROR
WORLD
OF JUNJI
Collection

伊藤潤二 恐怖マンガ

[1] 富江



目次

富江..... 3

(「月刊ハロウィン」1987年2月号掲載)

富江・写真..... 33

(「月刊ハロウィン」1989年11月号～12月号掲載)

富江・接吻..... 97

(「月刊ハロウィン」1990年2月号掲載)

富江・屋敷..... 159

(「月刊ハロウィン」1990年4月号掲載)

富江・復讐..... 193

(「月刊ハロウィン」1993年6月号掲載)

富江・滝壺..... 225

(「ネムキ」1995年VOL. 28 掲載)

富

(とみえ)

江



友人の富江^{とみえ}が
死んでしまった



あちこちで
バラバラ死体で
見つかったのです



まだ全部は
見つかって
ないそうよ
なにしろ細かく
バラして
あるんだって



犯人も
まだ捕まっ
てないん
でしょ？
怖いわねえ

担任として
責任を感じ
ます
課外授業の
後だった
だけに……





でも一番
かわいそう
なのは
山本くん……
富江のこと
あんなに
思ってた
のに



犯人の
手がかりは
今のところ
つかめて
いない
そうだが
おそらく
変質者の
仕業だ



山本くんの
ような
男の子を
引きつけて
おきながら
富江ったら



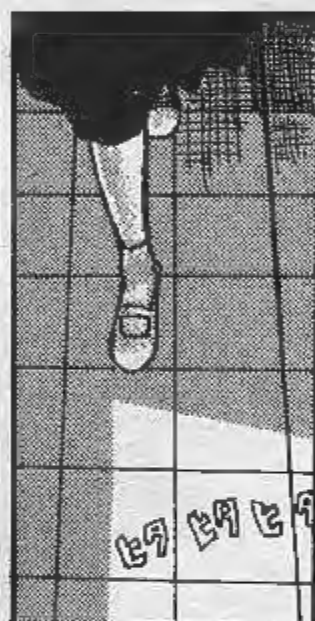
まだこの町に
潜伏している
可能性が
高いらしい……
特に女子は
一人歩きせず
必ず数人で
行動するように



富江の死は
教訓だ
悲しいが
現実なんだ
現実
として
受け入れな
ければなら
ない

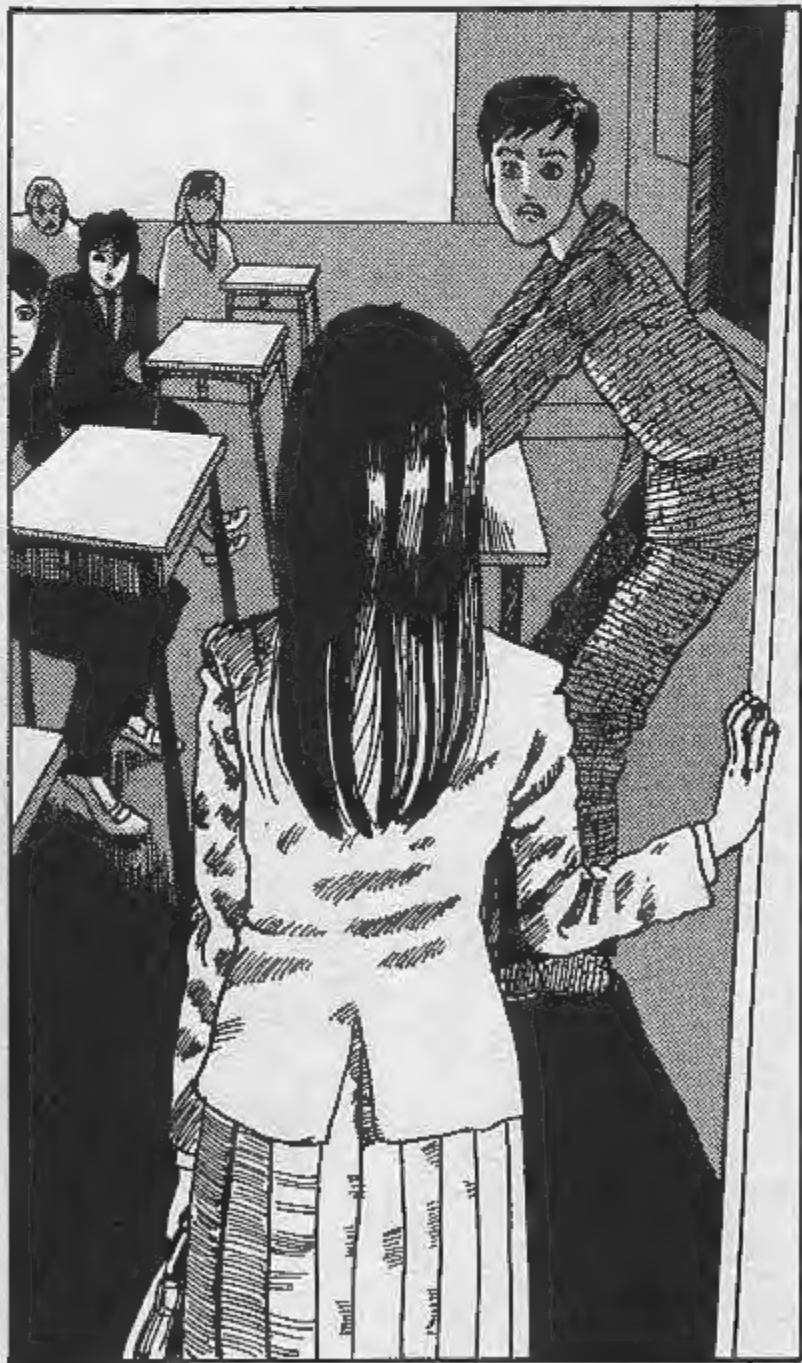


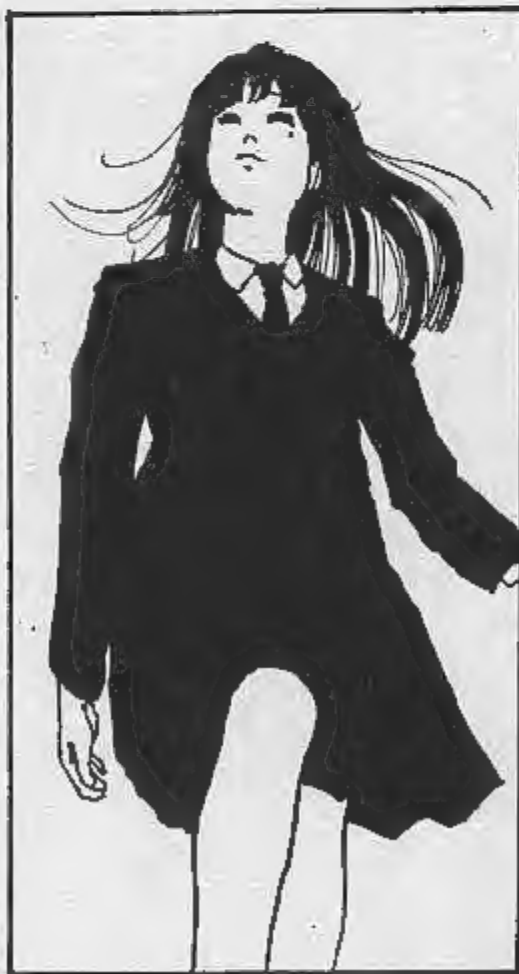
いくら
嘆いても
……



富江は
帰っては
こない



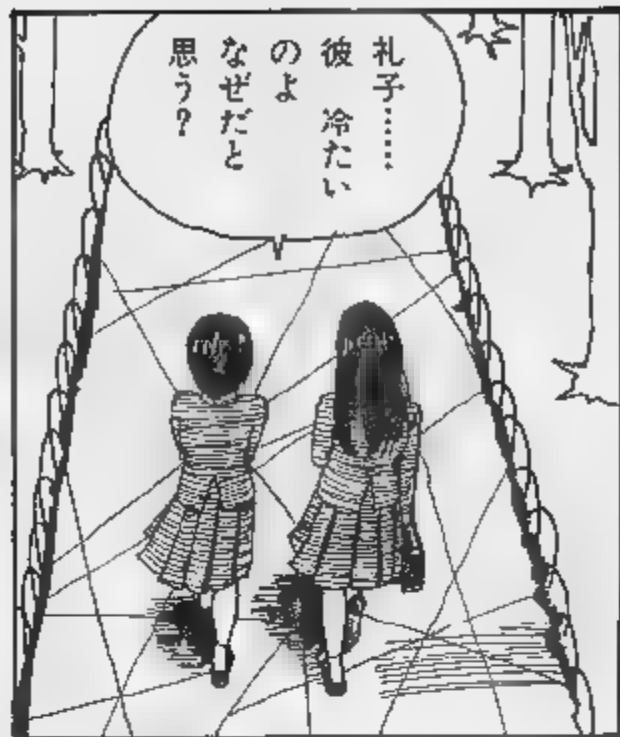


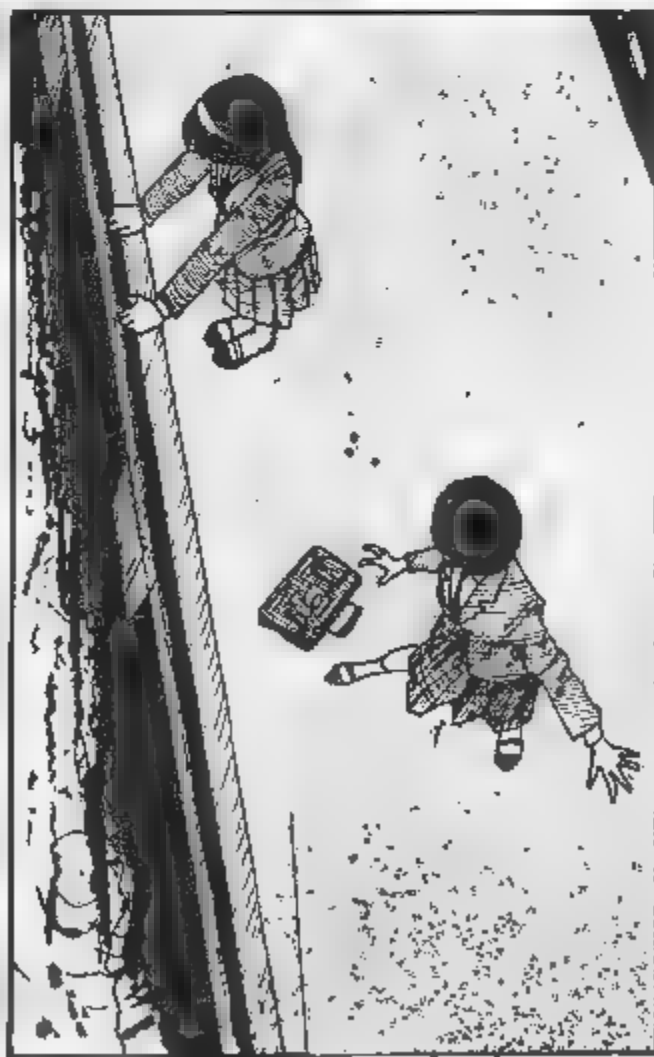
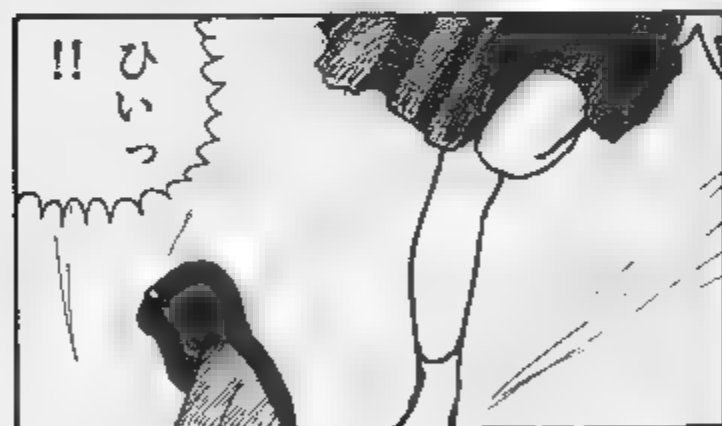


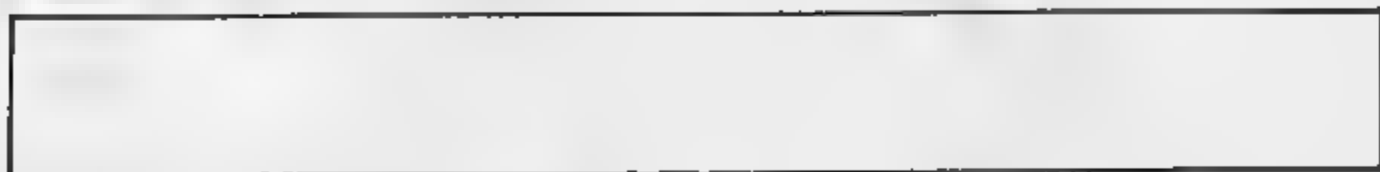






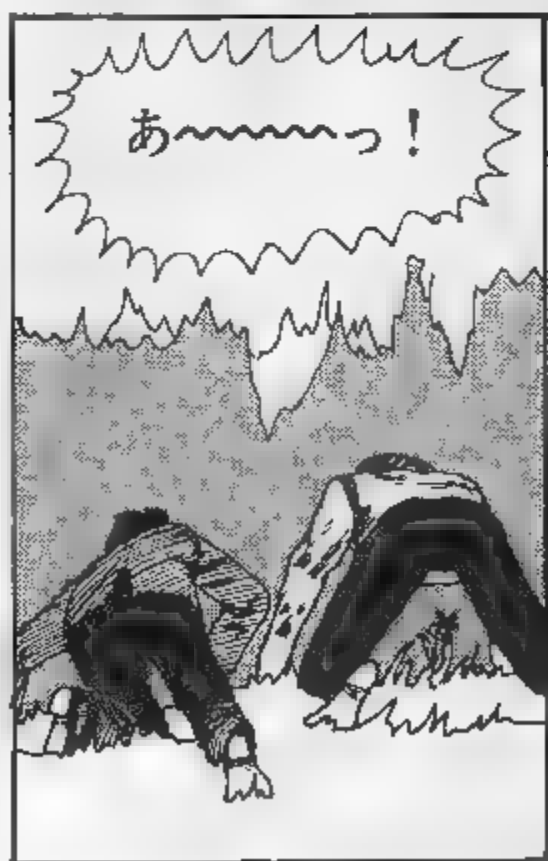


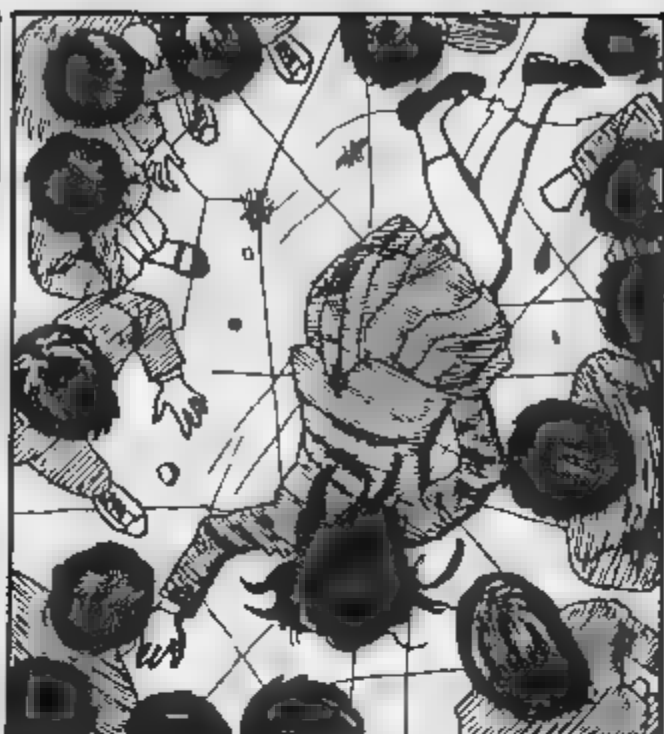




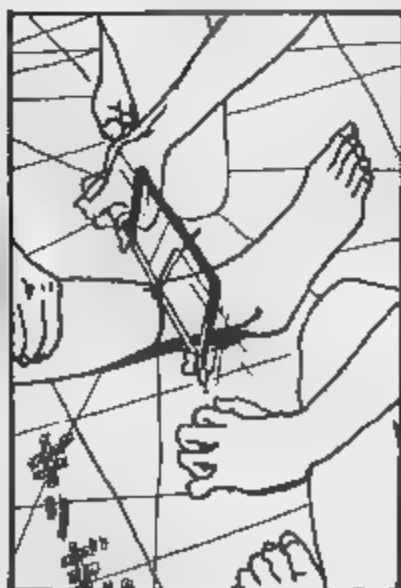
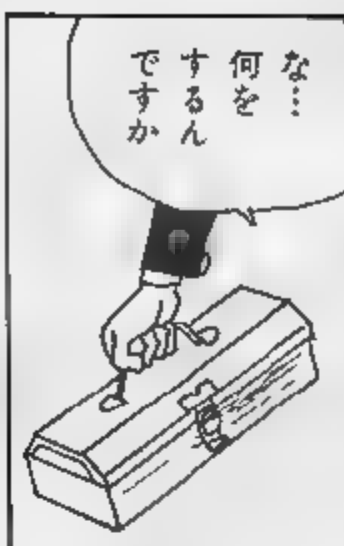


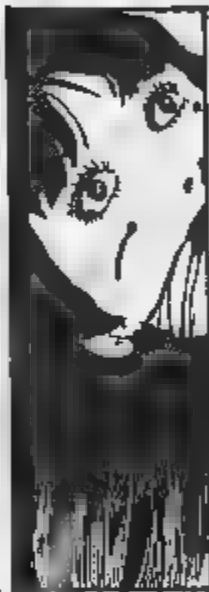
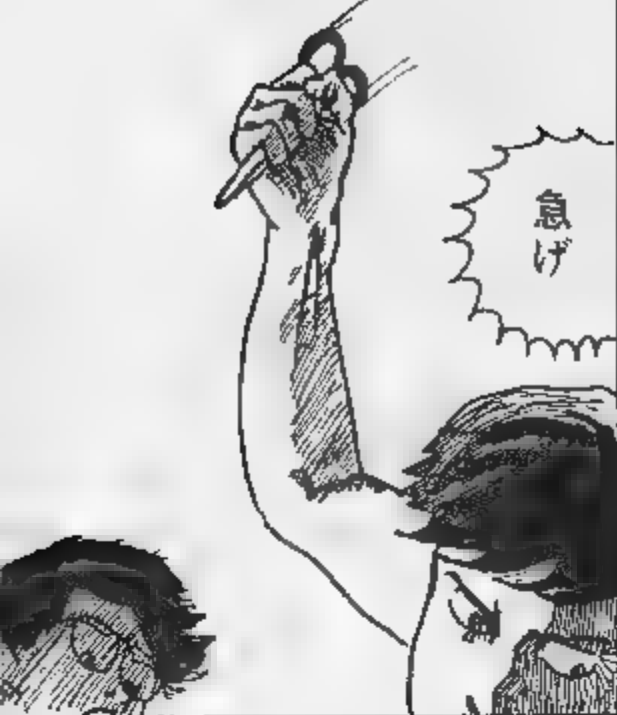


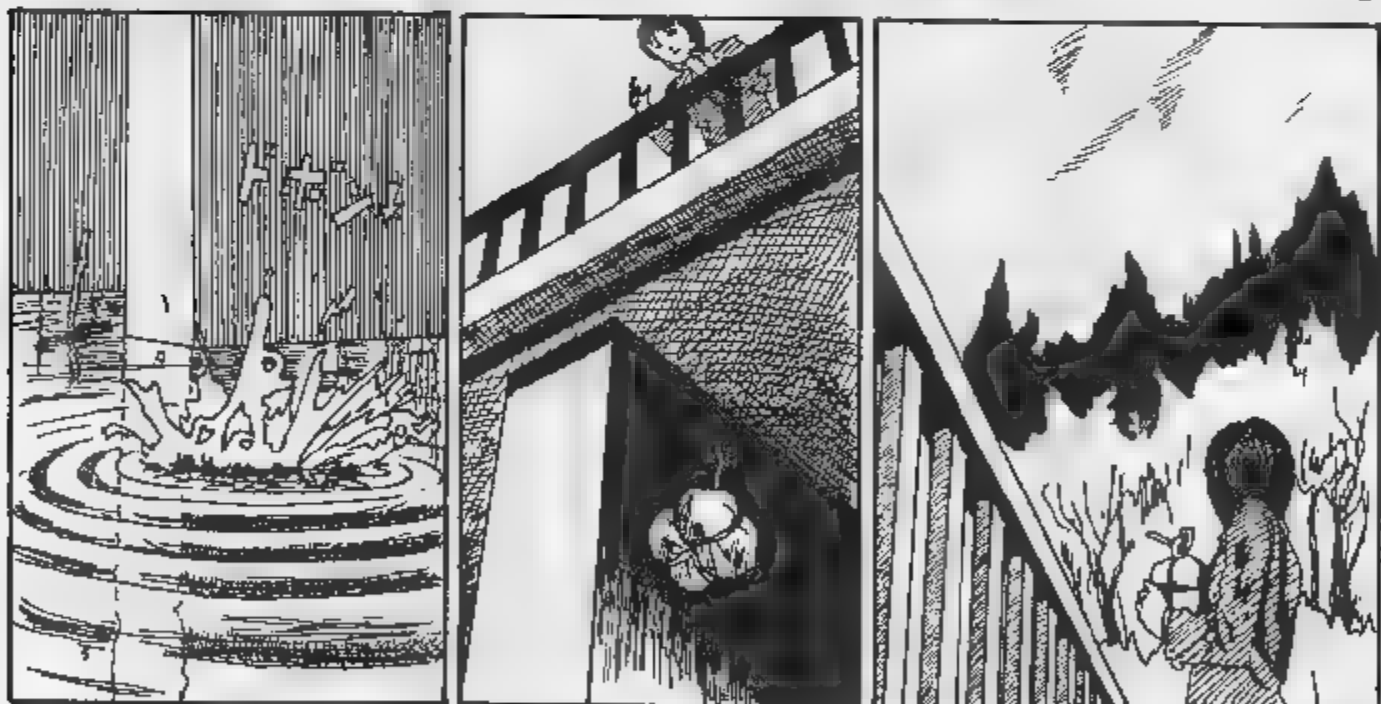
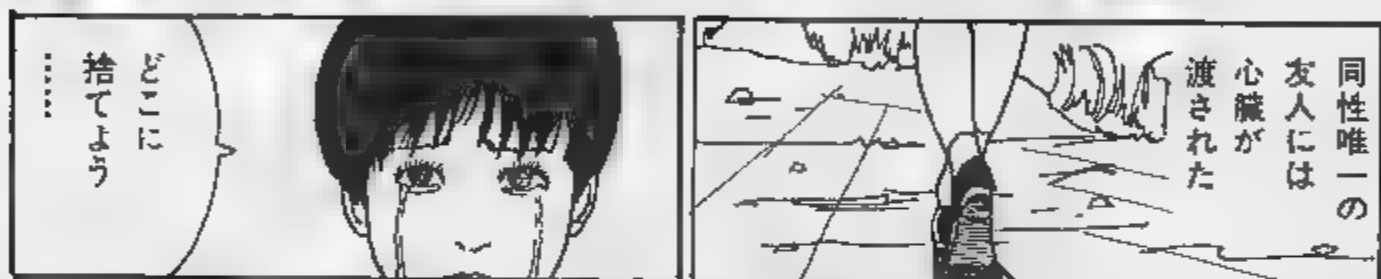
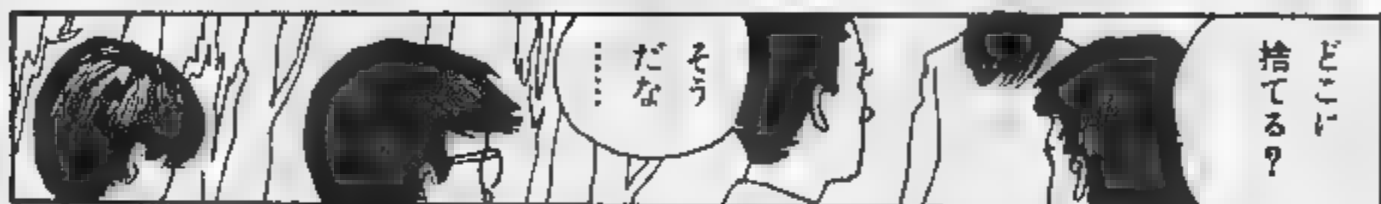


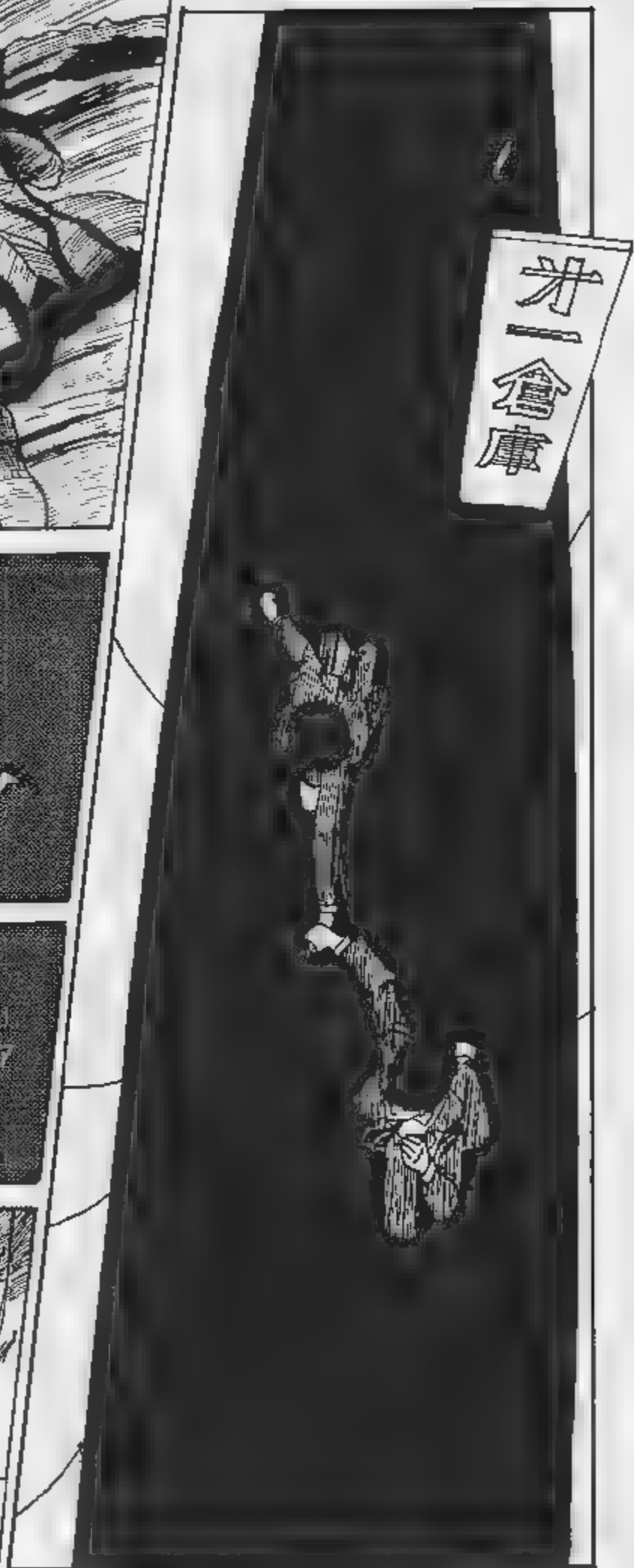
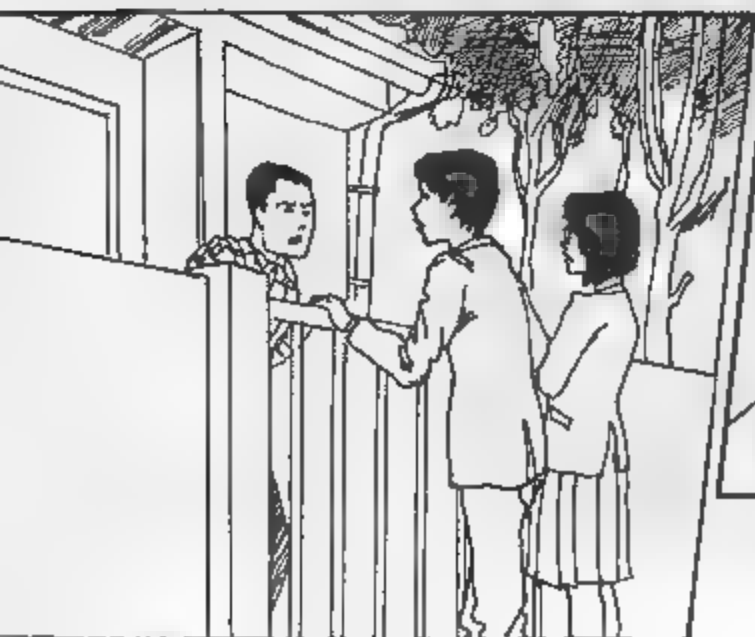
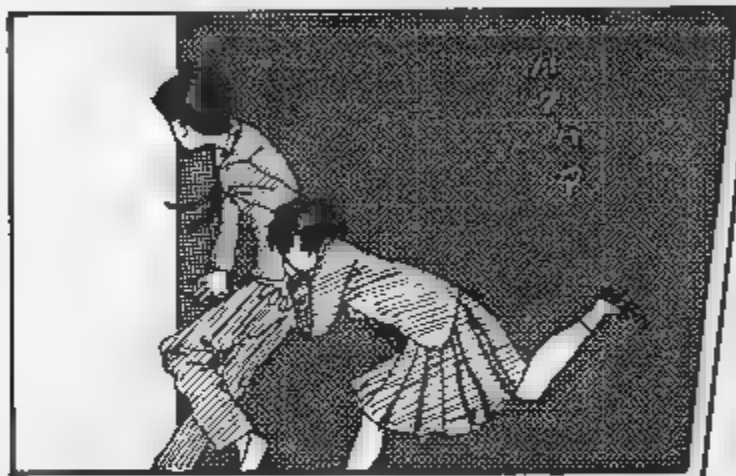






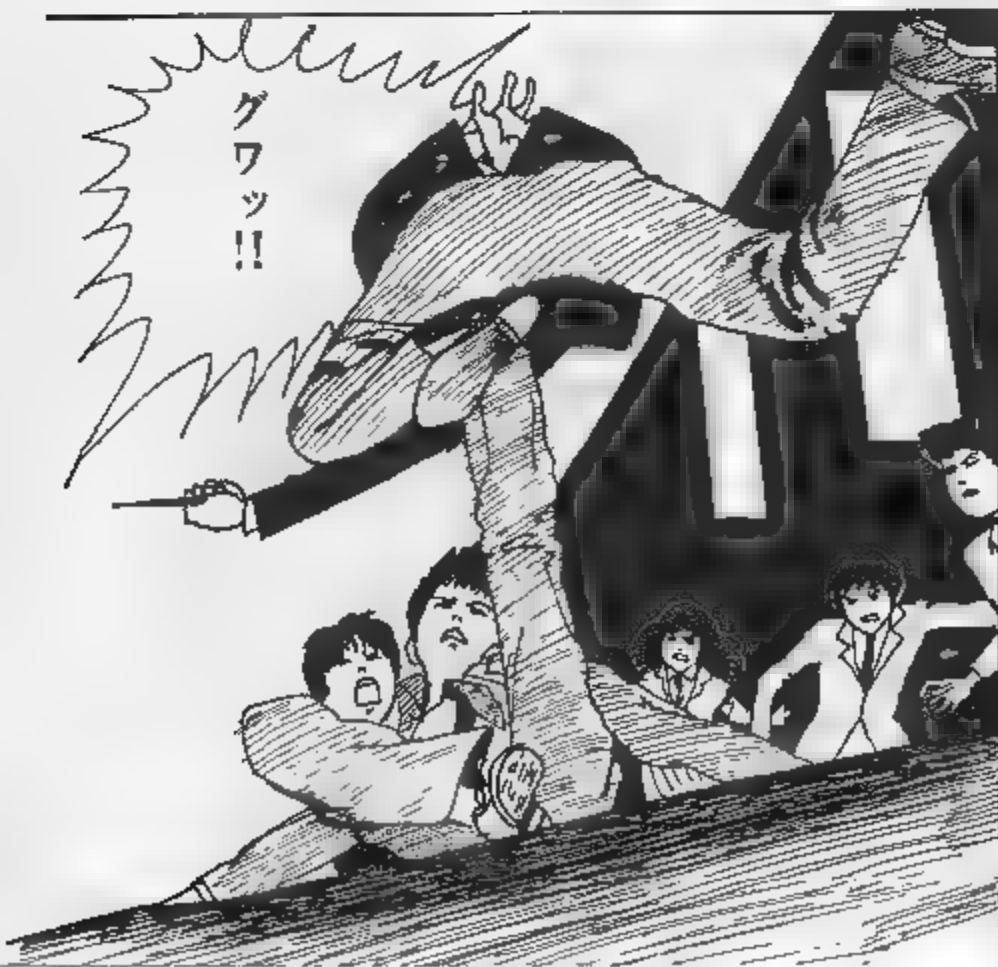
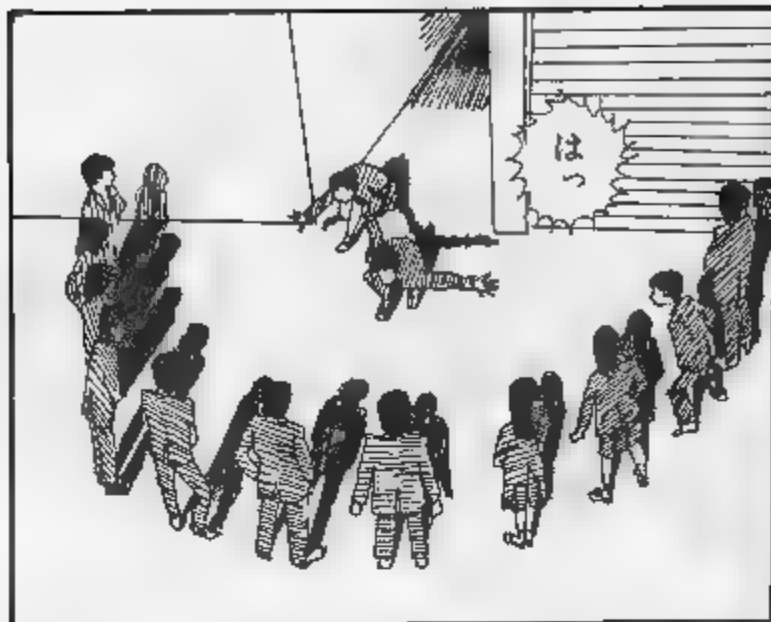


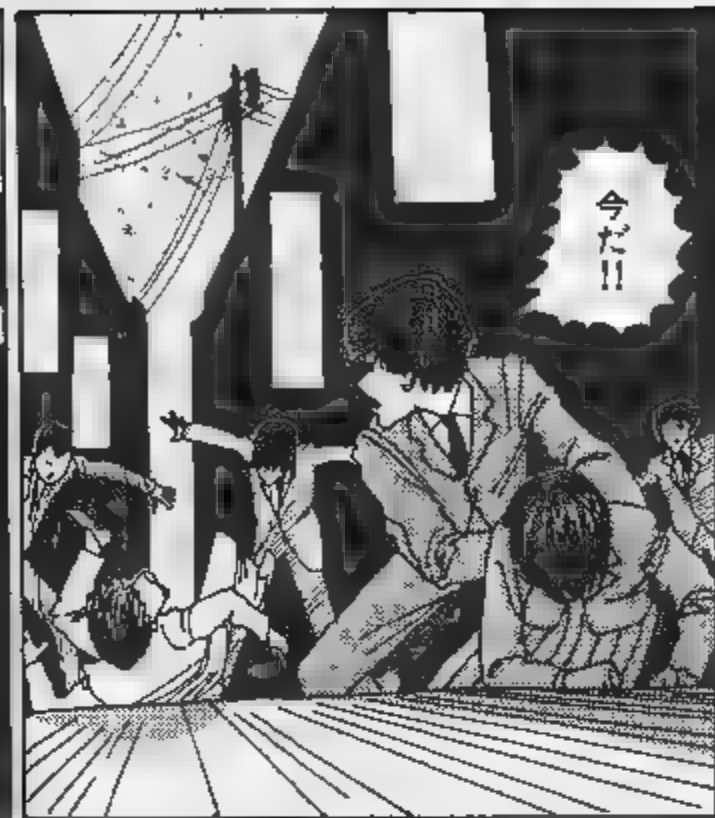
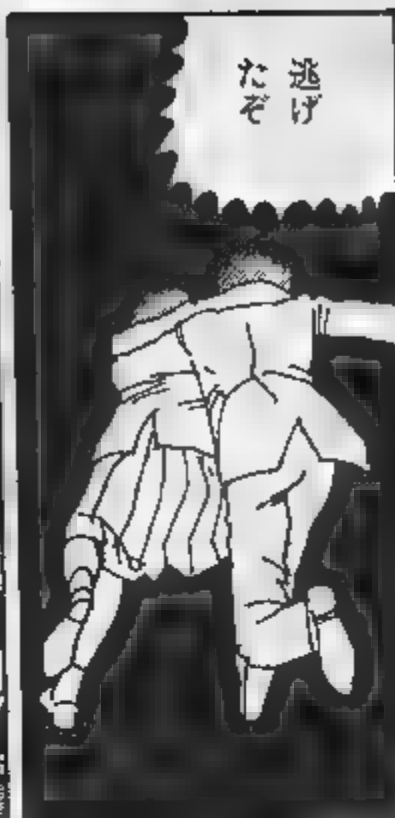


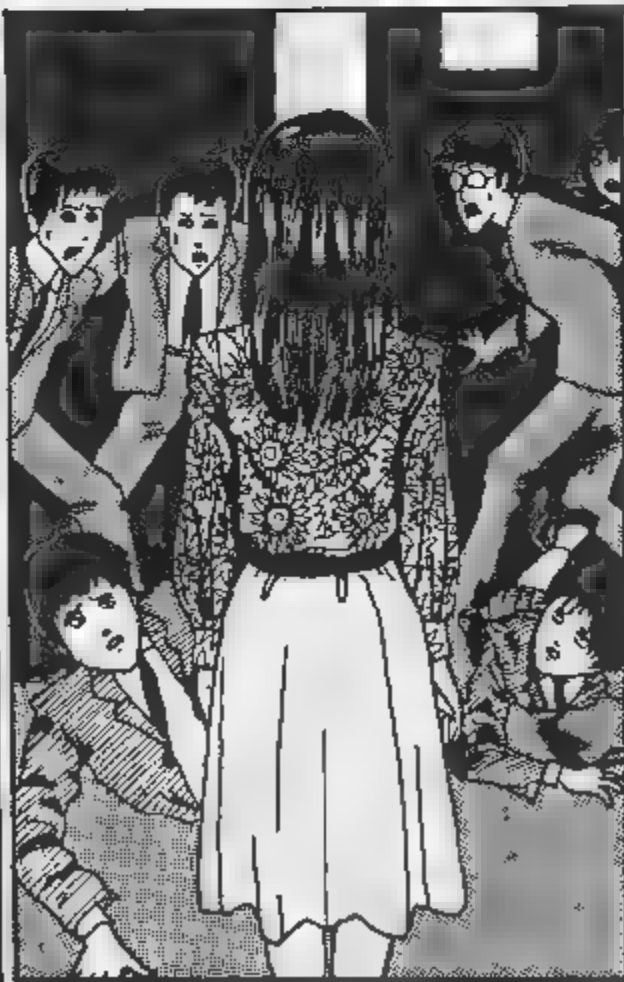
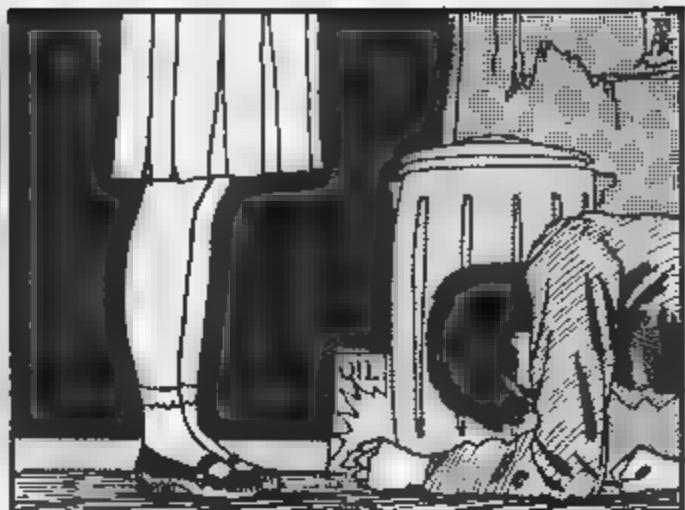


才
一
倉
庫



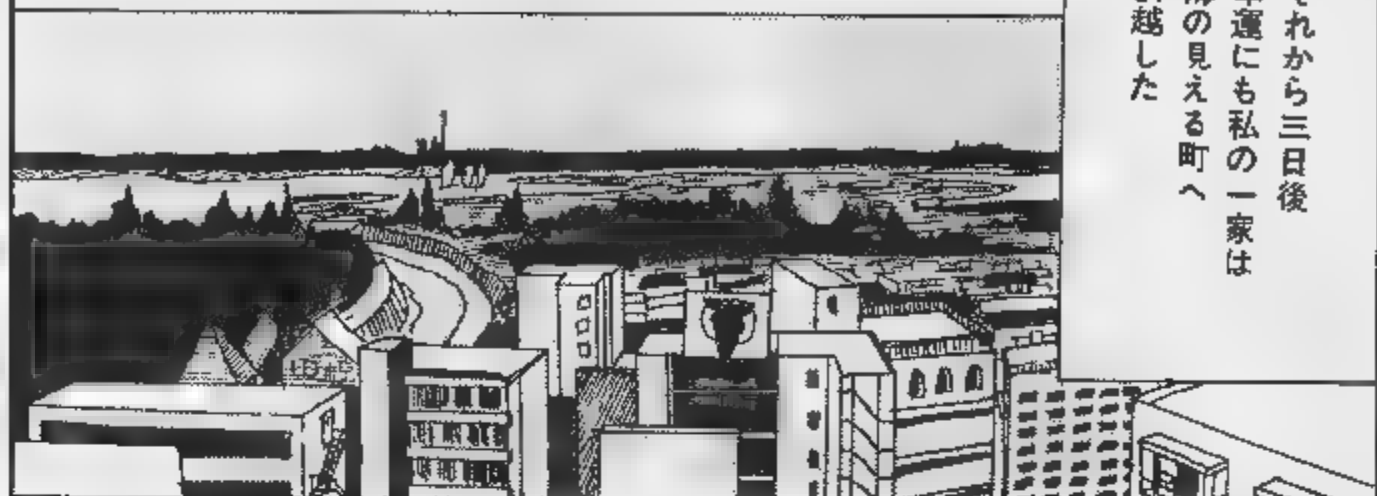








それから三日後
幸運にも私の一家は
海見える町へ
引越した



聞くとところに
よると現在
一年B組は
退学者が
続出 2人が
自殺
なかば
崩壊状態に
あるという



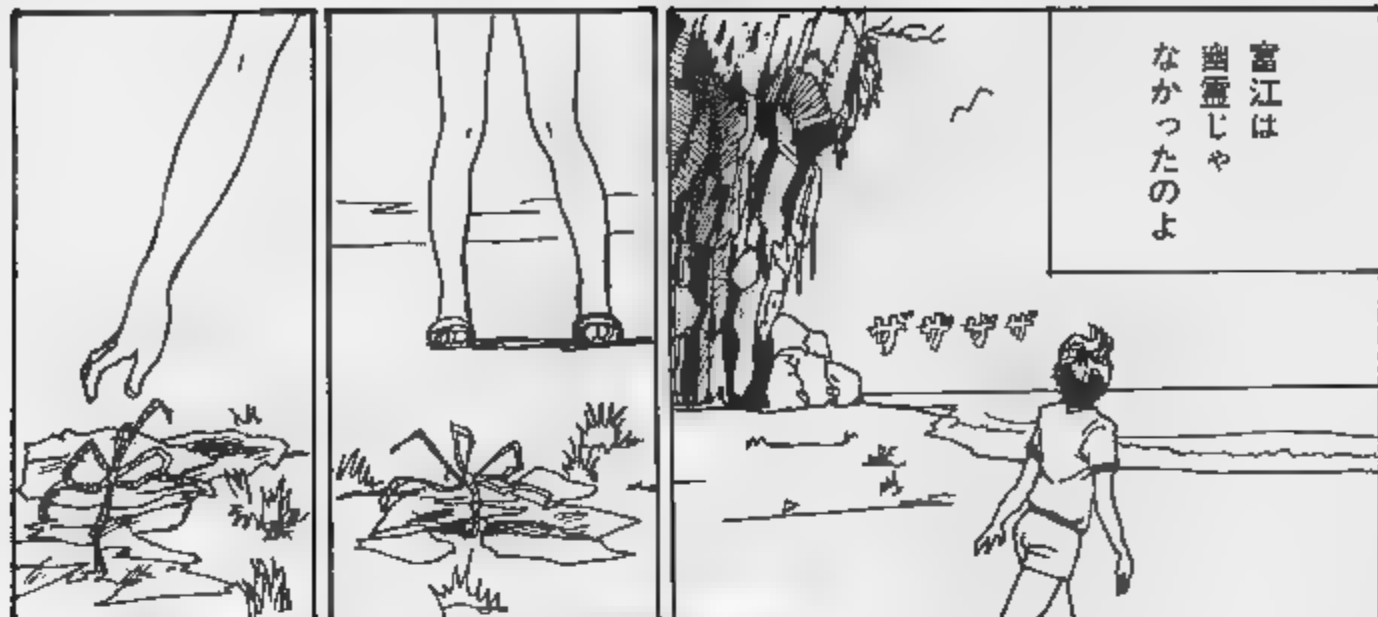
富江が
どうなったかは
わからない



……でも
今になって
落ちついて
考えるのだ
けれど……
やっぱり富江は
生きていた
のだわ

あの課外授業
……
あれが夢だった
のよ
みんなが悪夢を
同時に見た
としか考えられ
ない
だって あんな
授業って
あり得る？



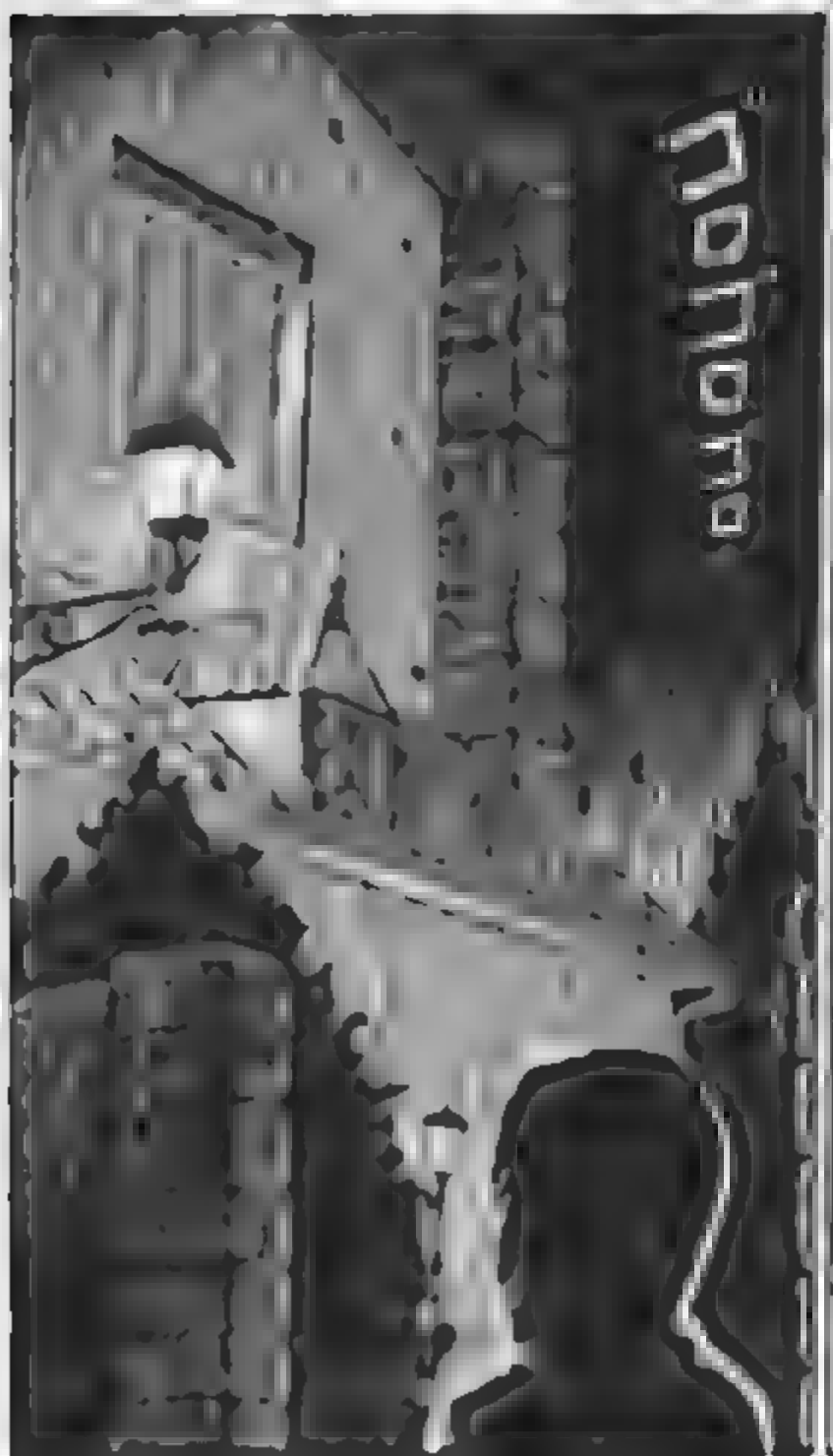




また新しい
富江が
やってくるっ!!

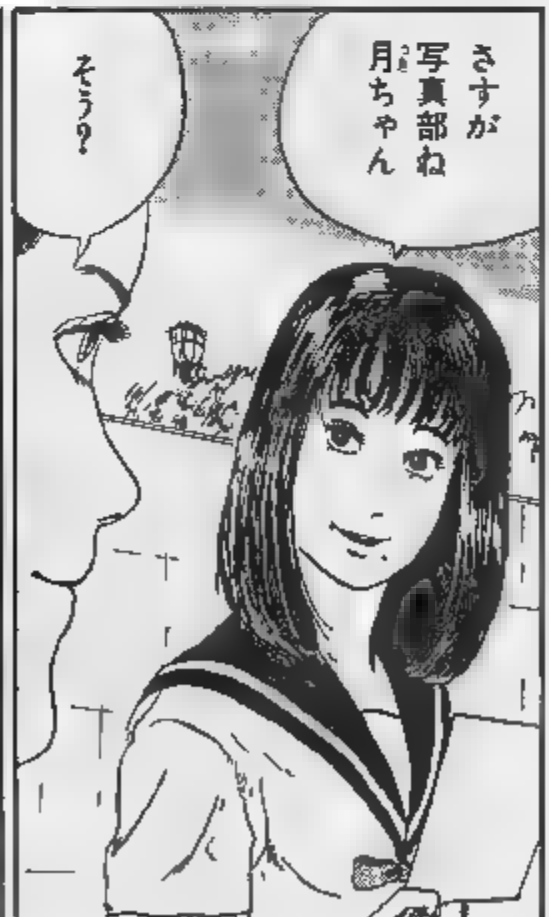


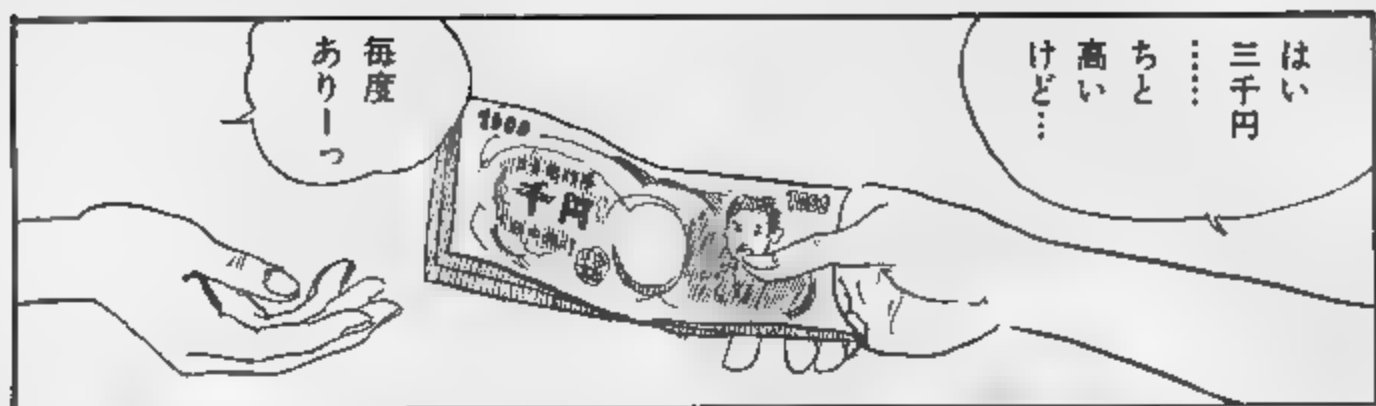
no no no

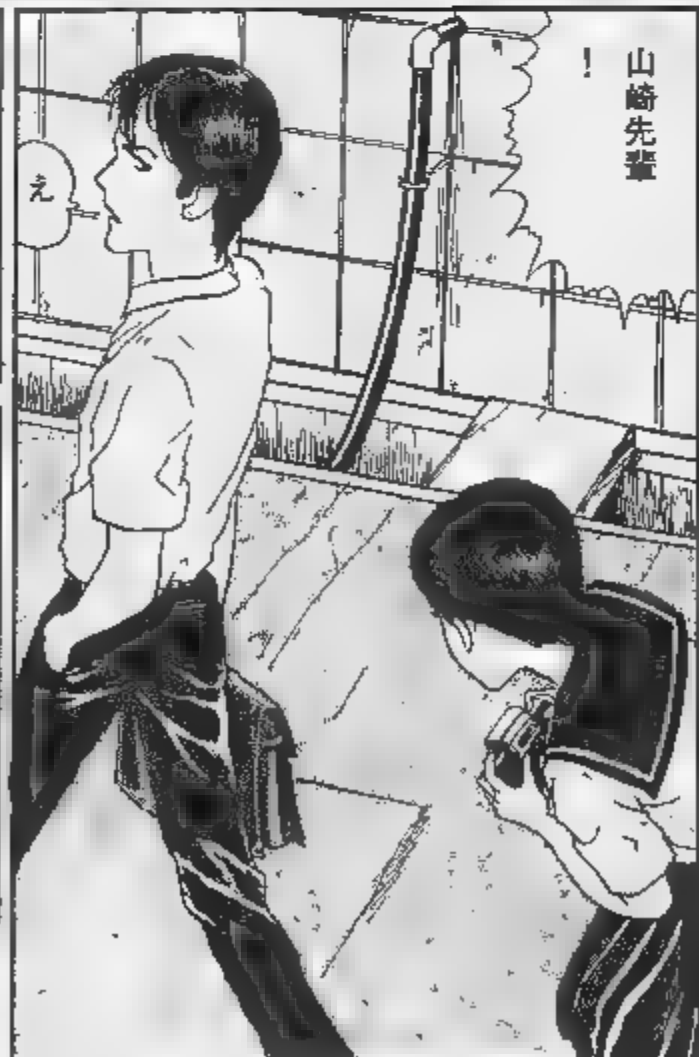








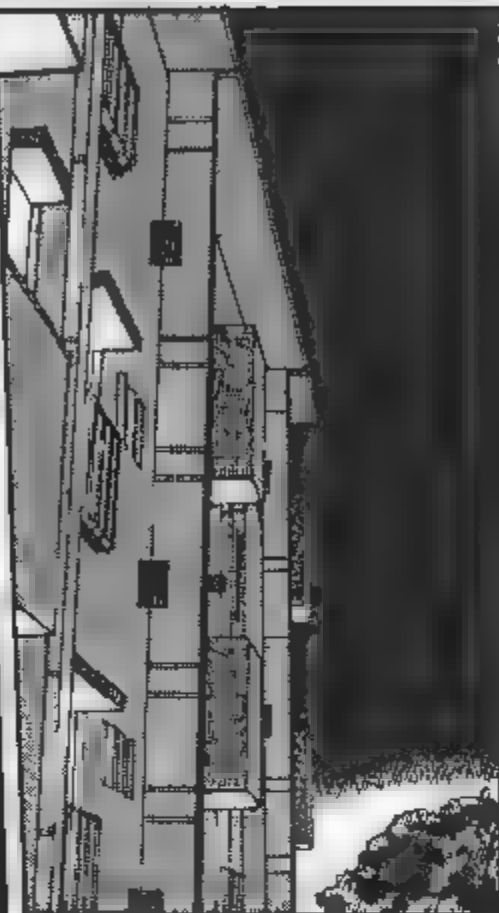








風紀委員の
川上富正
さんだわ





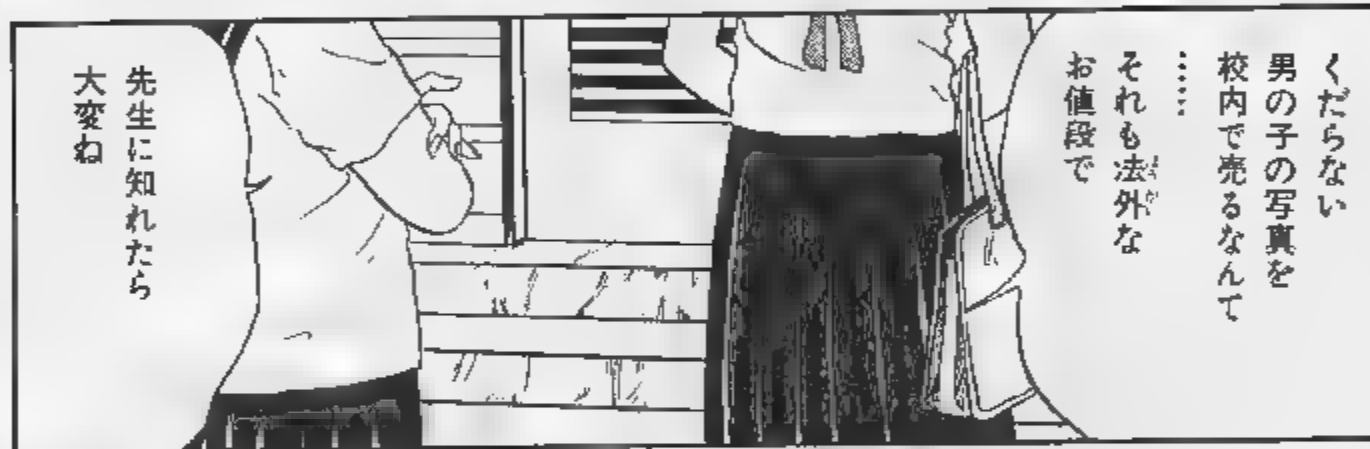


あなた……
ご自分の
なさってること
どう思う？

風紀上
好ましくない
と思わない
の？



川上さん
……



くだらない
男の子の写真を
校内で売るなんて
……
それも法外な
お値段で

先生に知れたら
大変ね



そ……そうよ
私は売ったり
しないワ

ふん



……ちがうのよ
川上さん
月子さんは
売ってるんじゃないのよ
私は見せて
もらってるだけ

ね
月ちゃん

ごまかしたって
だめよ
一万円で売るんで
しょ？
聞こえたわよ



太地君 泉沢君の
カバンの中を調べて
まだ商品が
はいってるかも
しれないわ



何するのよ！
何の権限が
あって……



……
ありましたよ
富江さん



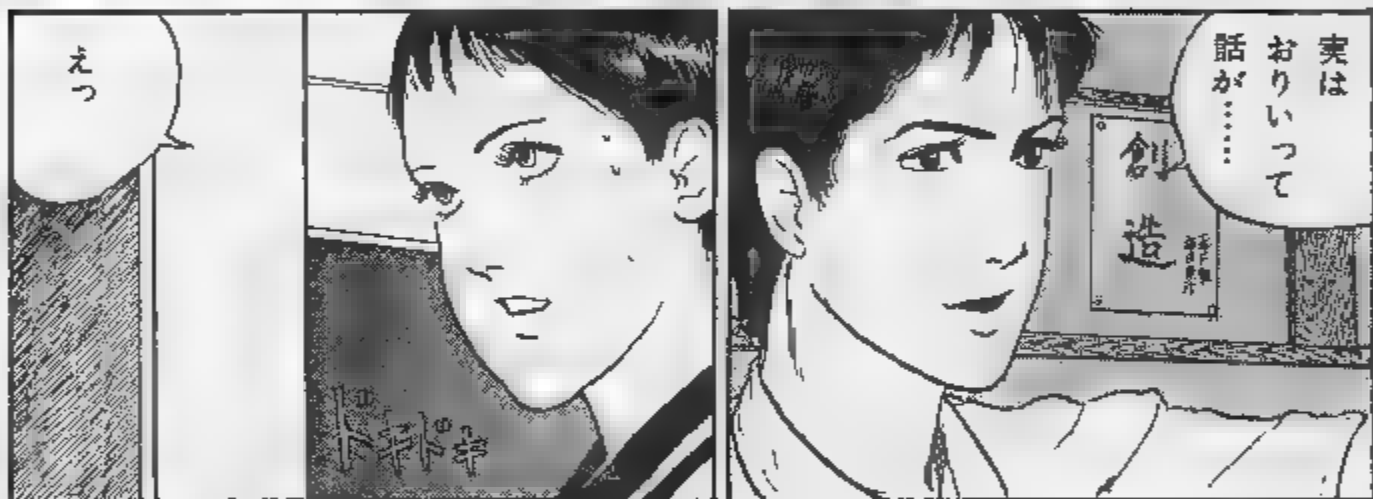
こんなに
たくさん
あるじゃないの

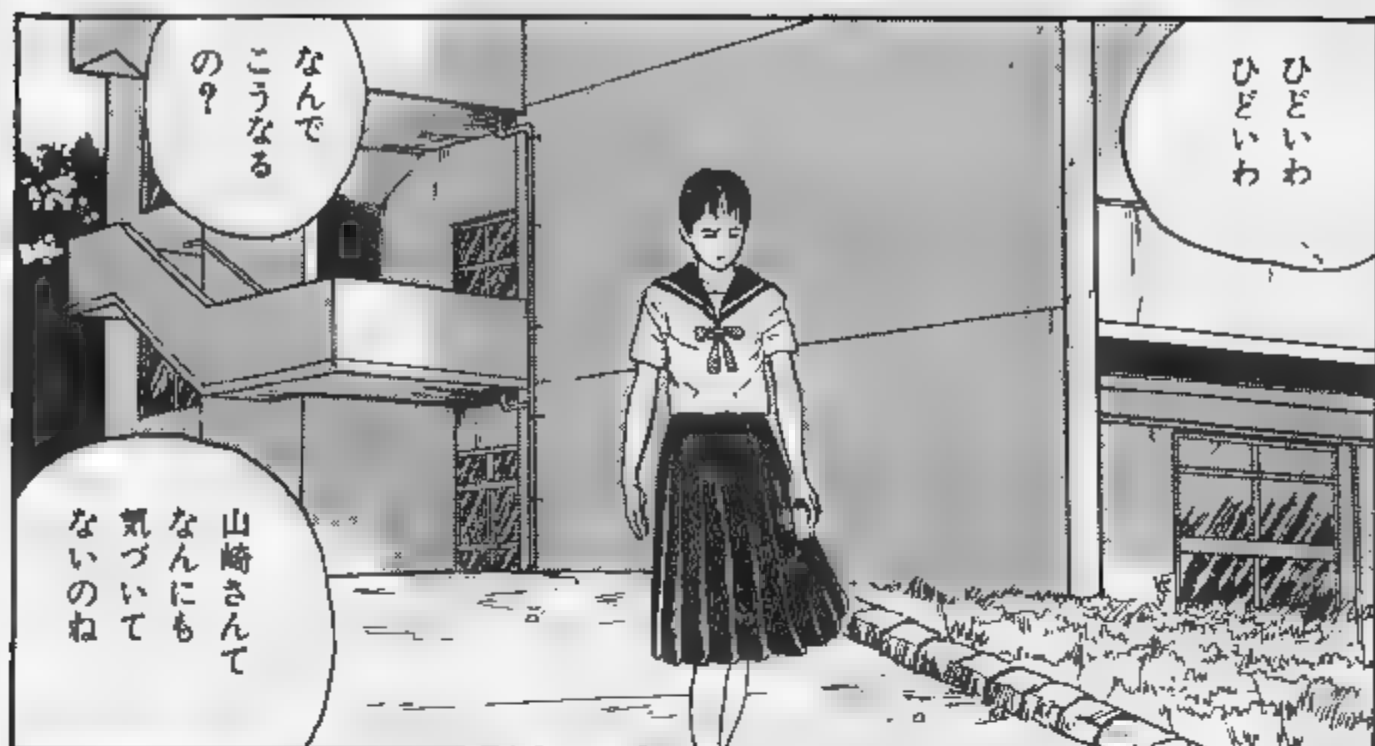










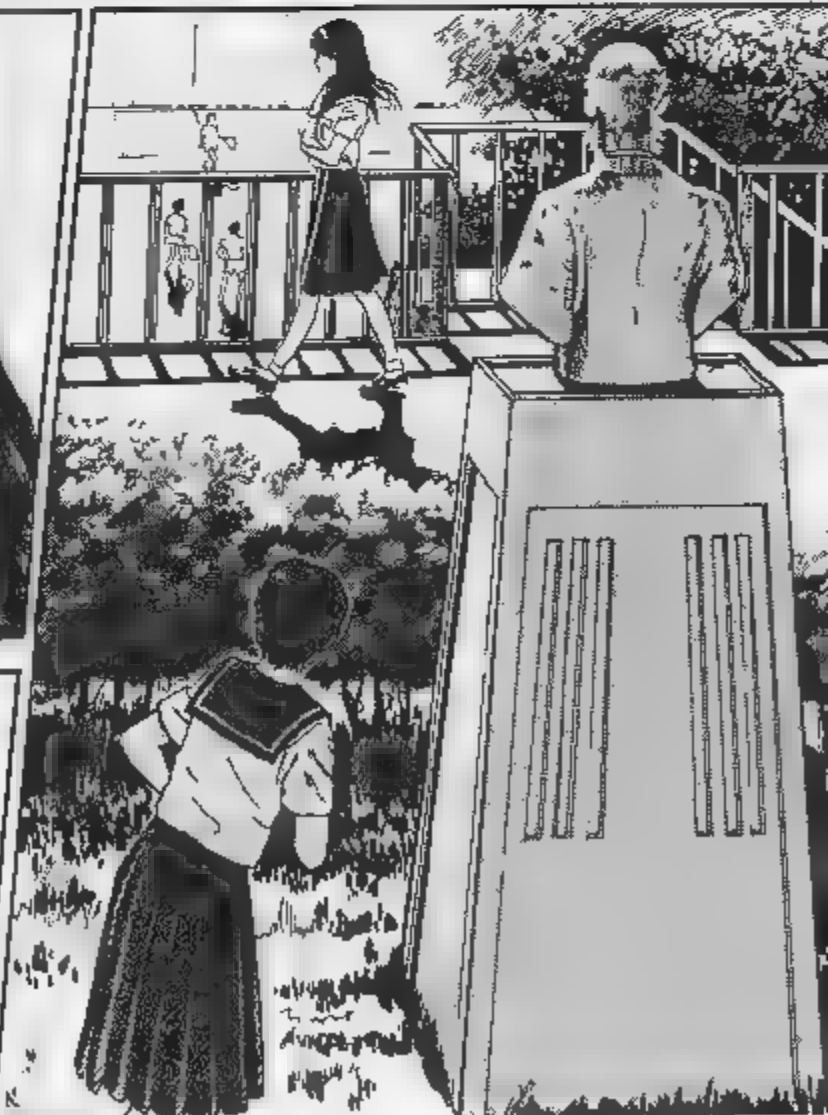


こうして
あなたへの
思いを綴_{つづ}つて
きた
私の日記
は……

今夜で
最終回を
迎える
わけね

なぐさめる
くさー

それにしても
あの女が
見つからないわ





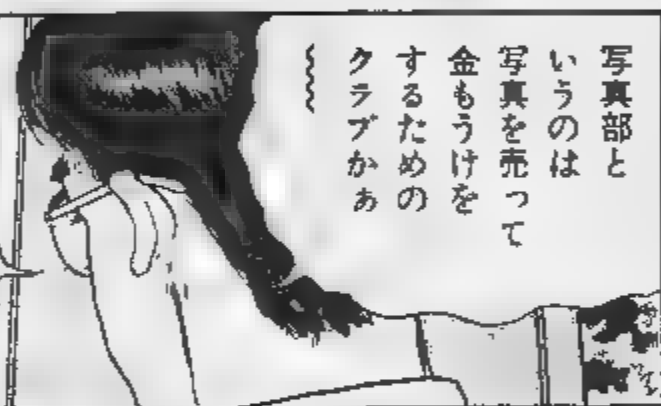




あつ
谷先……



泉沢……
オレは悲しいぞ
オレが顧問の
部に限って
こんなことする奴は
いないと信じて
いたあ……



写真部と
いうのは
写真を売って
金もうけを
するための
クラブかあ



お前は
あの暗室を
そんなことに
使って
いたのか……

ちがう
んです
先生

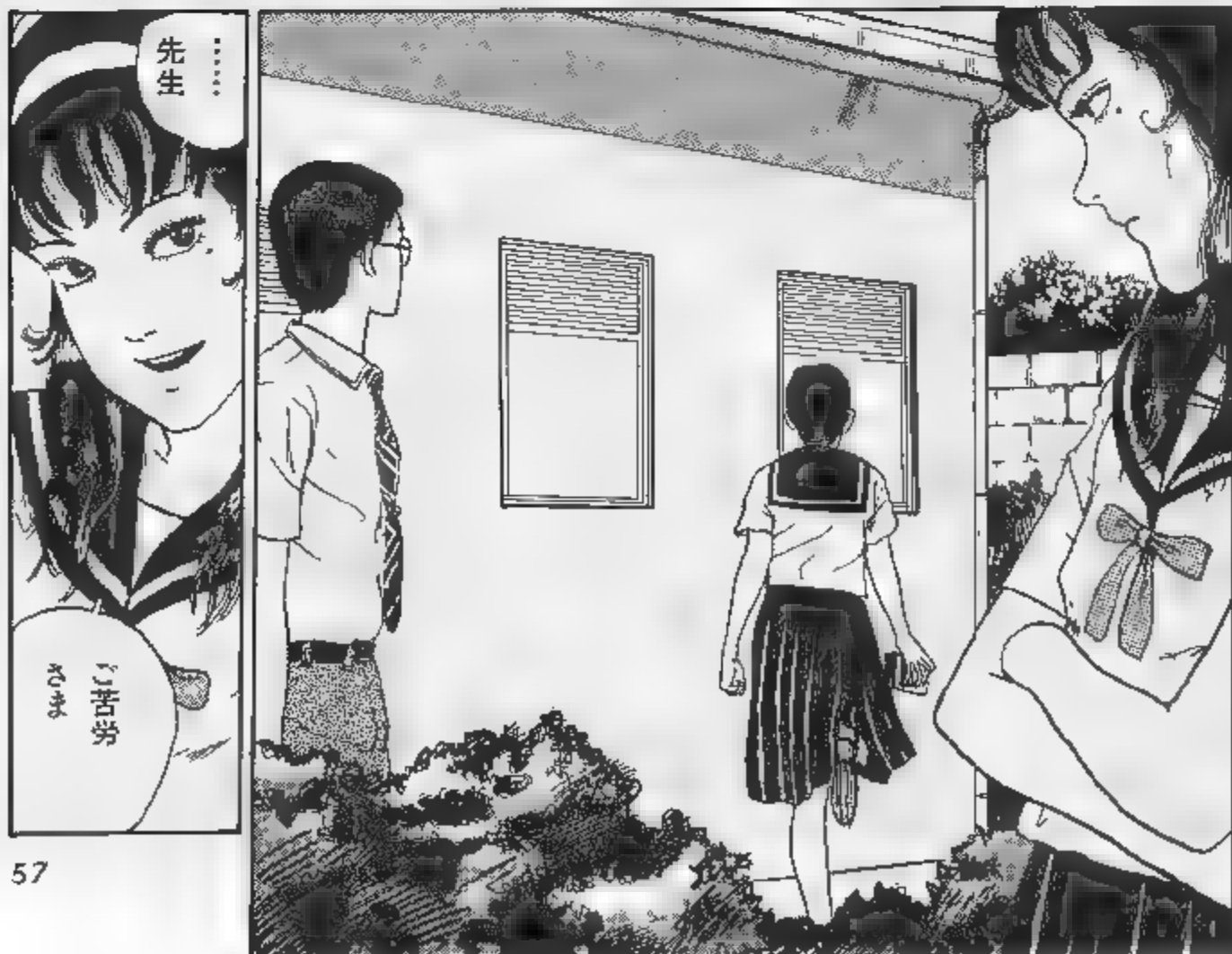


なにがちがう？
なにも
ちがわんでは
ないか

ふふふ
現行犯ね



あつ
待て……



結局私は
停学処分と
なつてしまつた

一週間家で
よくよく
反省しなさい
もう帰つて
よろし

はい

校長室

失礼
します

バタン

もう
最低……

……
それにしても
あの女……

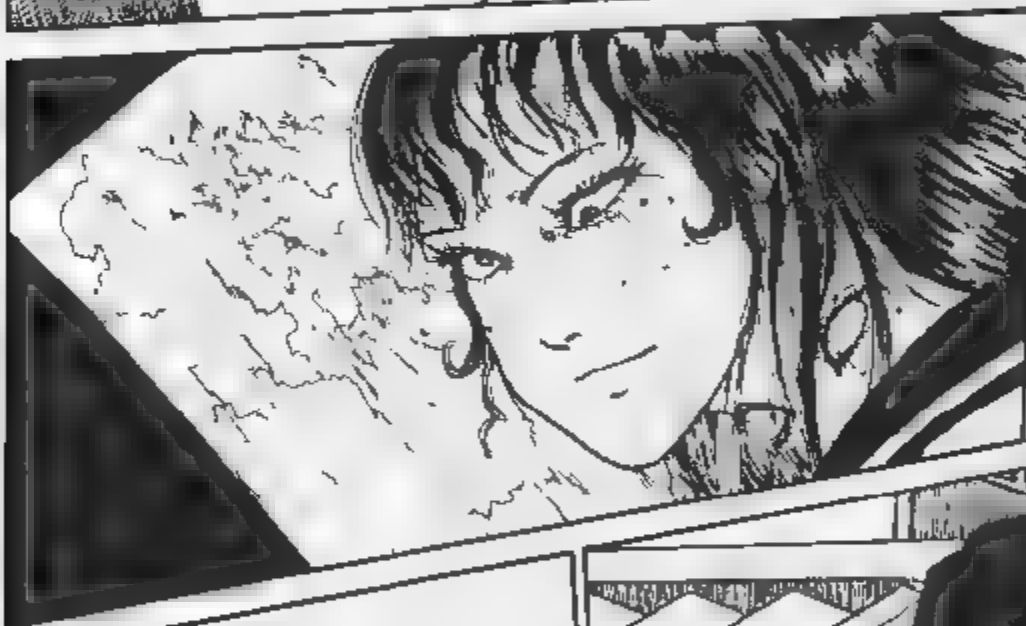
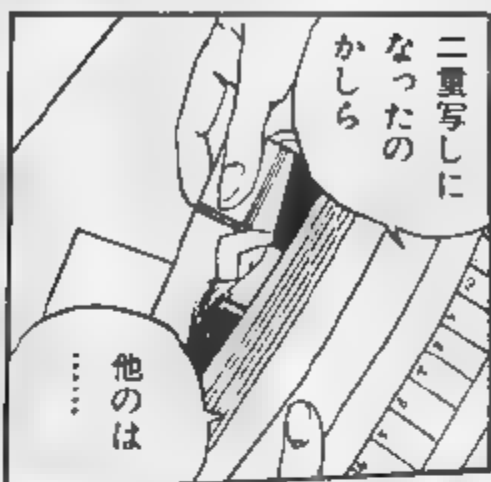
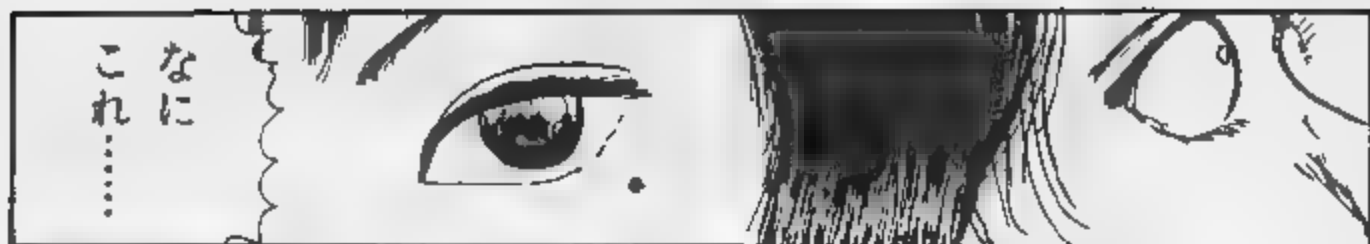
今に
覚えて
らっしゃい……

でもひとつ
気になる
のは……

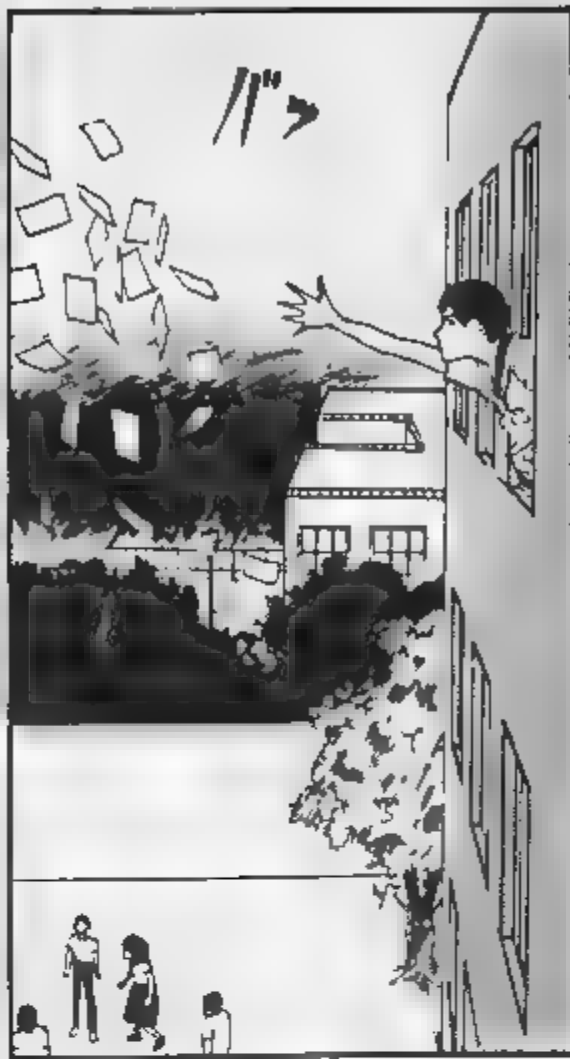
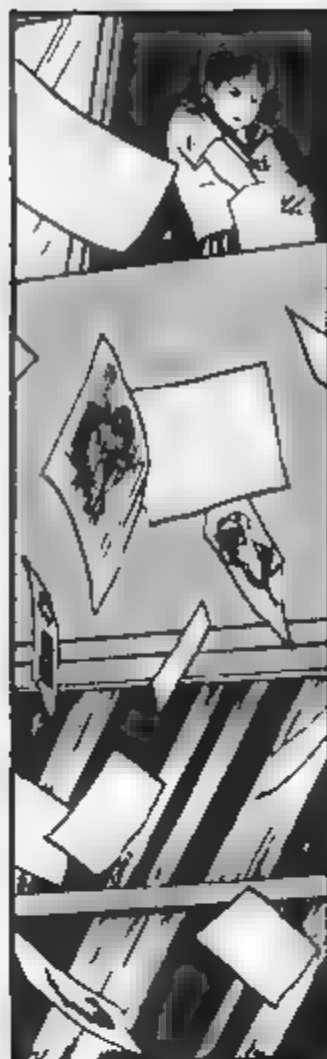
あれは
富江の策略
だったの
かしら

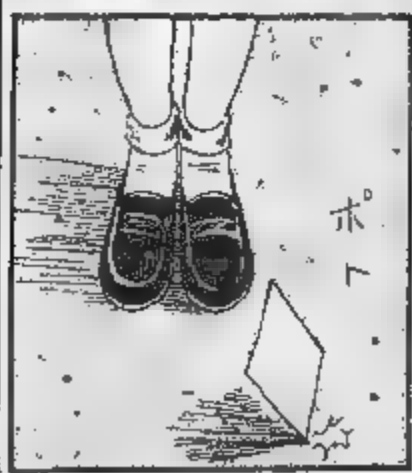
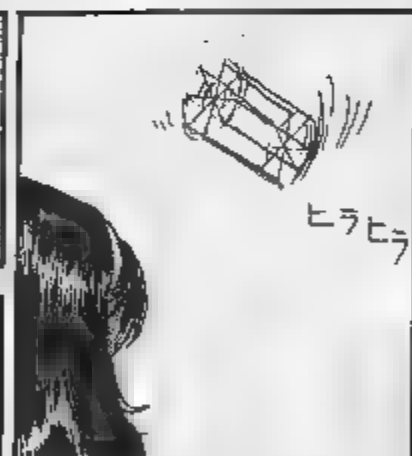
まさかね……
山崎先輩が
ぐるのはずは
ないわ













これで
お・し・まあい
……と

ざまあみろ
お望みどおり
バラまいて
やった



さあ
先生に
見つからない
うちに
退散だ

ガヤガヤ



ね……
あなたたち

お願いが
あるの……
聞いてくれる?

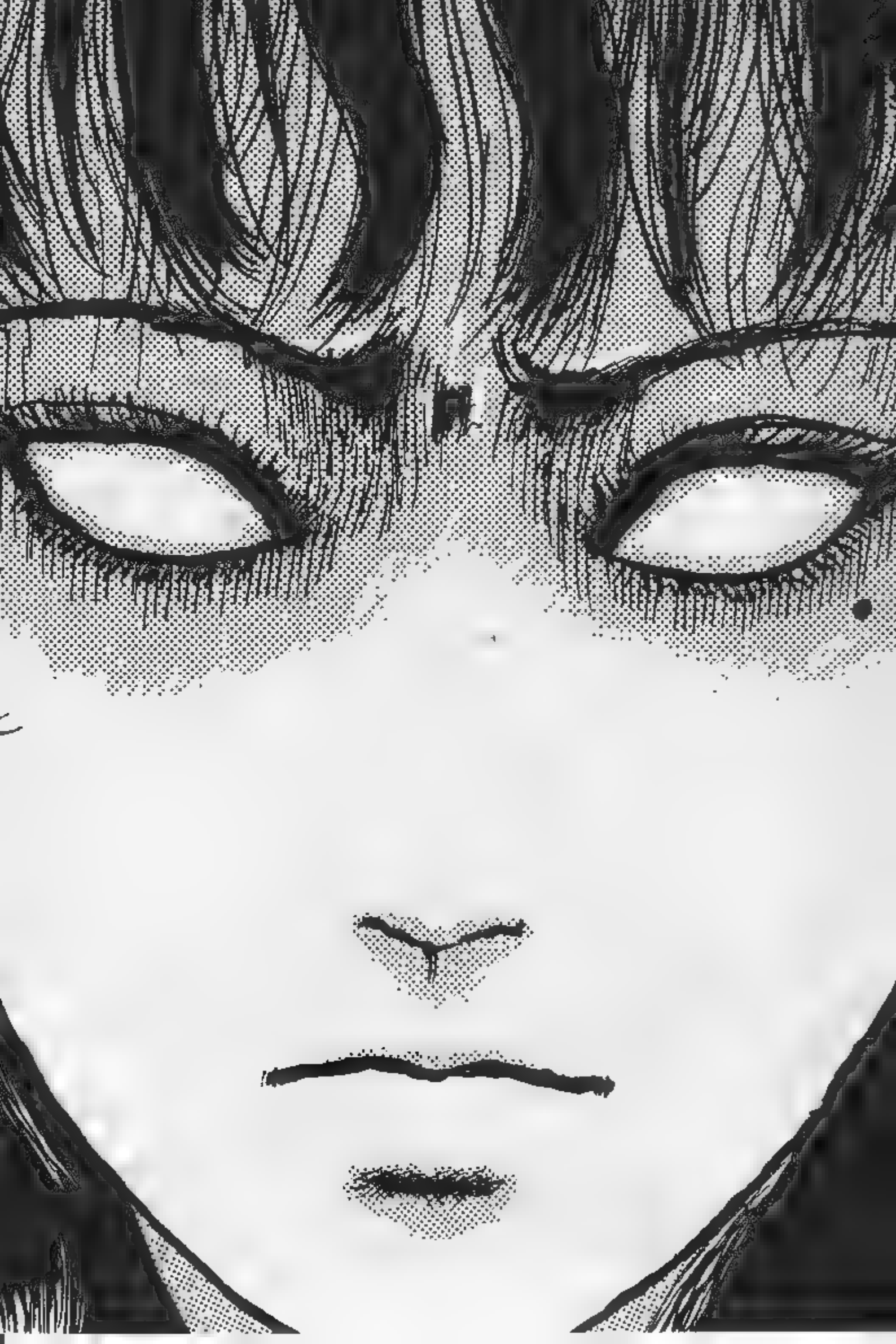


フフフ
あの女
どんな顔
するかしら

してやったり
だわ













山崎先輩……
ありがとうございます
ございました



でもいったい
どういう
ことかしら？

私を
暗殺
するだ
なんて……



ぼくも
連中の話に
耳を疑った
よ……

富江が
震えながら
「彼女を殺して」
と言ったんだ



富江って女……
妙な魔力
のようなものを
もっている

あの
とりまきの男子は
もはや彼女の
しもべとなっている

富江の命令
なら人殺しも
やりかねない

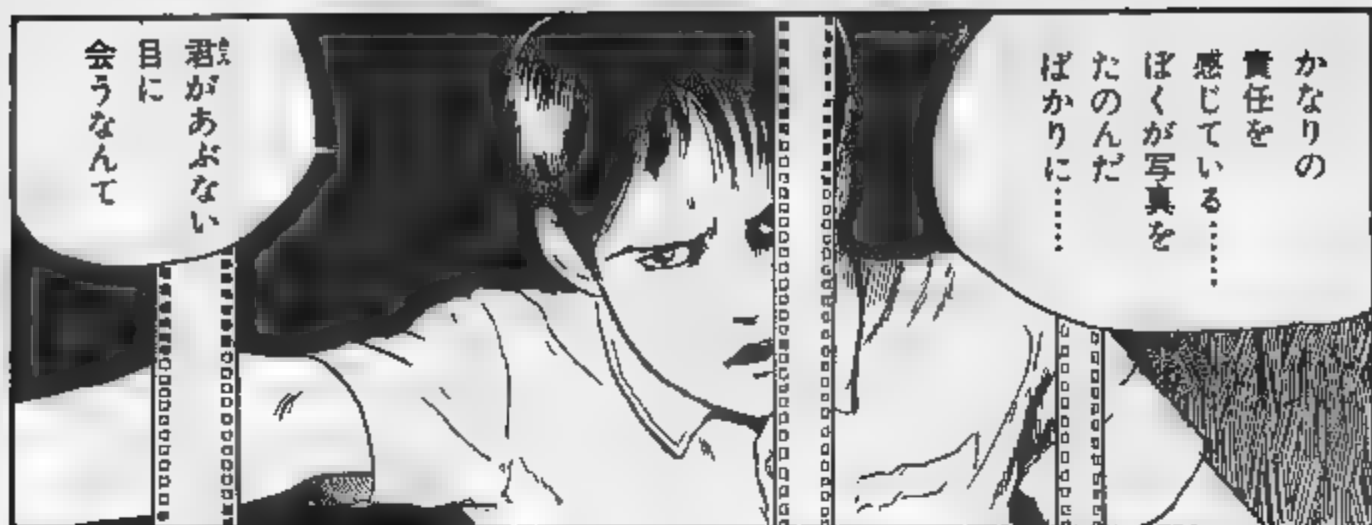


富江の不思議な
魅力に
とりつかれて
いるからだ

はずかしい話だが
ぼくもあやうく
彼女の魅力に
とりつかれる
ところだった



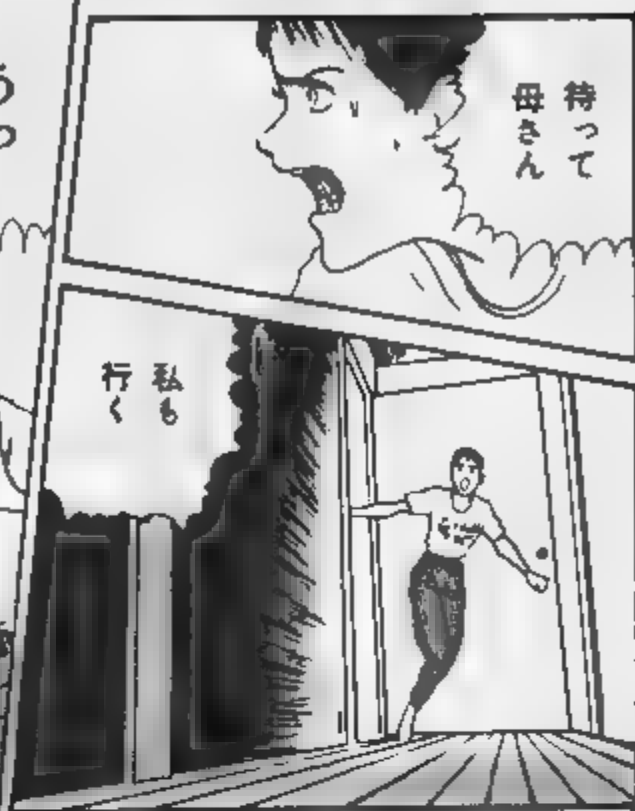
今回の
ことは



















ないわ……
それは
知り合い
から
いただいた
写真よ

……
そう



これは
ガウディね

あなた
スペインに
行ったこと
あるの？



ふうん
……

たいした
ものね



生まれは
フランス
だけど



私
ここへ来る前は
スペインに
住んでいたのよ

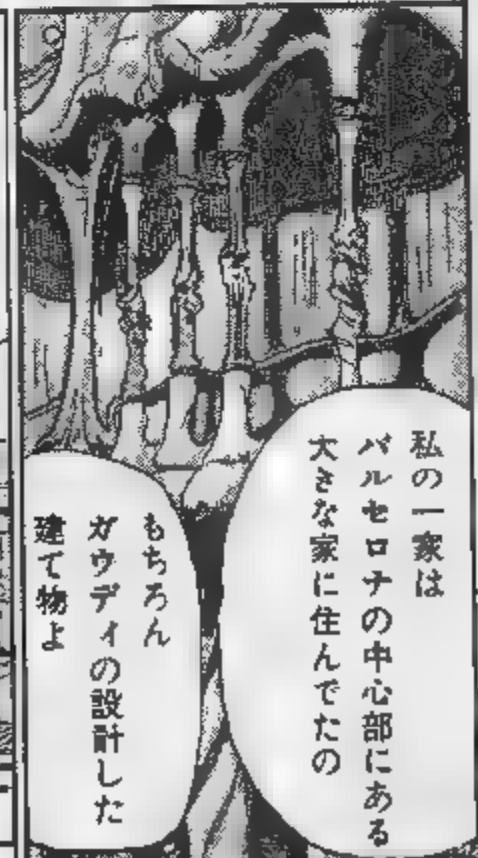


私の家に
ピカソと
一緒に写った
写真が
あるわ



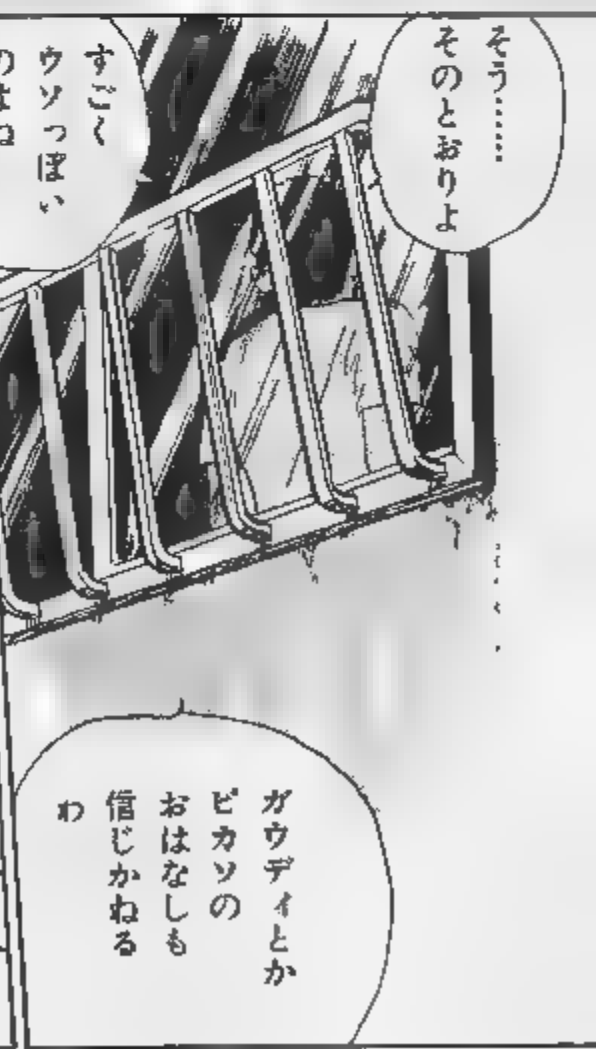
私のお母さまは
……
もう死んじゃった
けど……
有名な女優
だったし
……

祖父は画家で
もって
ピカソと
親友だったのよ

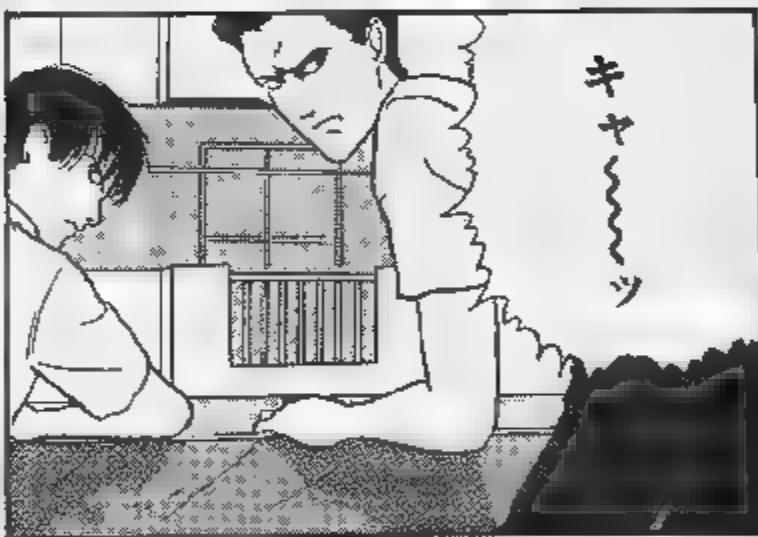


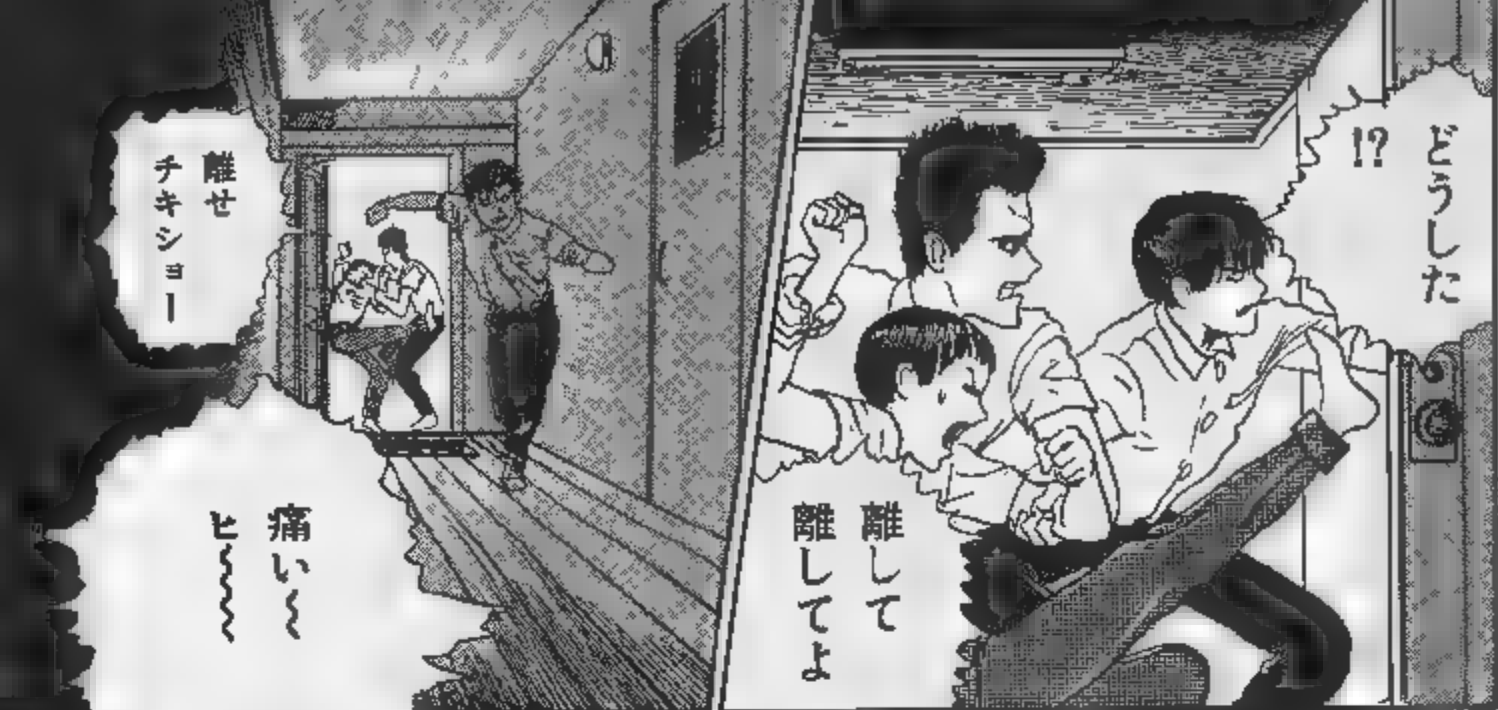
私の一家は
バルセロナの中心部にある
大きな家に住んでいたの

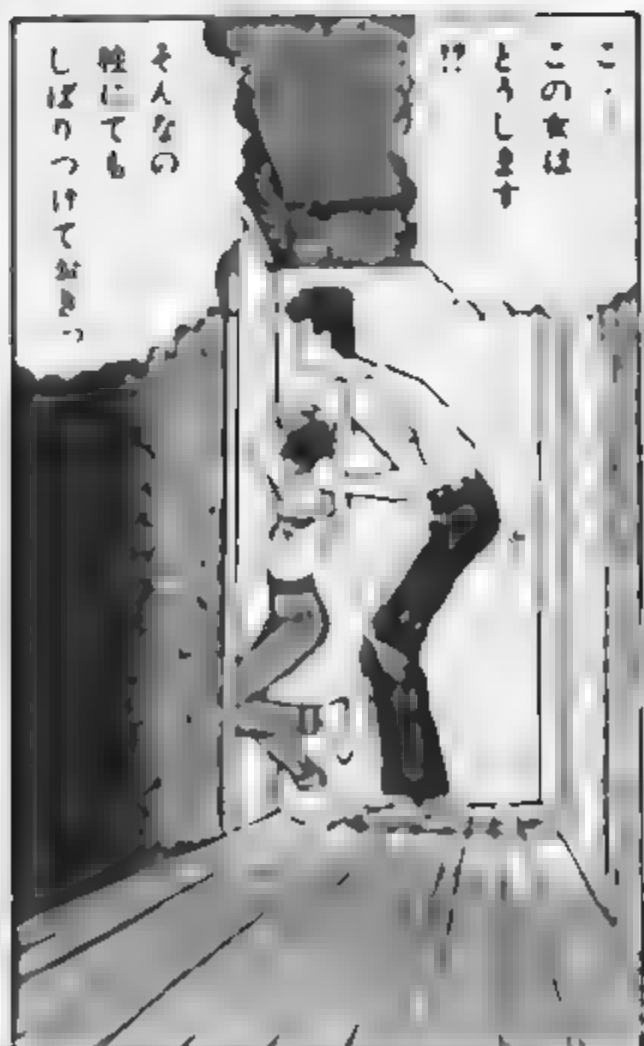
もちろん
ガウディの設計した
建て物よ



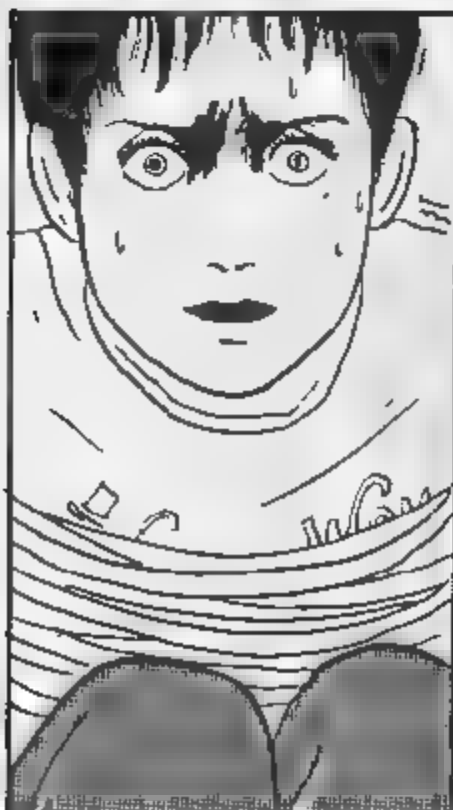


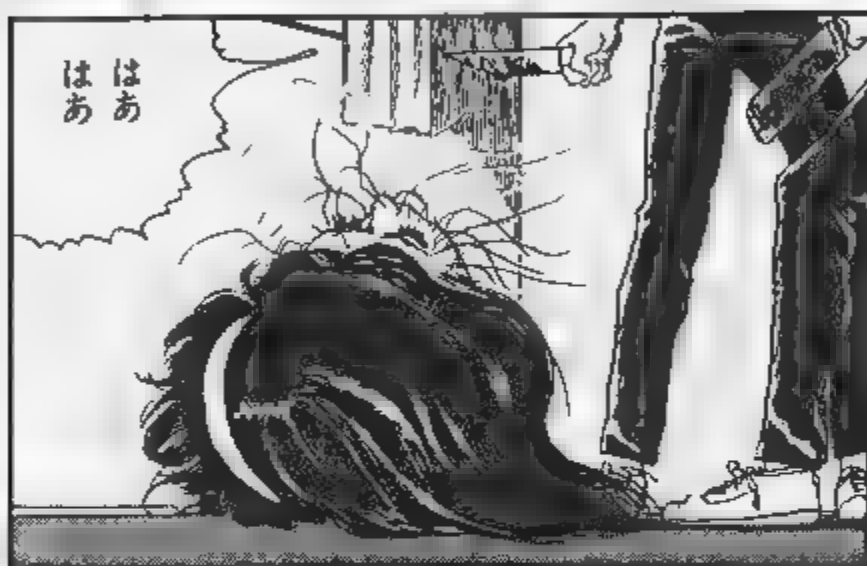
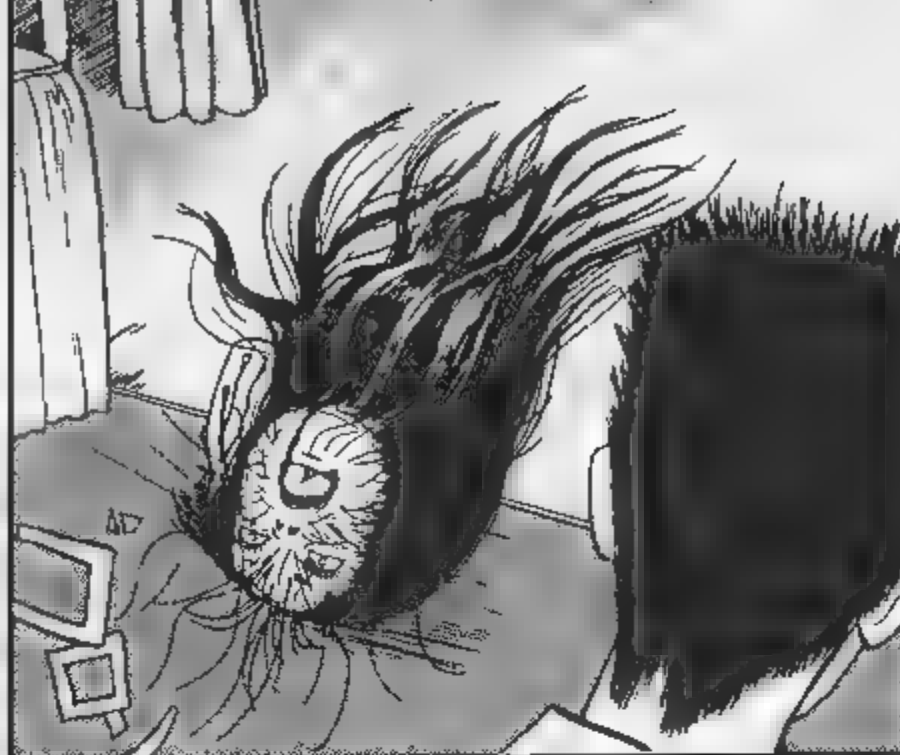






富江・写真









いや…
見ていた…
視線感じた
もんな

ああ…
それにこいつさつきから
カメラでオレたちのこと
撮ってたんじゃないのか？



富江さんは…
こいつのこと
殺す計画だった
んだぜ…

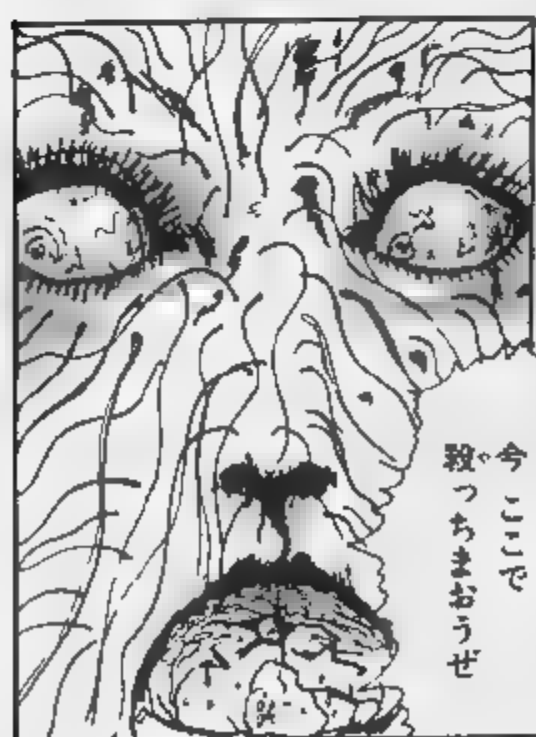


ええっ
そいつあ
まずいな

なにしろ
かくし撮りの
名人だぜ



ああ…
富江さんの
屋敷でな



太地
今ここで
殺っちまおうぜ



富江さんはな…
美しいんだ…
女神なんだ



富江さんを
怒らせた
からだ

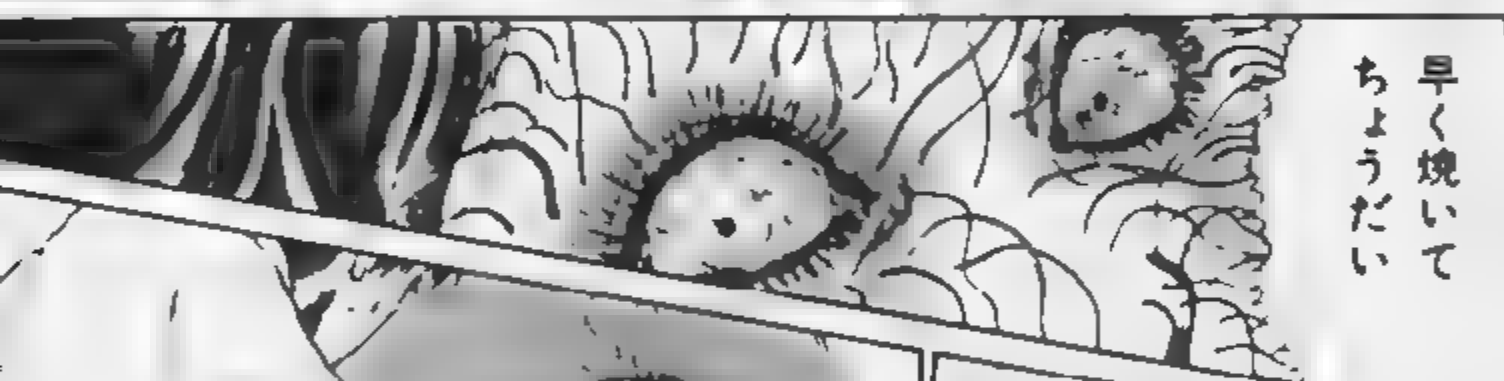
あんなバケモノ
みたいな写真
撮りやがって



太地君
木股君

はっ

なに
してるのっ
!!



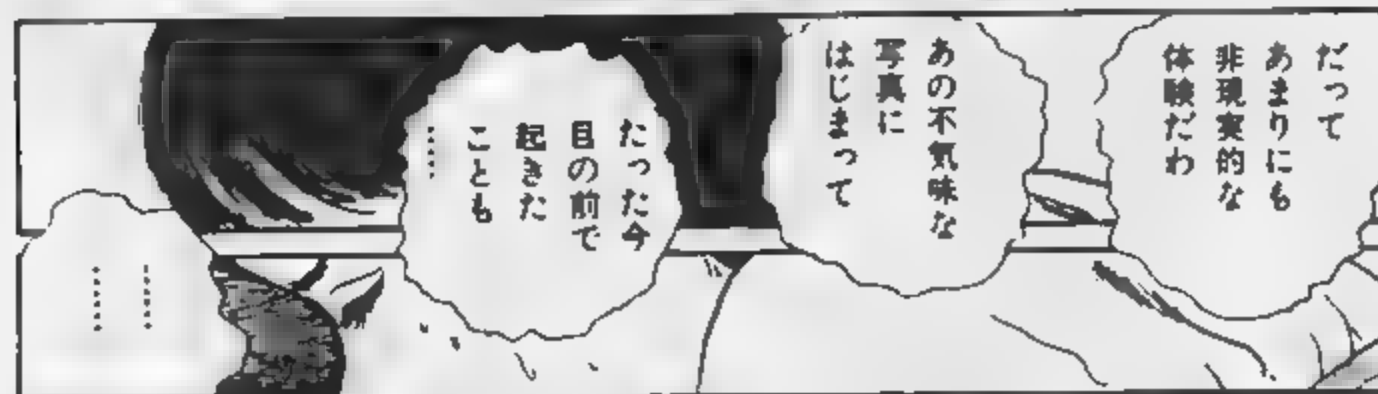
早く焼いて
ちょうだい



早くしないと
また目を
覚ますわ



早くこの
で・き・もの・を
焼きはらって

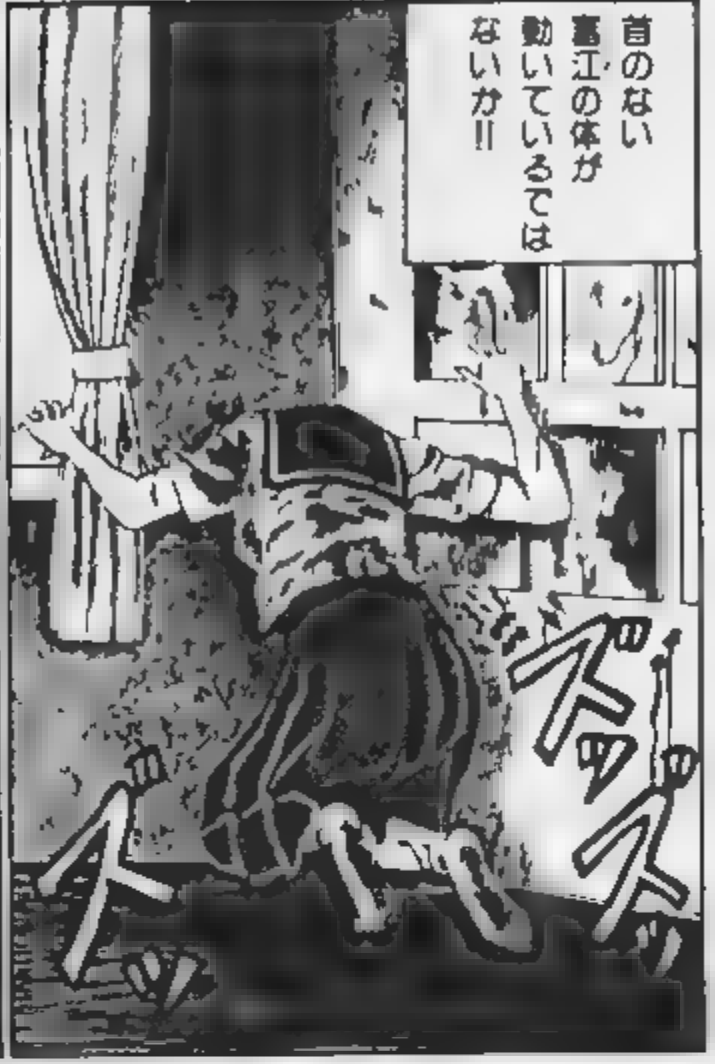




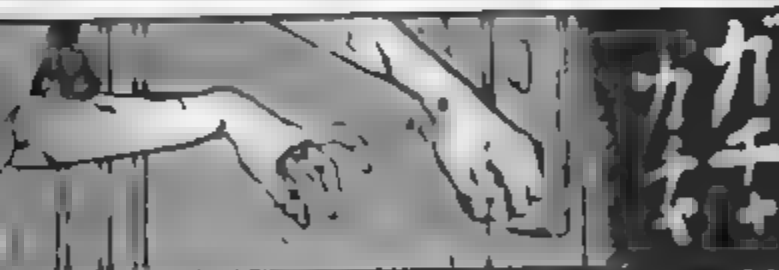
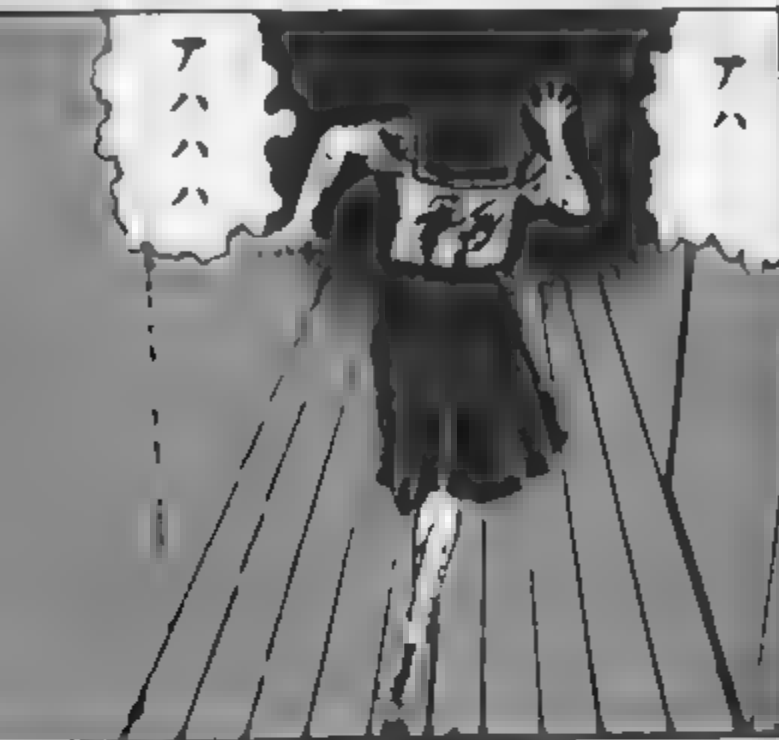
私は
妙な音で
目を覚ま
した・?

どれくらい
気を失って
いただろうか
:











あつ
とれた



アハ...ハ...アハ

よっ



...
でも
写真が
だいなし

朝起きて
やっぱりこんな風
だったら
困るから

しかし
四散した
富江のどす黒い血は
いくら拭いても
きれいには
とれなかつたのです



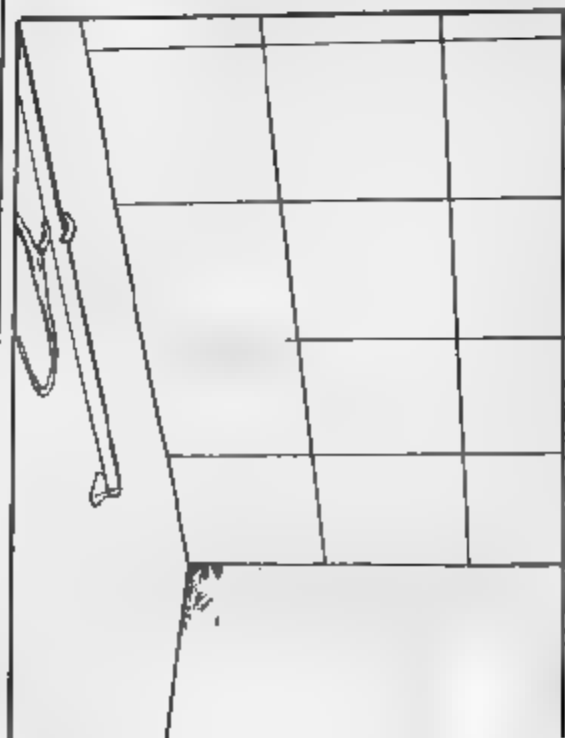
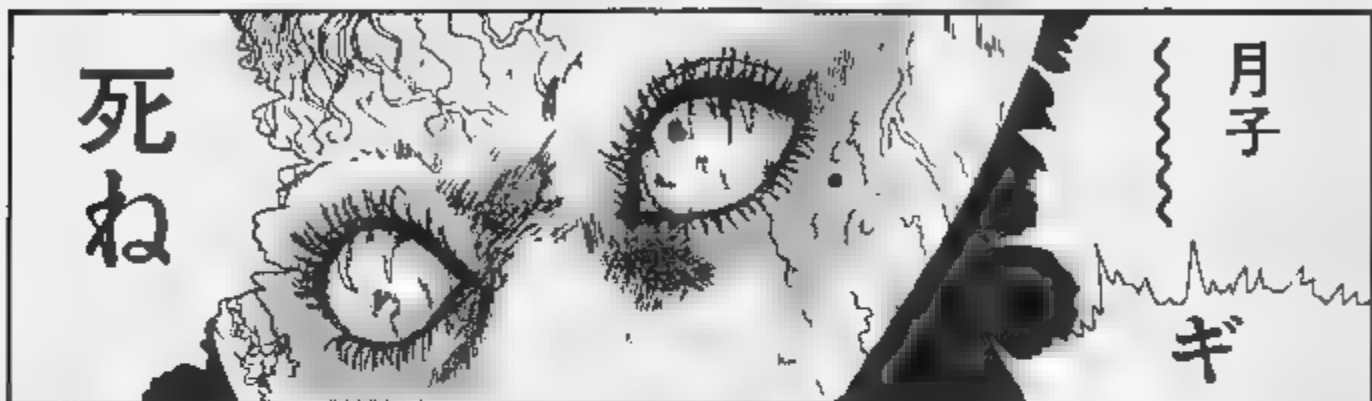
そうじ
しところ

夢だろ
うとは思
うけど
念のた
めに

アハハ







富江が
この部屋で
バケモノに
なる夢だ

この部屋で
富江が

太地君と
木股君に
首を切られて
殺されたと
思ったら……

あっ！

富江の血痕が
残ってる！

ゆうべの
ままだ

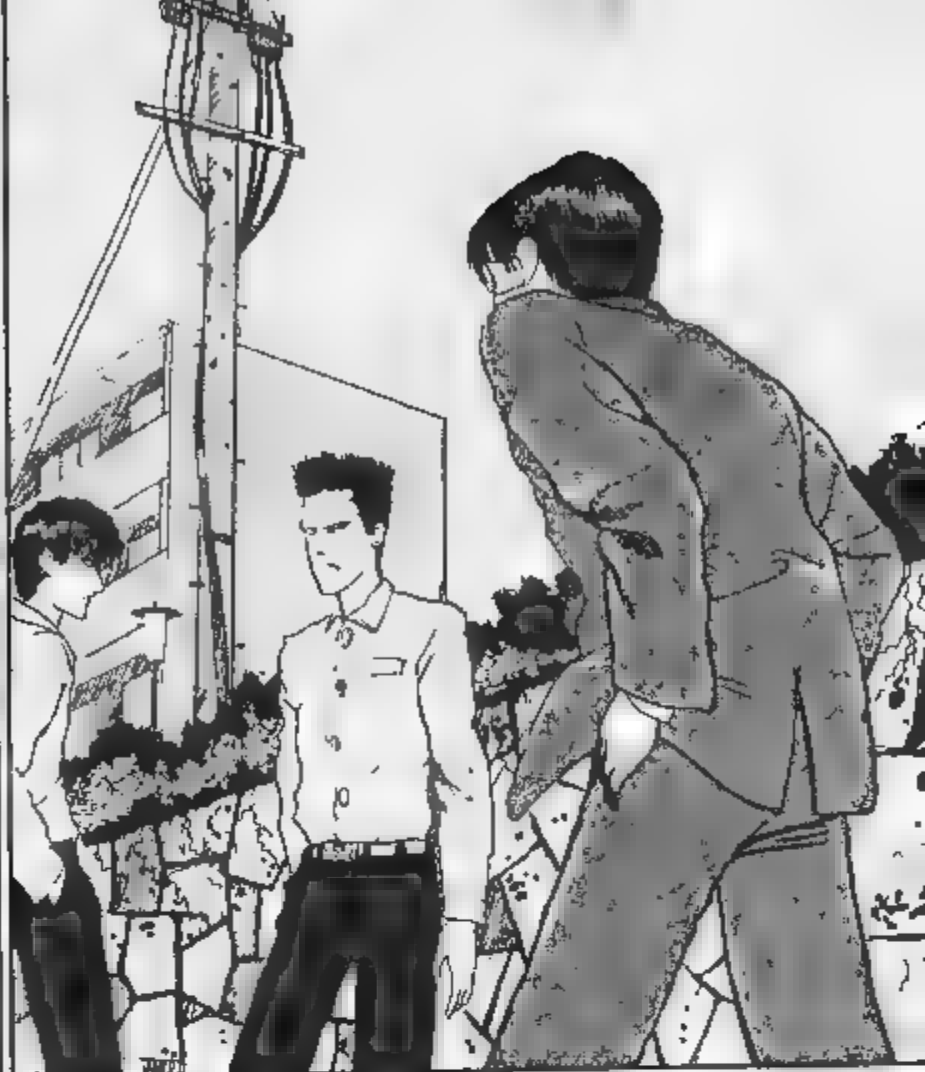
夢じゃ
なかった
のか……

やっぱり
……

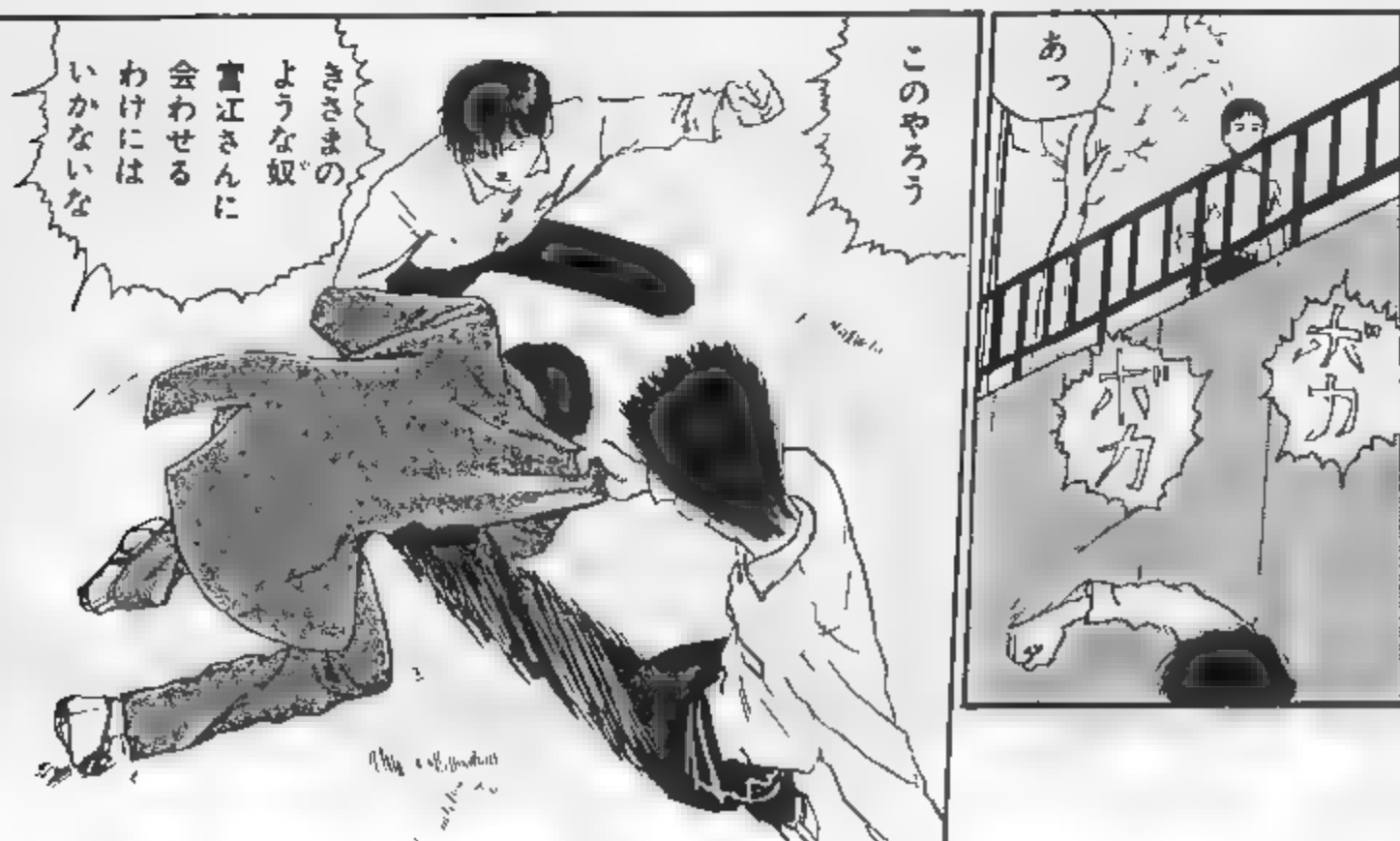
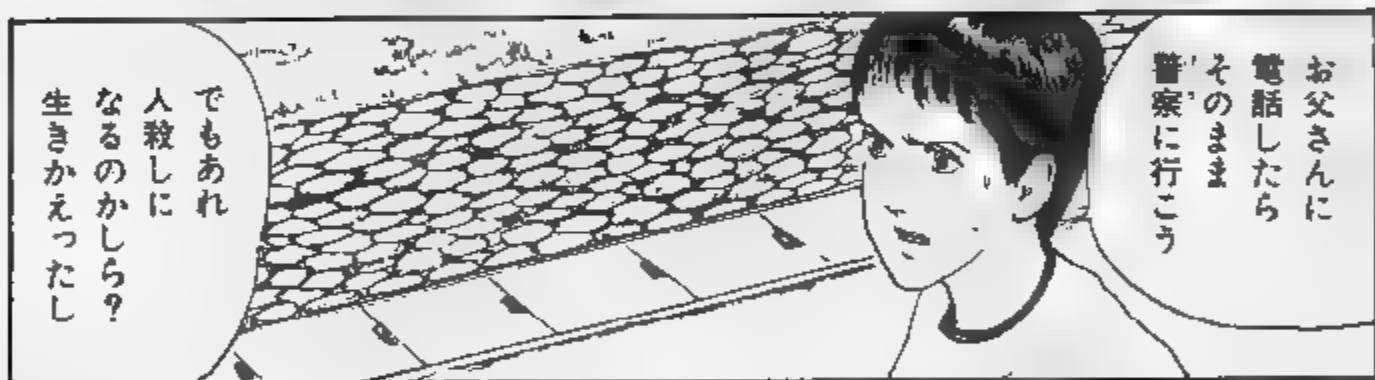
早く
お父さんと
お母さんを
呼ぼう

赴任先に
電話して





宮江・接吻



泉沢を
殺しそこねた
だろ？

きさまなんか
殺しを
頼んだ覚えは
ないぞ

……
頼む……
一度だけで
いい……
会わせて
くれ

だまれ

山崎とか
言ったな

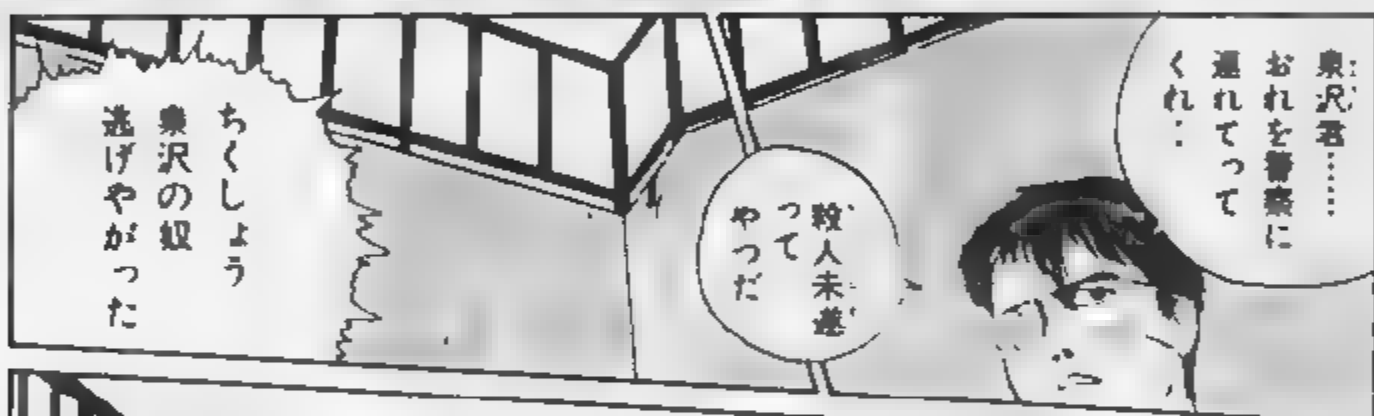
二度と
オレたちの前に
姿を現わすな

山崎
さん！

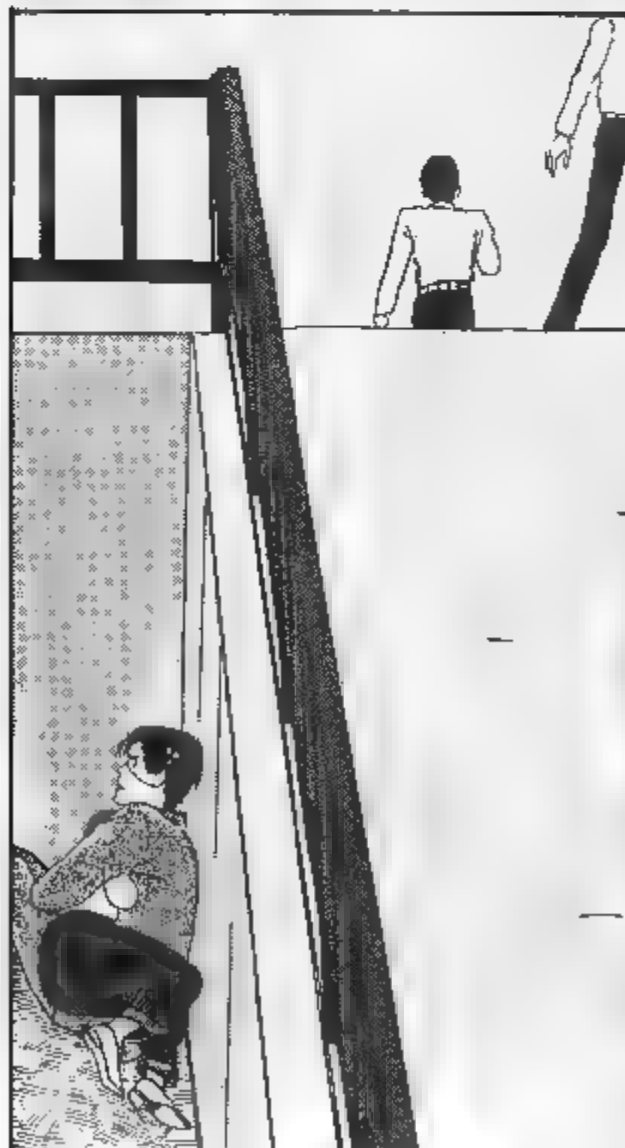
木股！
急げ！

泉沢が
逃げてしまうぞ





富江・接吻





さあ泉沢君
……
警察に
連れていってくれ
……
今のうちだ

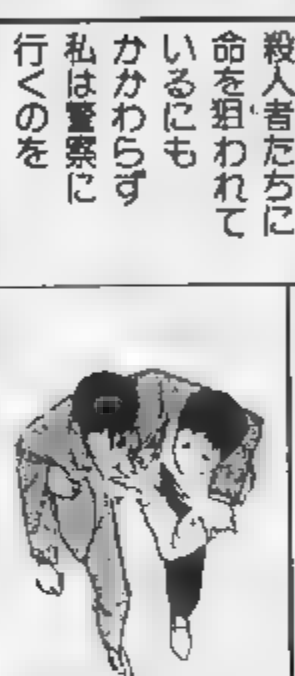


山崎さん……
それより
手当てを……
ひどいケガ
だわ

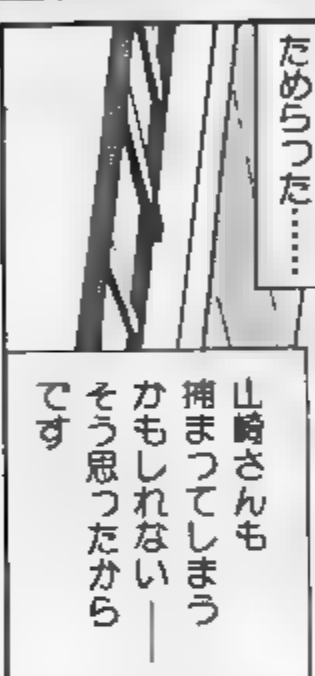
私の家に
救急箱が
ありますから



いけないわ
……
熱がある



殺人者たちに
命を狙われて
いるにもか
かわらず
私は警察に
行くのを
ためらった……



山崎さんも
捕まってしまう
かもしれない——
そう思ったから
です



警察はおろか
両親に連絡する
ことさえも……

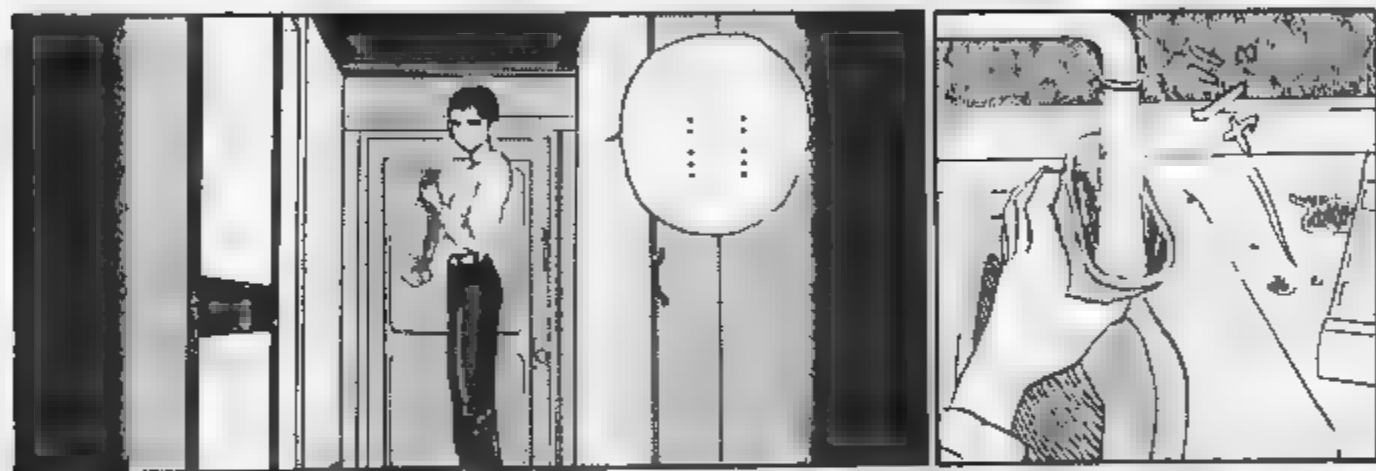


しまった
カギかけるの
わすれてたんだ

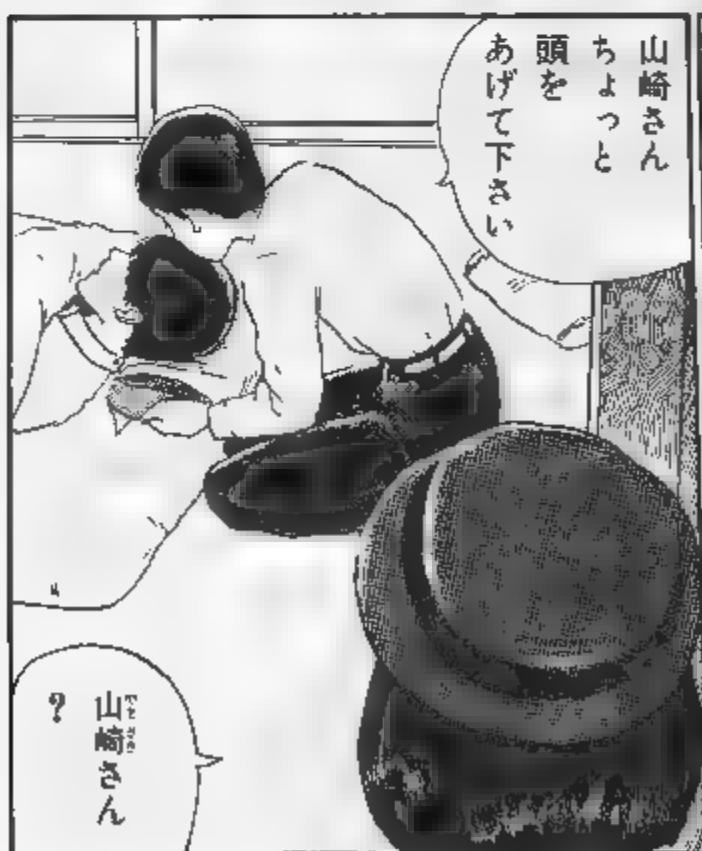


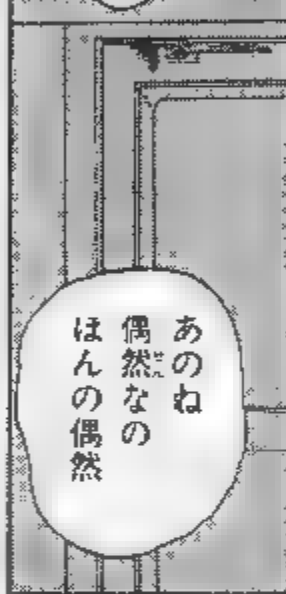
あいつらの
しわざだわ

ひどい
メチャクチャ
だわ



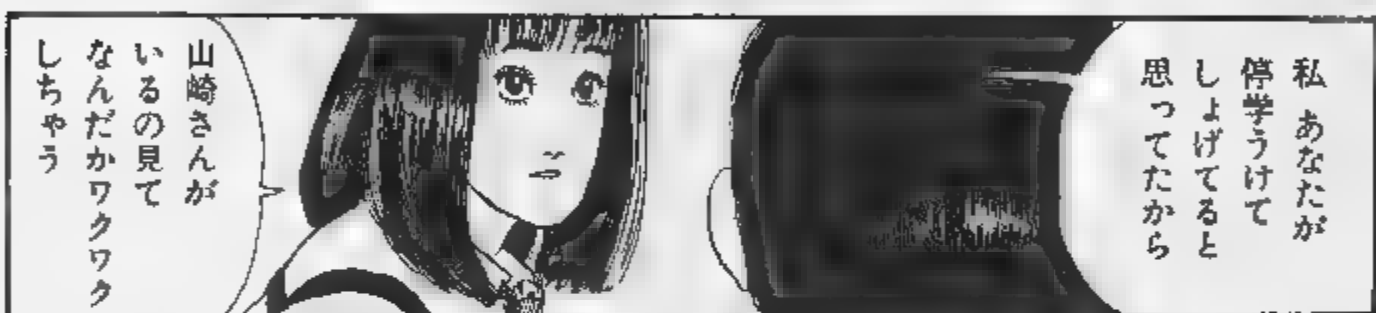




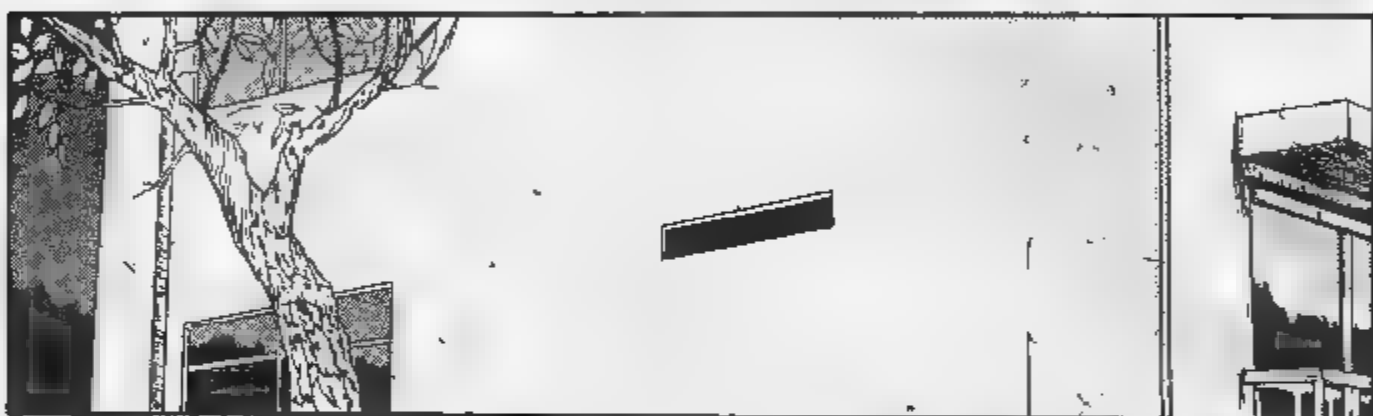


富江・接吻



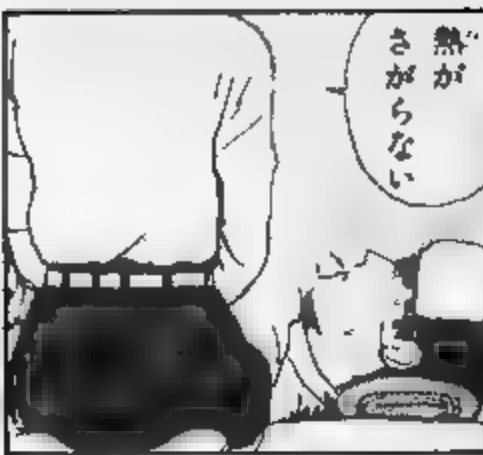


富江・接吻

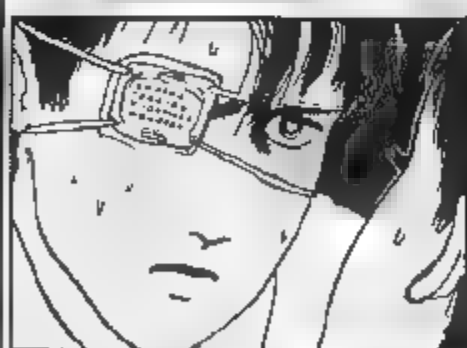


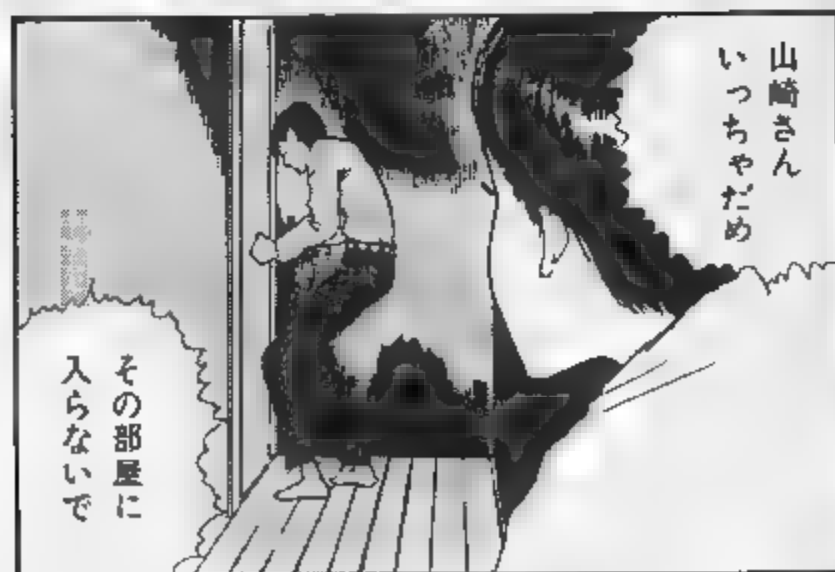






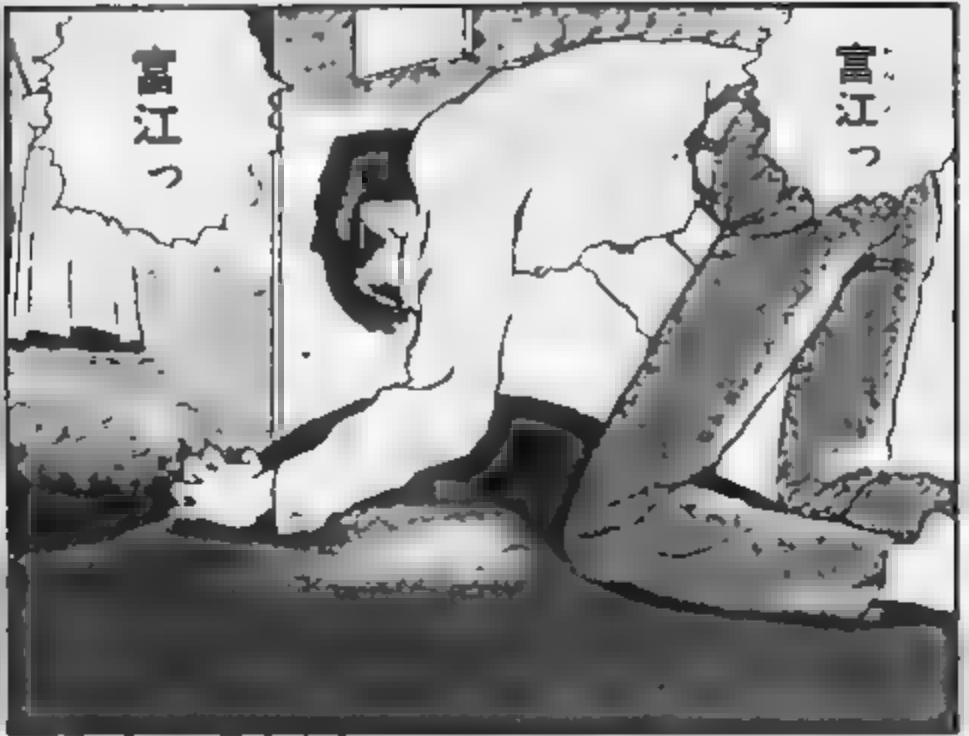
富江・接吻







富江っ



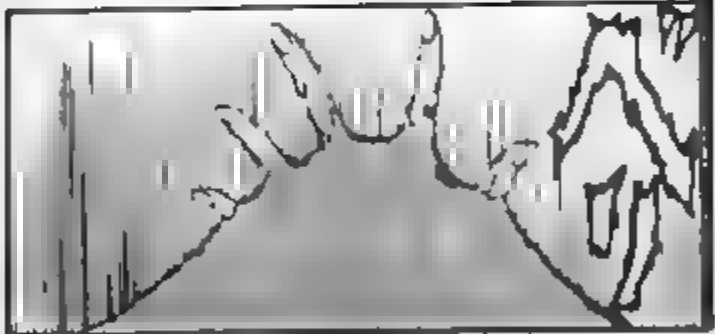
富江っ

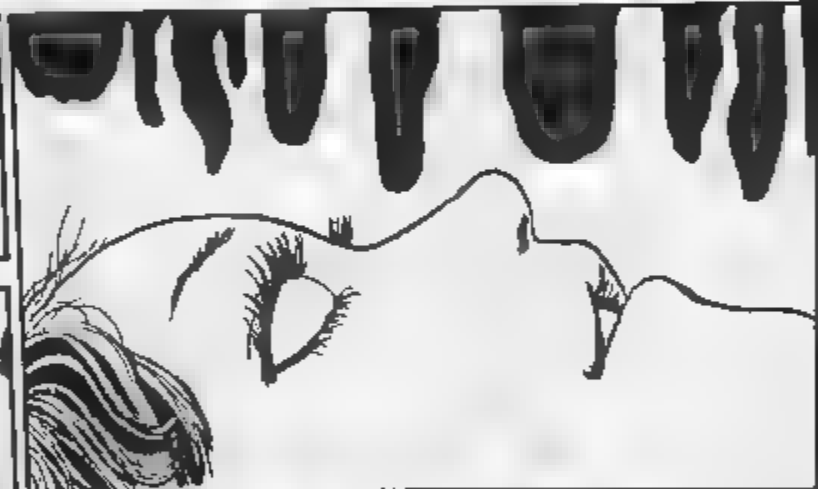
カーペットが
盛りあがって
いる……



山崎さんが
しやがみ
こんだのは
ちよんど 富江の
血が大量に
流れしみこんだ
場所だった

富江っ







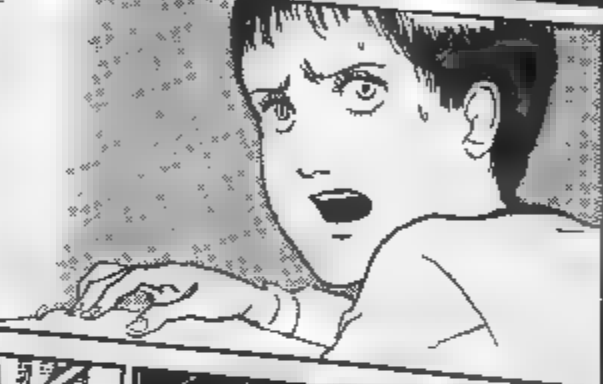
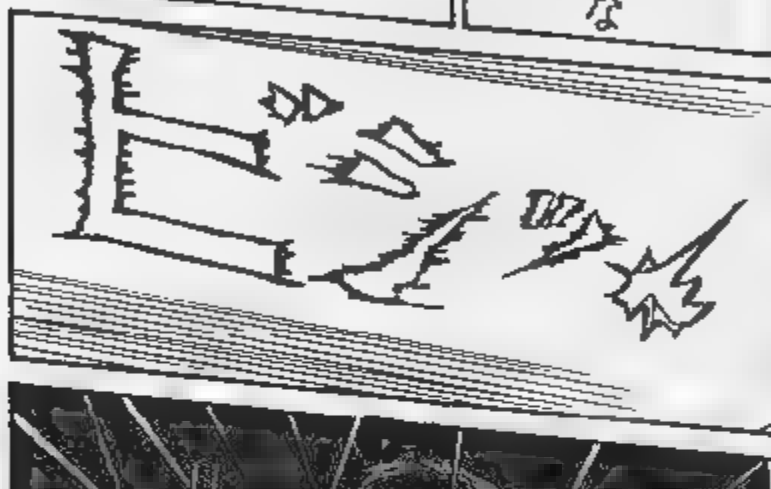




やめて
山崎さん
目を覚まして



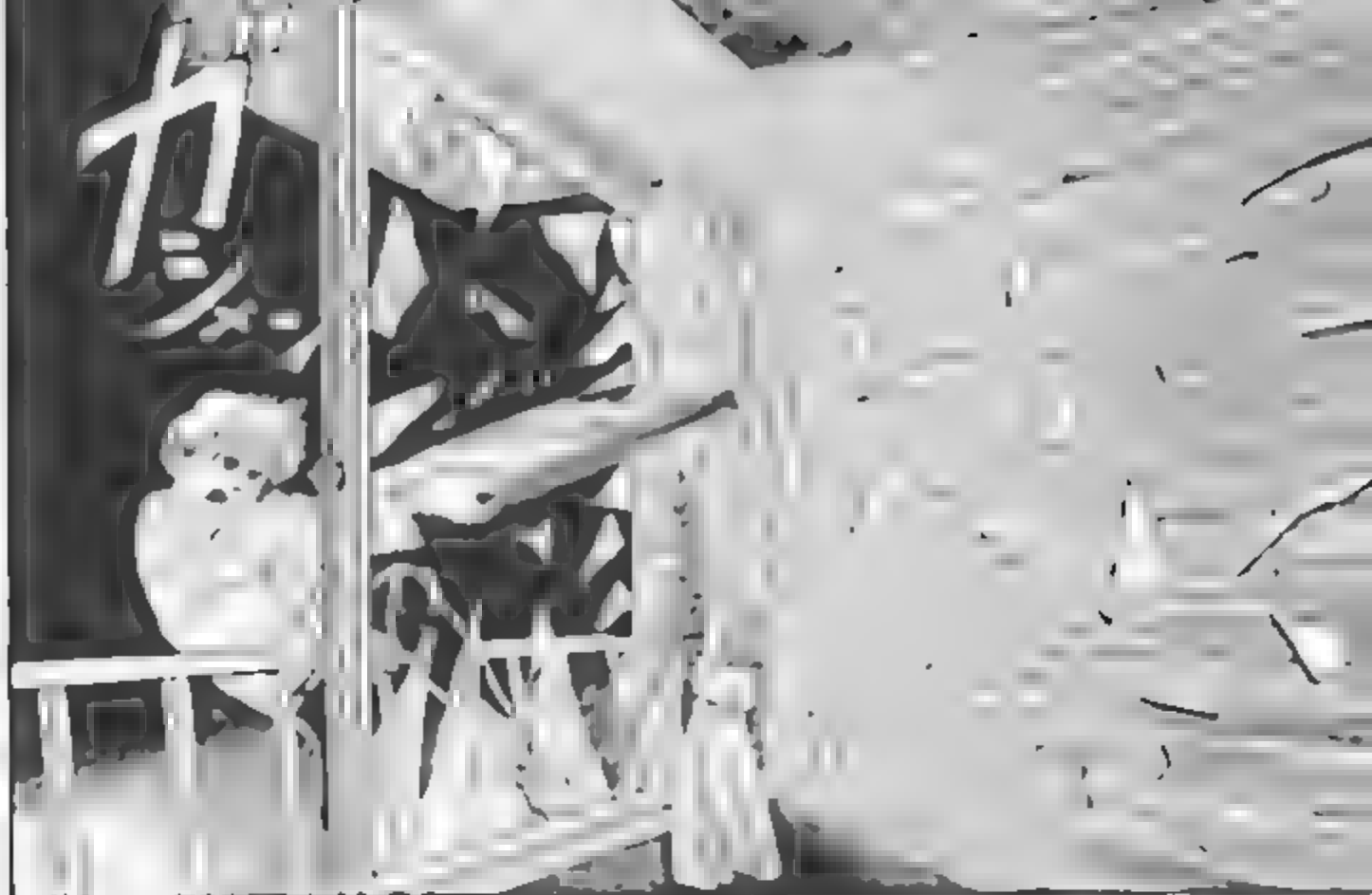
ホホホ
なんて
かわいそうな
月子さん



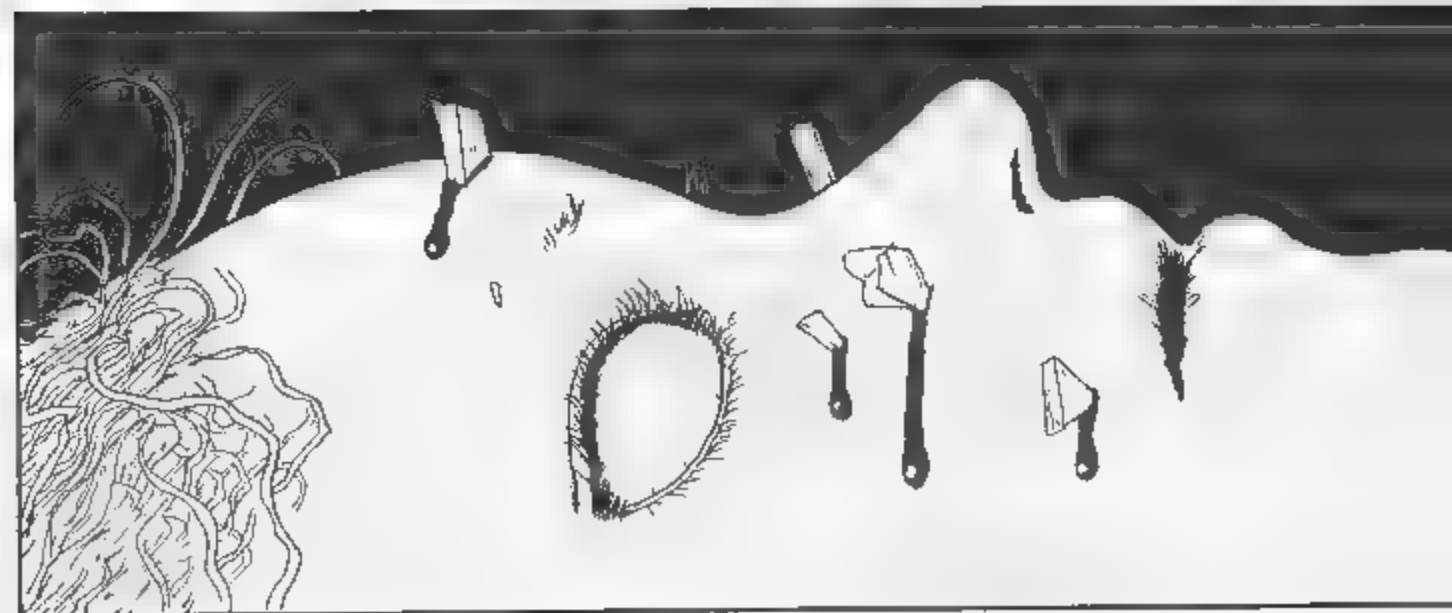
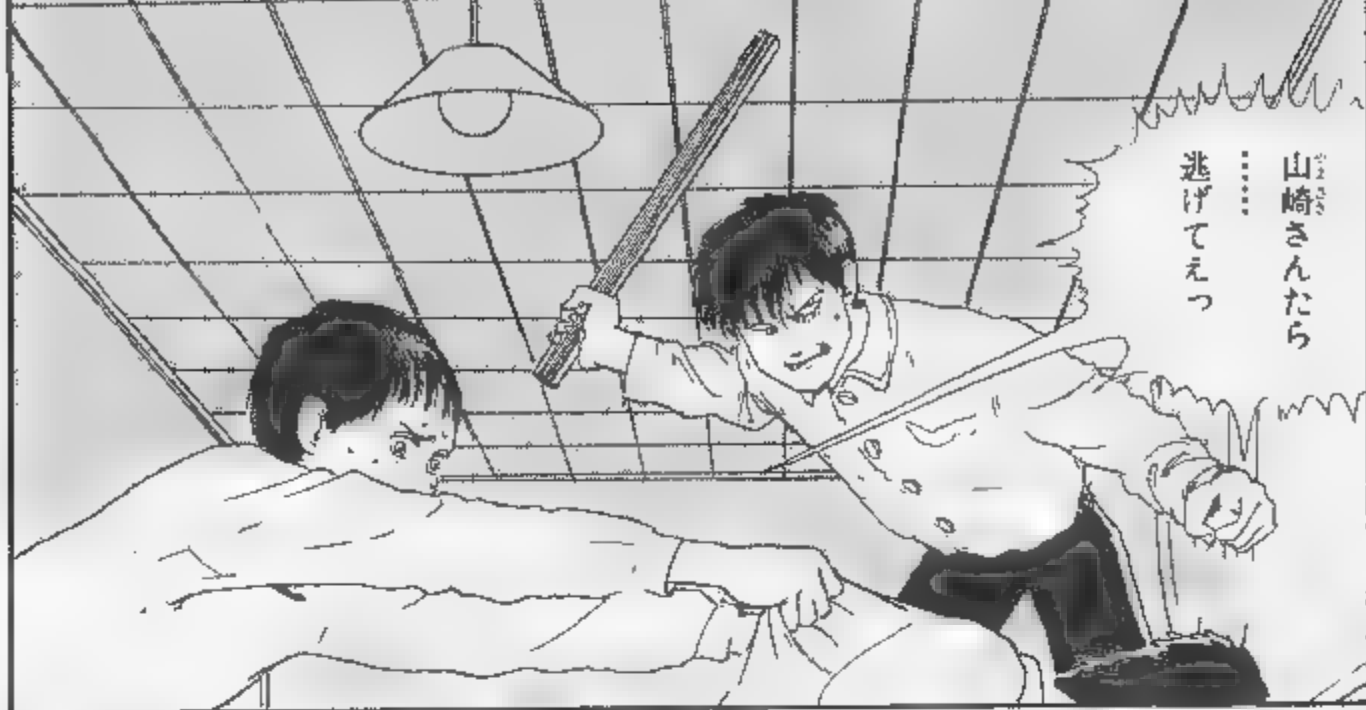
木股君!!

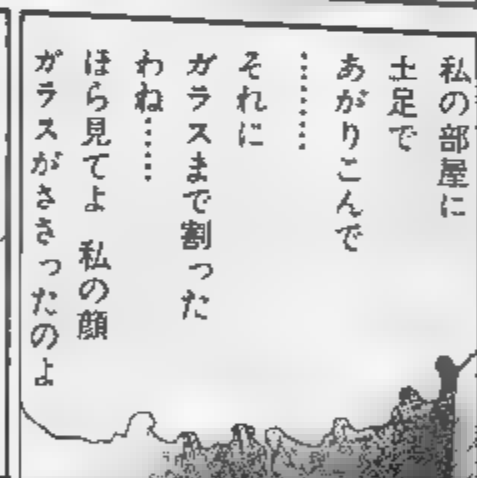
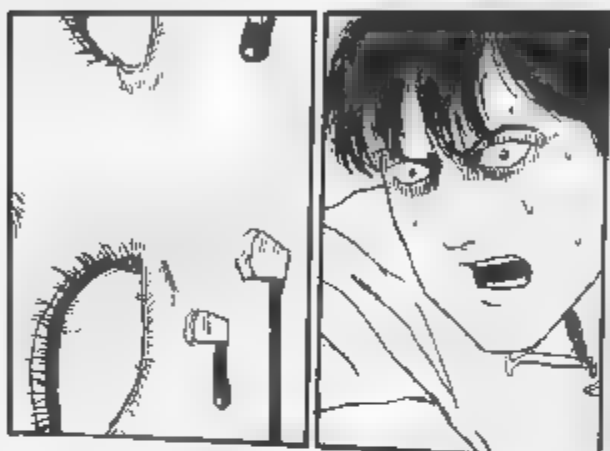














と…
富江
さん…



アカが
つくから
寄らないでっ



汚い
のよ
あなた



あなたって
不潔だし
下品だし
失礼で
最低よ

私に
不快感を
与えないで
ちょうだい



はいっ…
以後
気をつけ
ます！

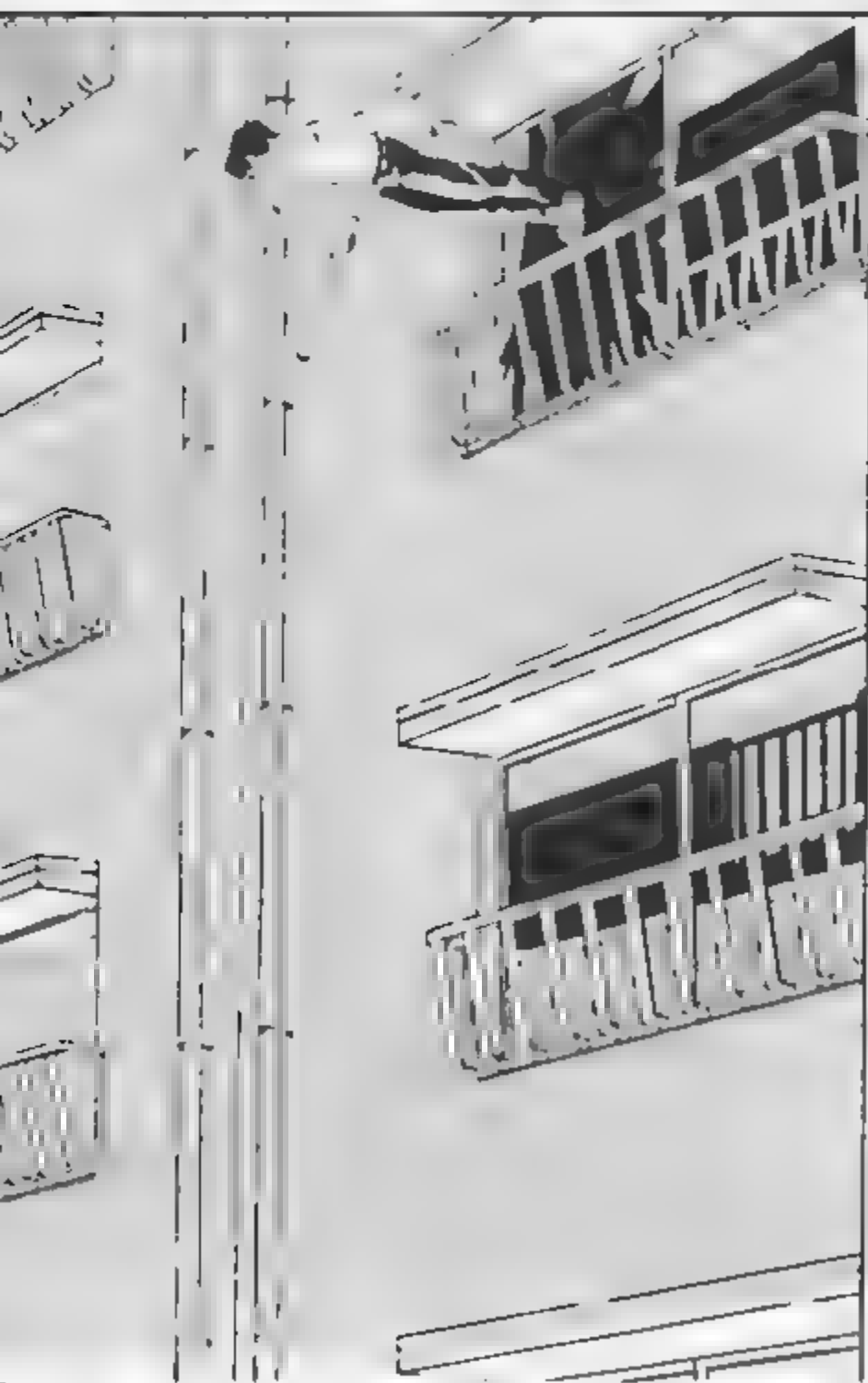


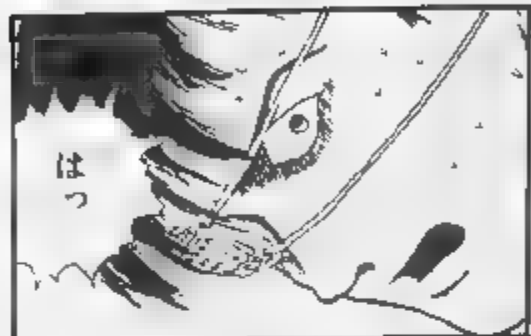
気をつけなくて
いいわよ
もう
あなたに
用はないん
だから

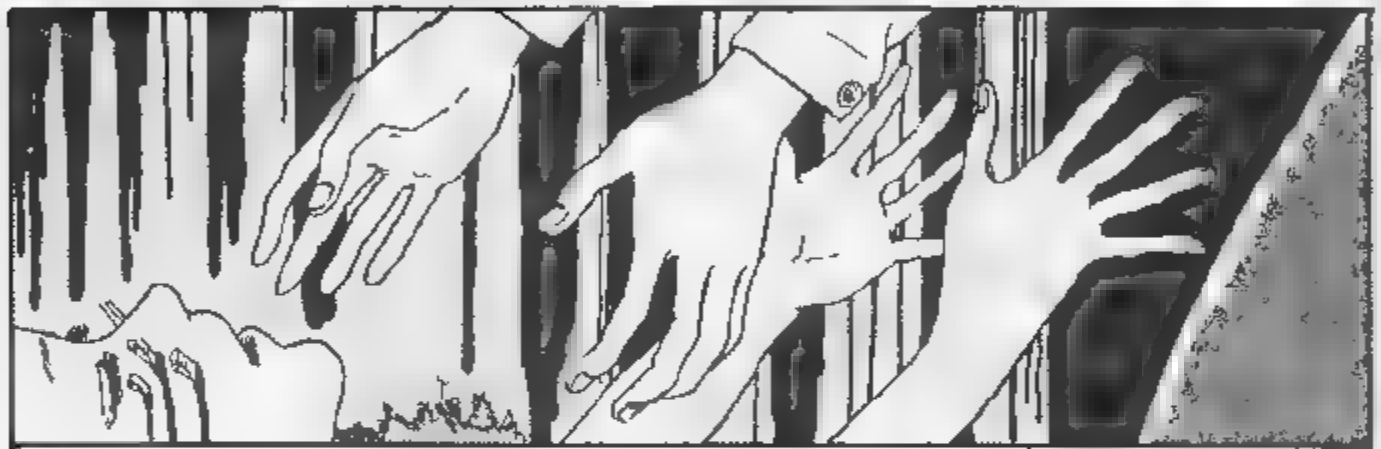


さあ…
帰ってちょうだい
その鉄パイプを
持って

どこか遠い
所へ
旅立って
ちょうだい











富江
なんて恐ろしい女
いや
女じゃない
得体の知れぬ
生き物なのだ

次から次へと
同じ顔をした
富江そのものが
何人も現れる
まるで切つても切つても
生えてくる
トカゲのしつぽのように



あるいは
幽霊なのか

それとも
魔女か

そしてあの
不気味な
富江の写真は
心霊写真
だったのだ
ろうか

いずれにせよ
山崎さんは
完全に
とりつかれて
しまったのだ



山崎さん

かわいそうに
富江……
ガラス片が
たくさん
ささってる

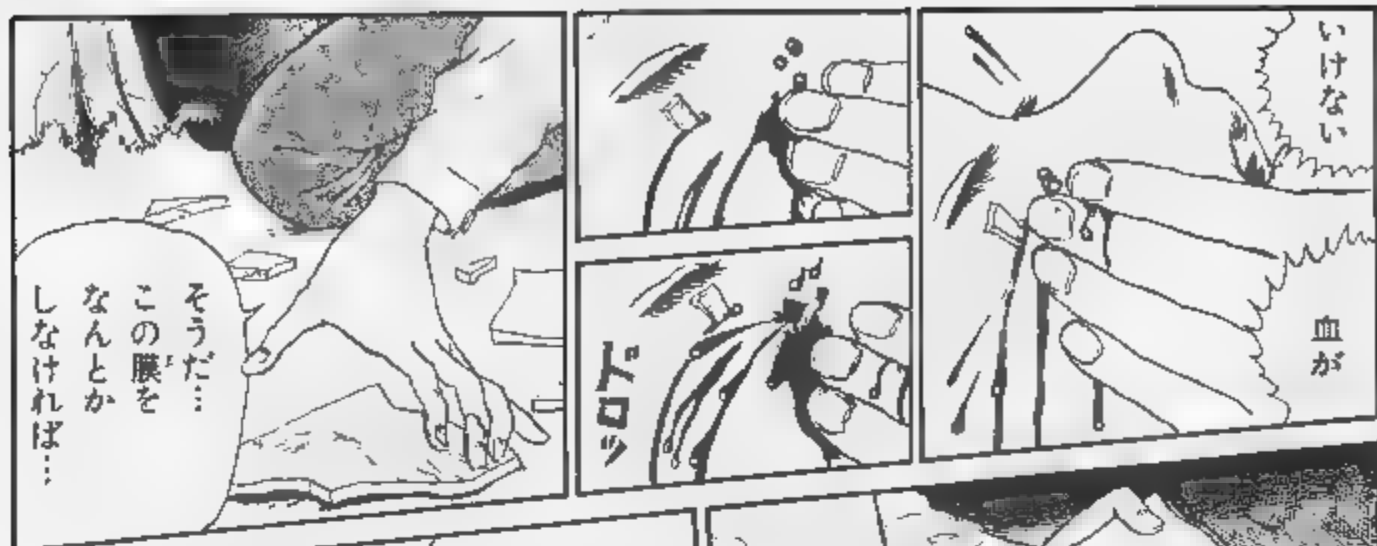
あつ
やめて……

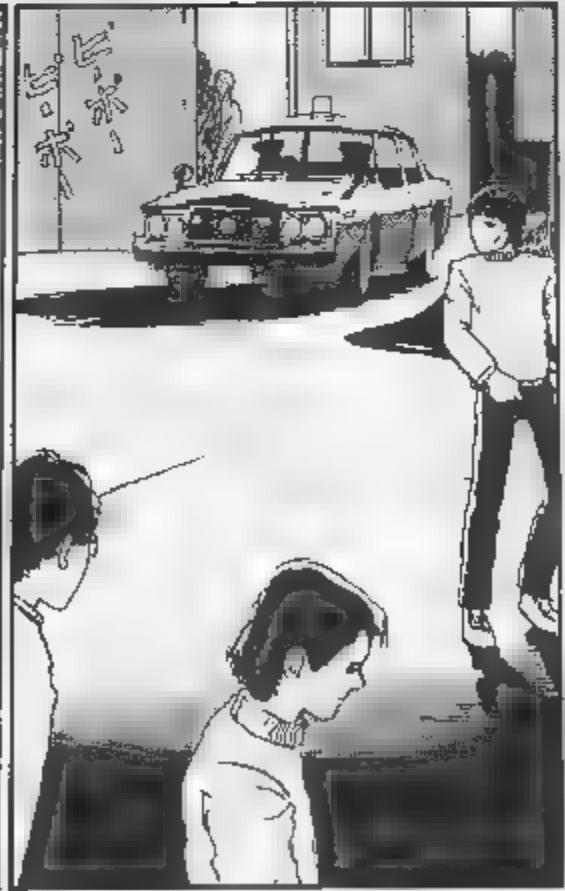
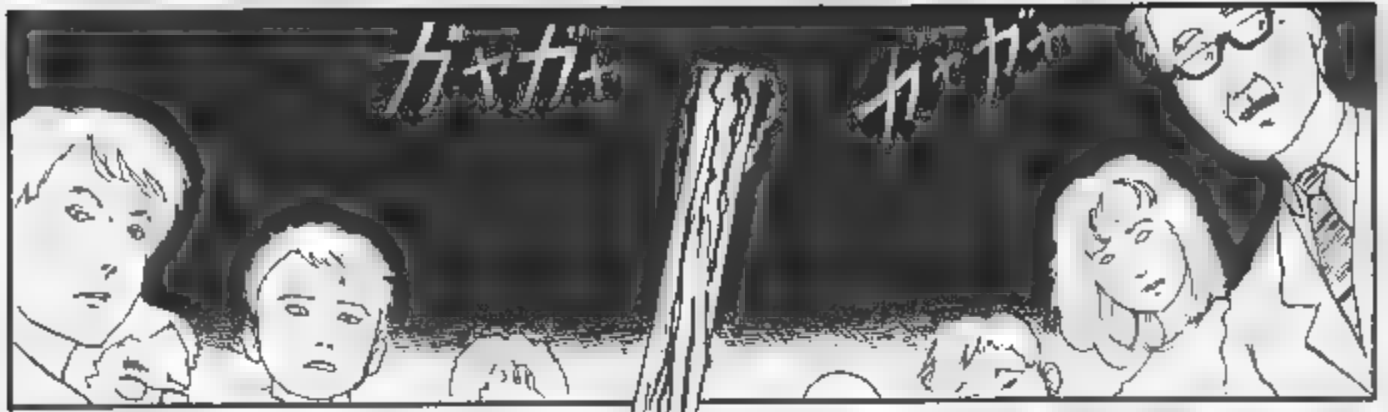
とらな
いで……

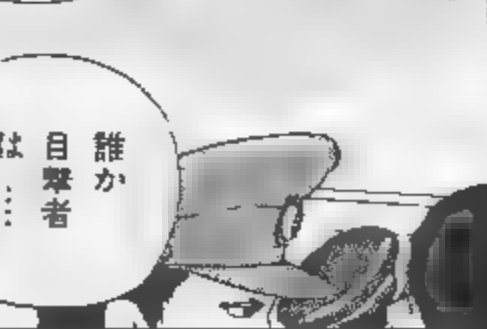
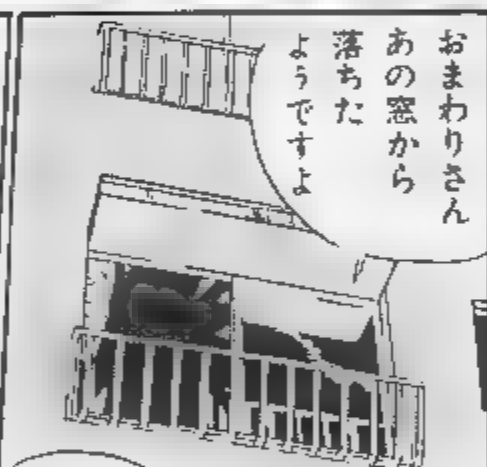


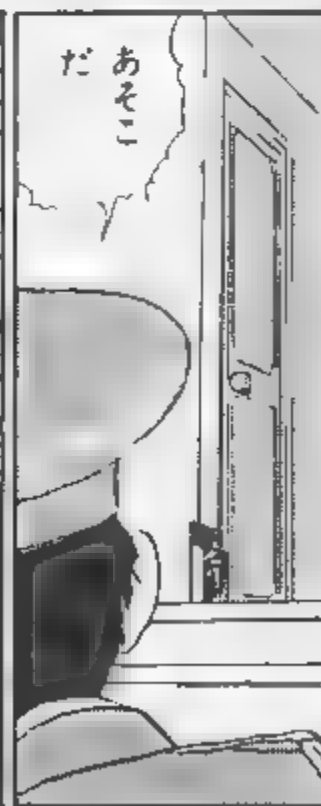
お願い
目を覚ま
して

とらなく
ては

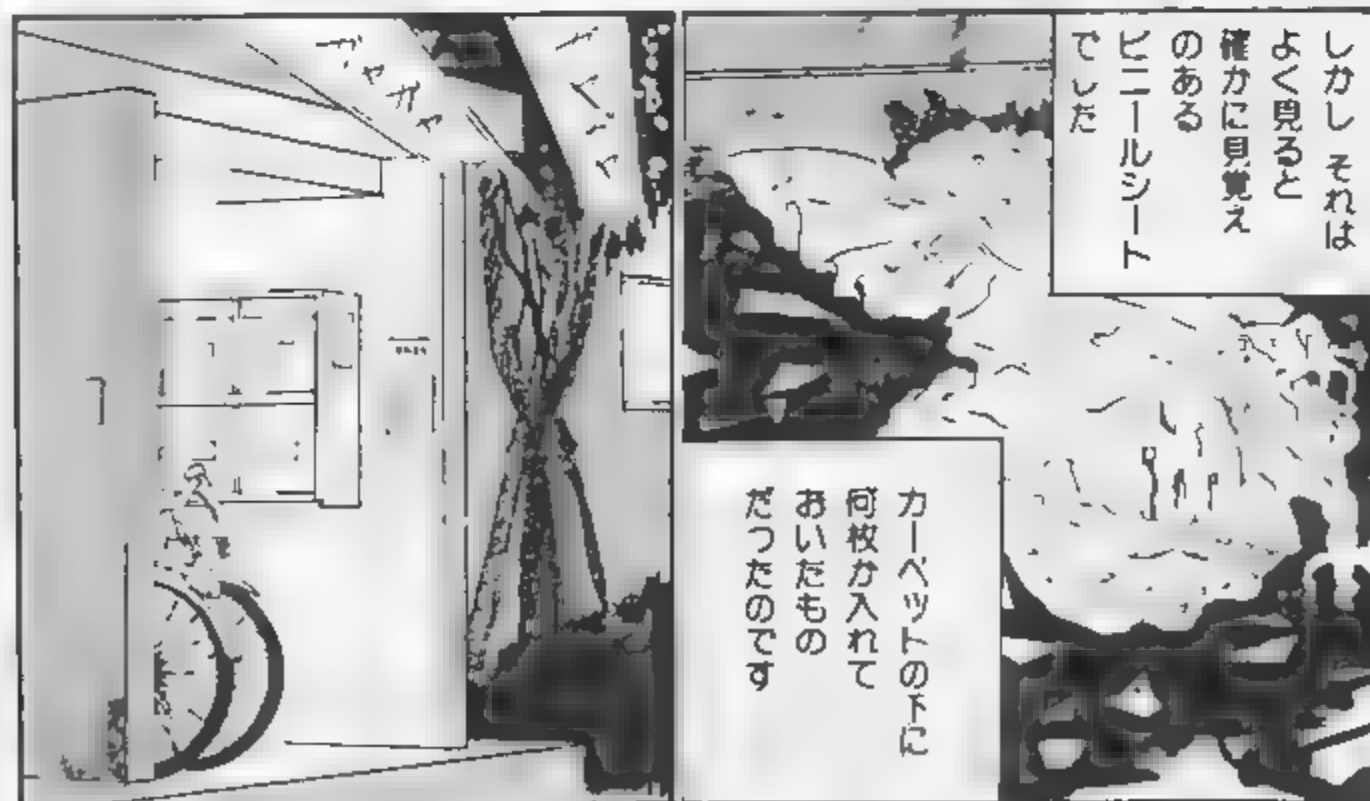


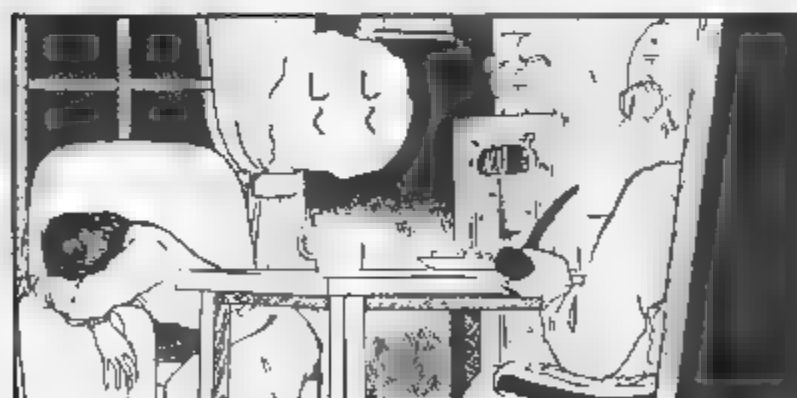














数日後



本当なんです
木股君は雨とい
かなにかを
つたつて
窓から侵入
したんです



それは君に
殺人現場を
見られたから
だと
いうんだね

はい

そしてもうひとりの
太地という男子は
今行方不明……

うむ……

木股君に関することは
目撃者がいることだし

自殺ということでは
それはそれで
いいんだが

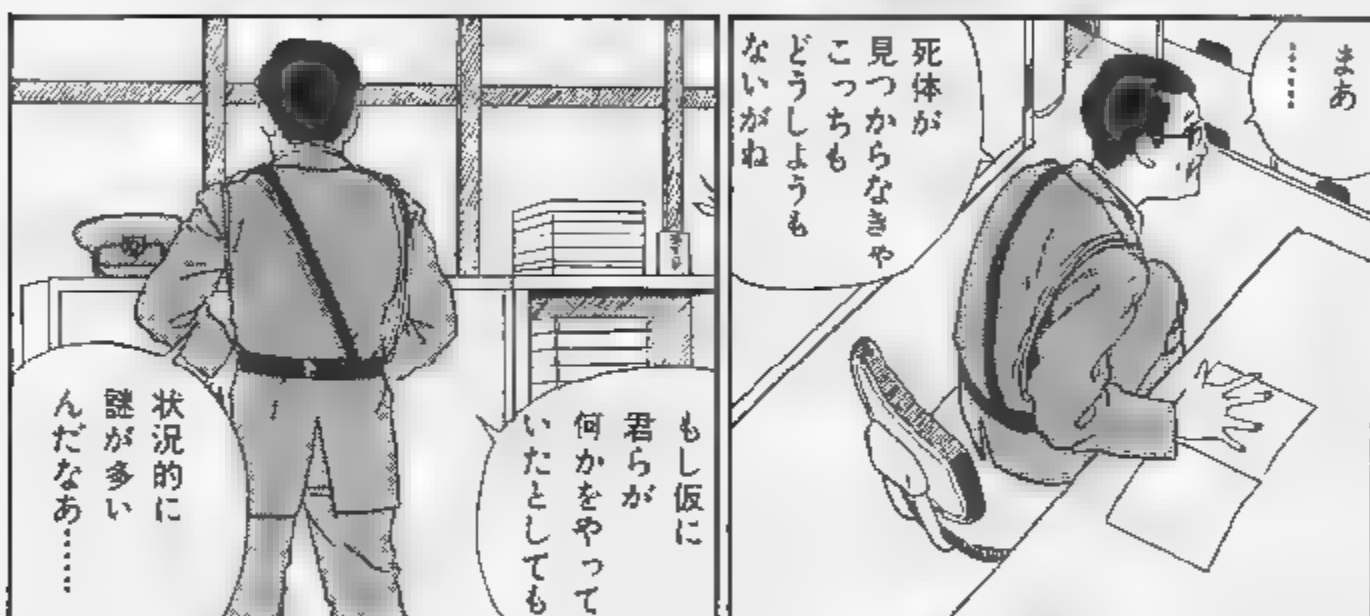


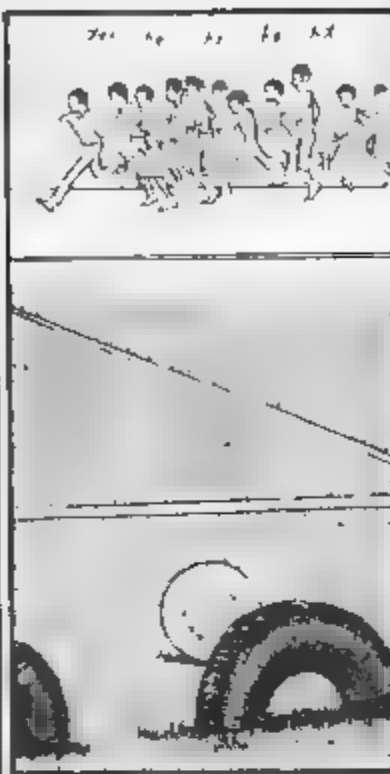
実はあの大量の
血なんだけども
鑑定したら
人の血だと
わかったんだ

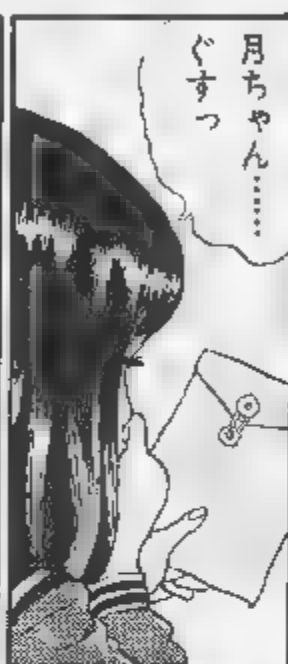
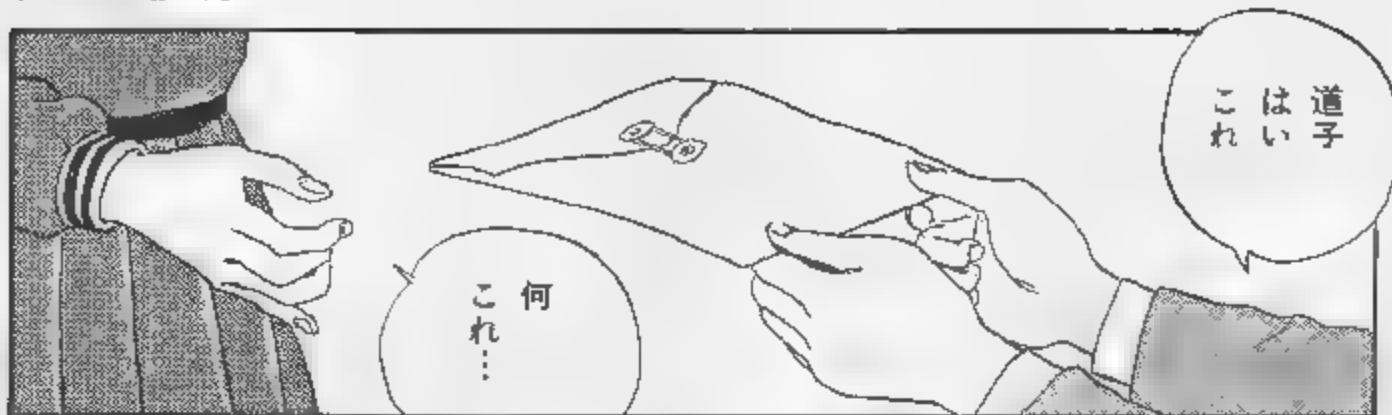
富江さんの
血です

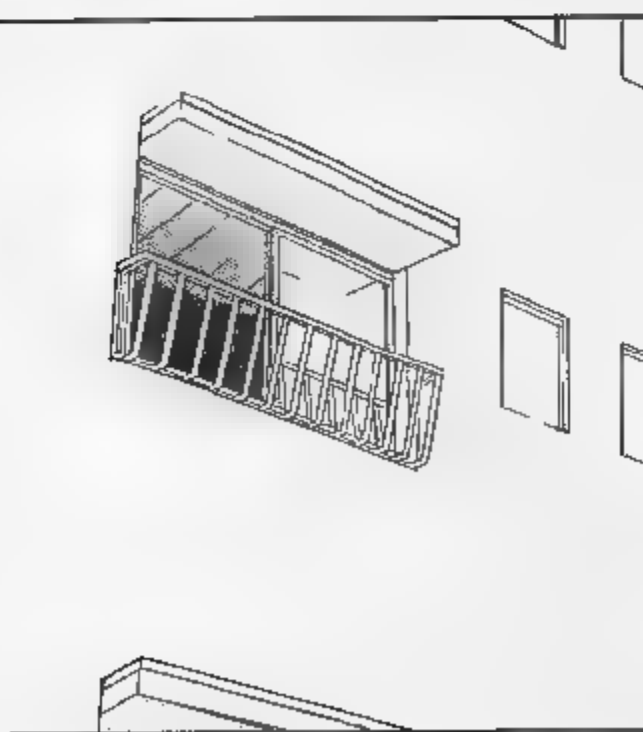
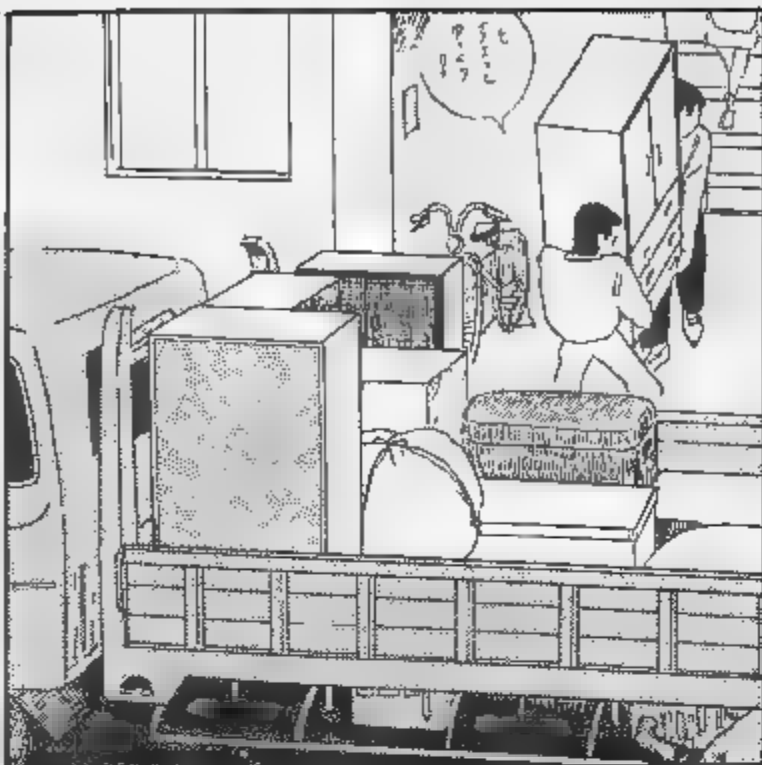
それがちがうんだ
調べたところ彼女は
事件の翌日
学校に現れている
退学届を
出しにね

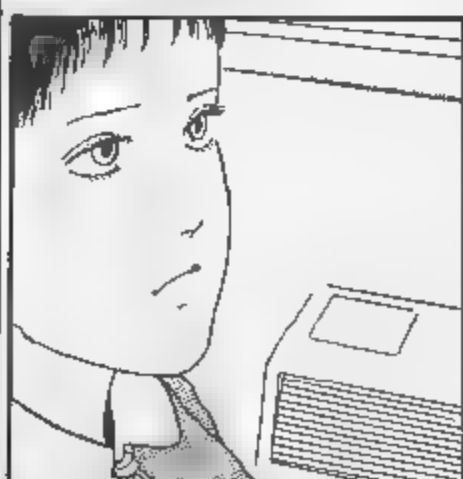
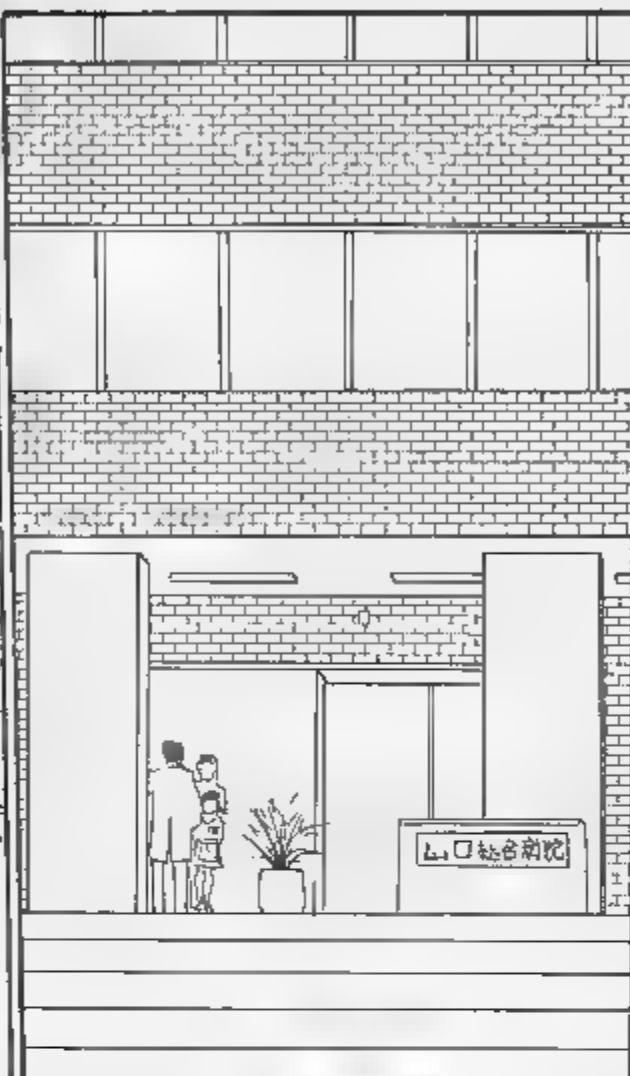
つまり
事件に
無関係
なんだ



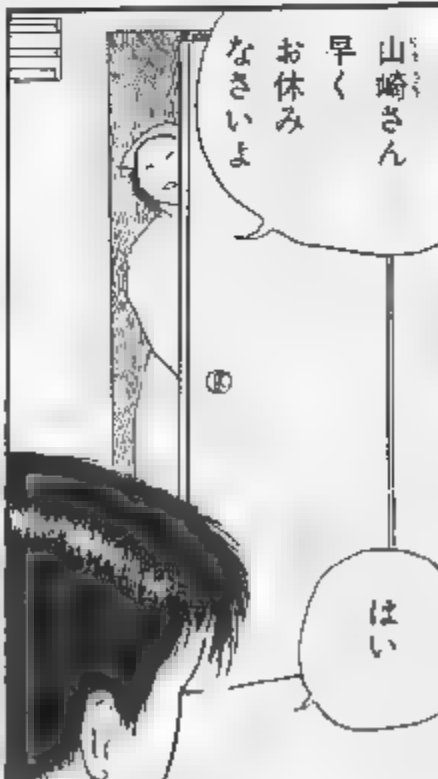
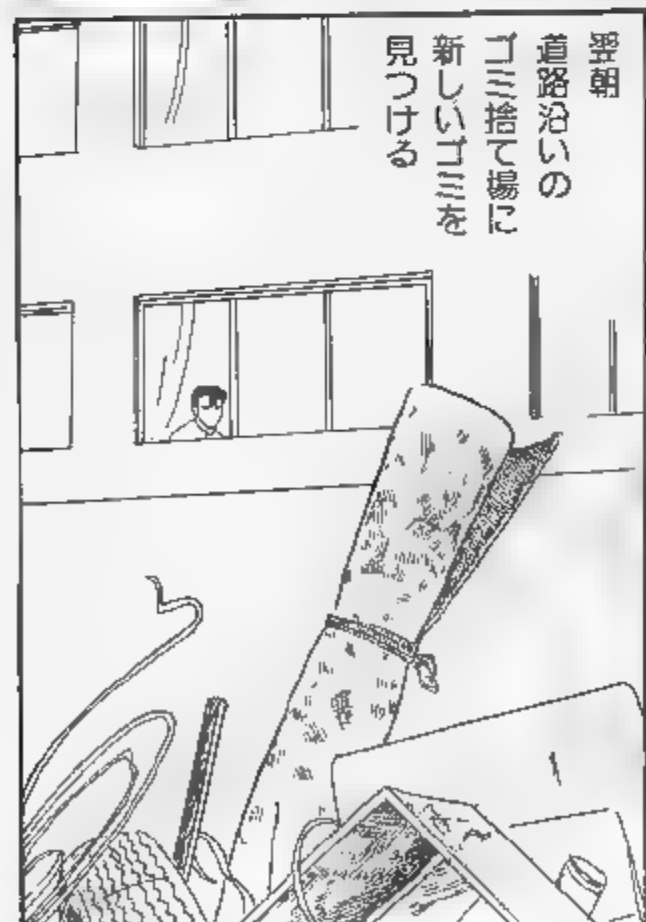
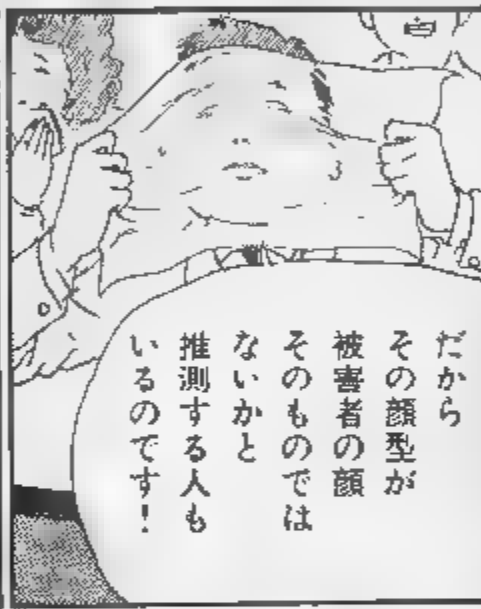
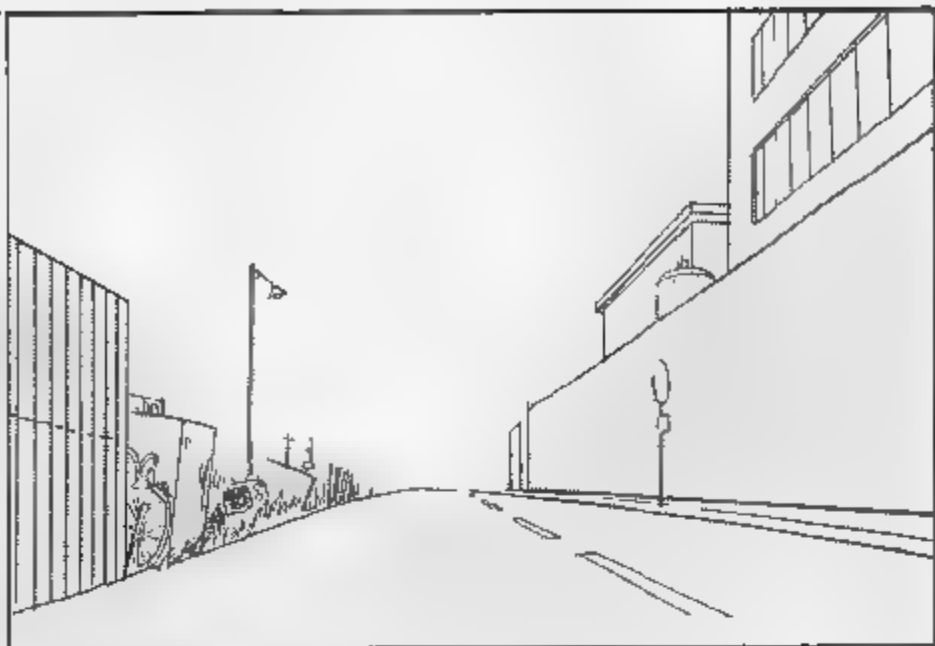




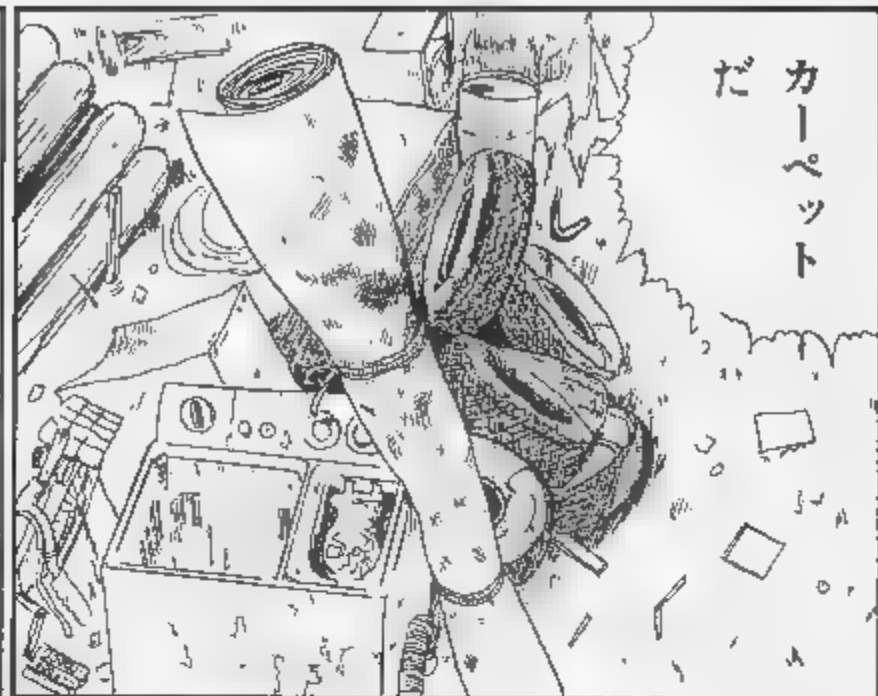




富江・接吻



カーペット
だ



どこの誰が
捨てていったの
だろう

なぜか妙な
予感がする

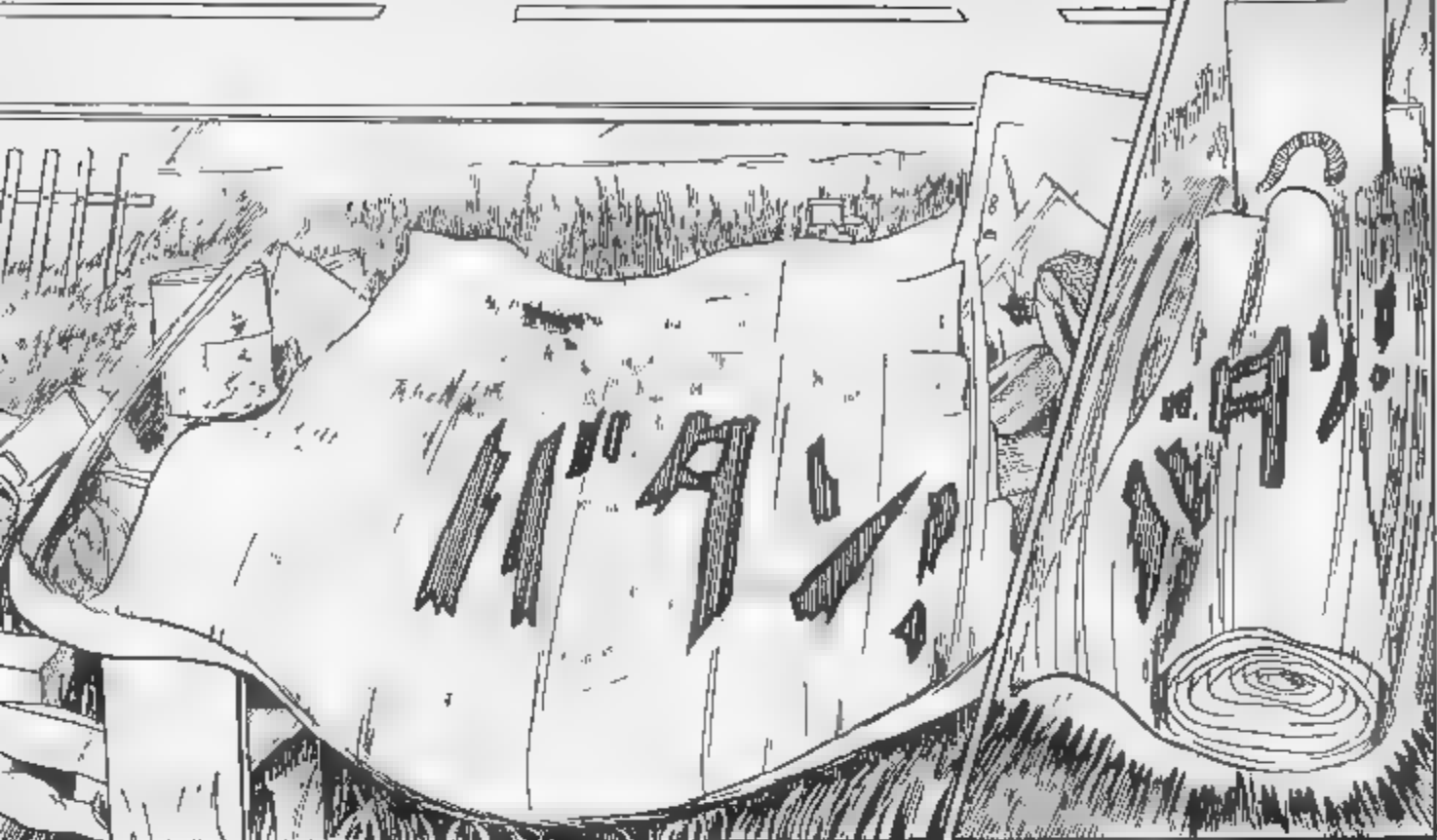


そして
日がたつにつれて
予感は
現実のものとな
っていった



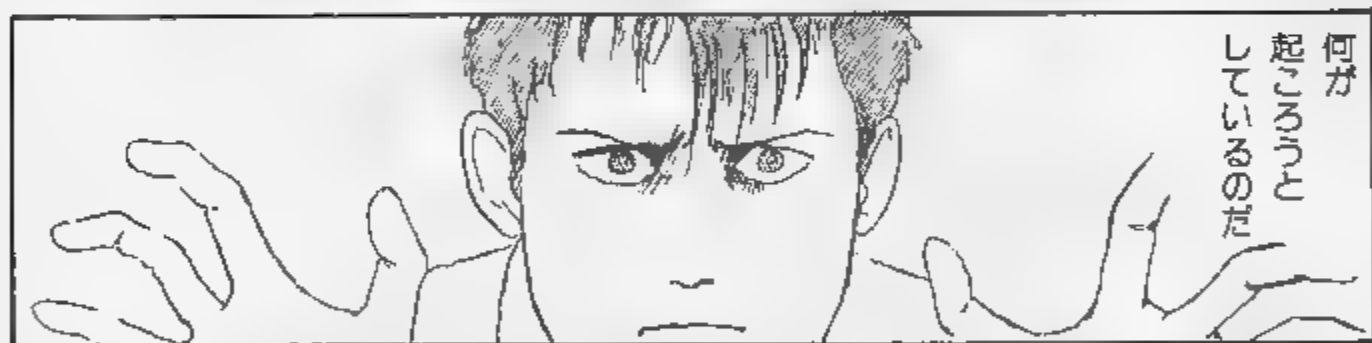
カーペットに
妙な
ふくらみが



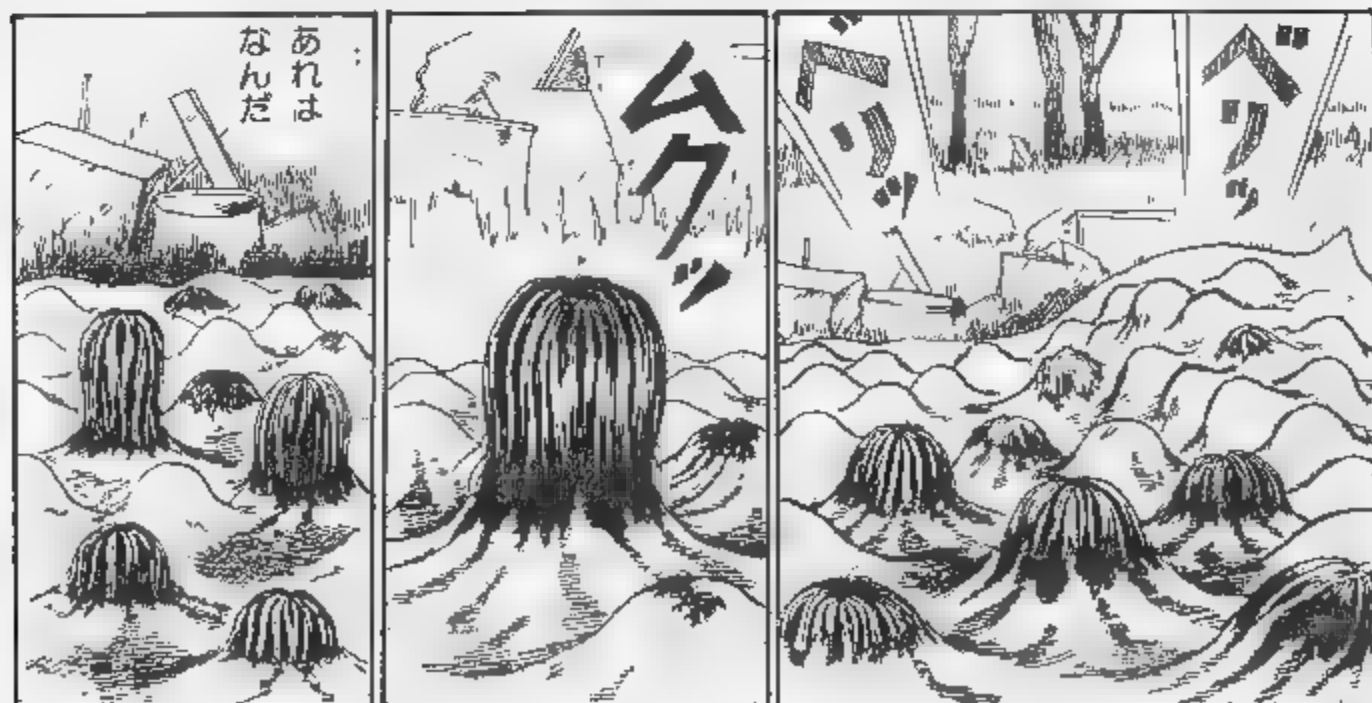


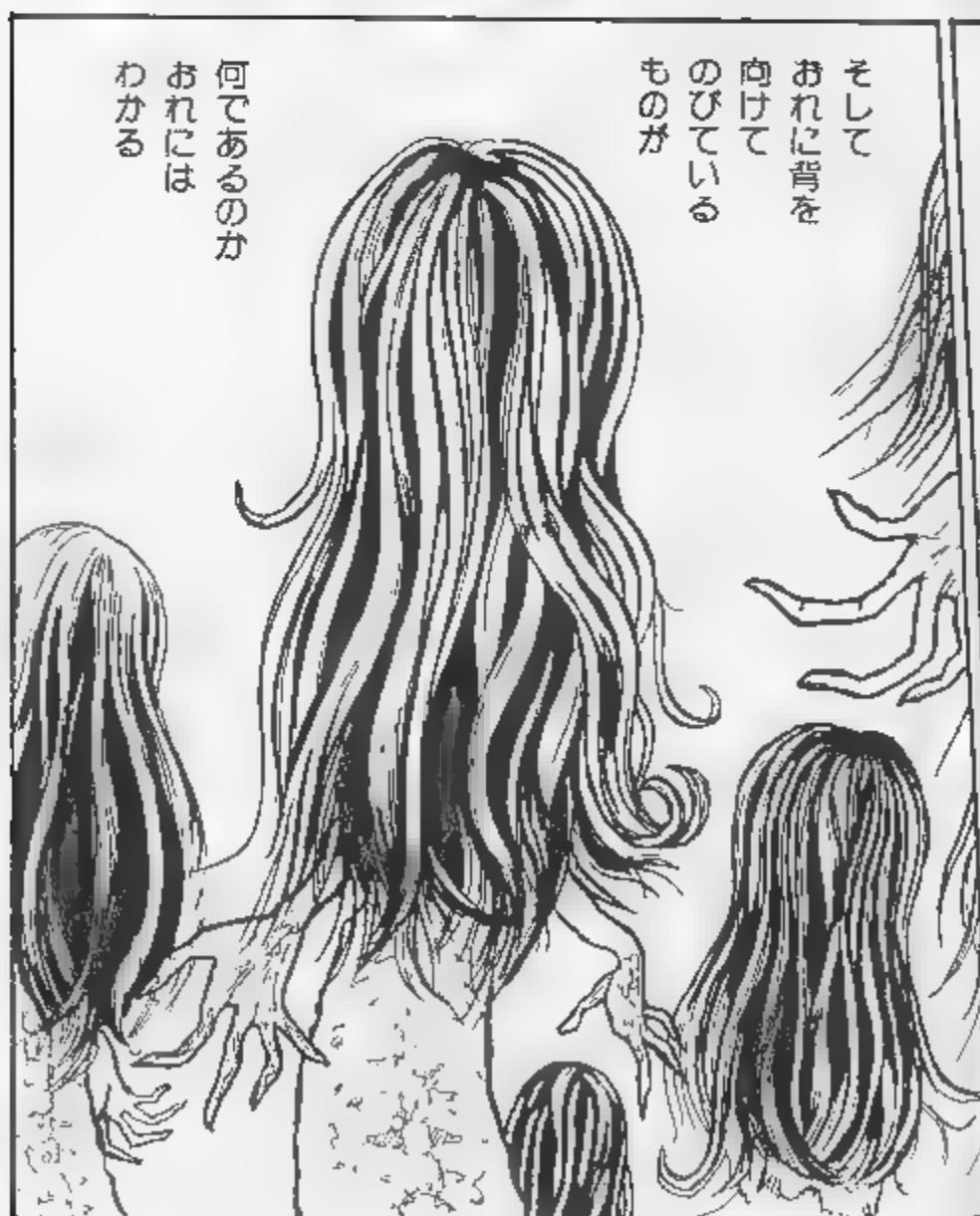
ゴミ捨て場に
広がった
カーペット
一面に

無数の
妙な
ふくらみが
あつた



何が
起ころうと
しているのだ







なぜなら今
彼女らが
いつせいに
ふりかえり
手をさしのべた
のだ！

聞こえる……
おれには
聞こえるんだ！
彼女らの
叫ぶ声が！



山崎さん
抱いて~~~~

山崎さん
抱いて~~~~



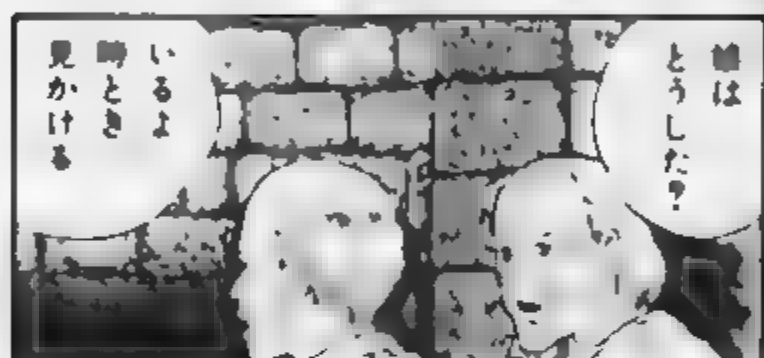
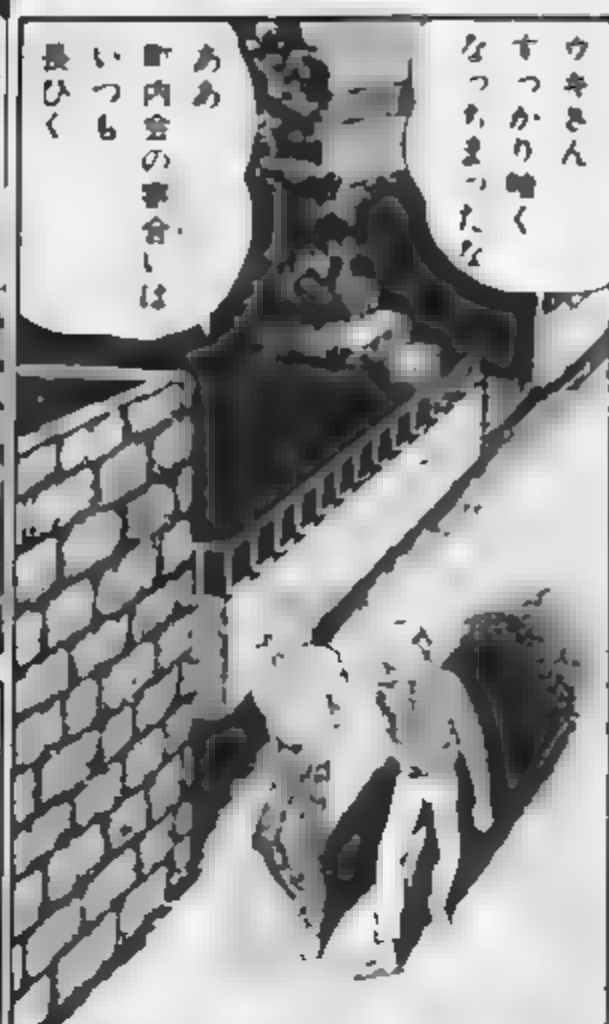


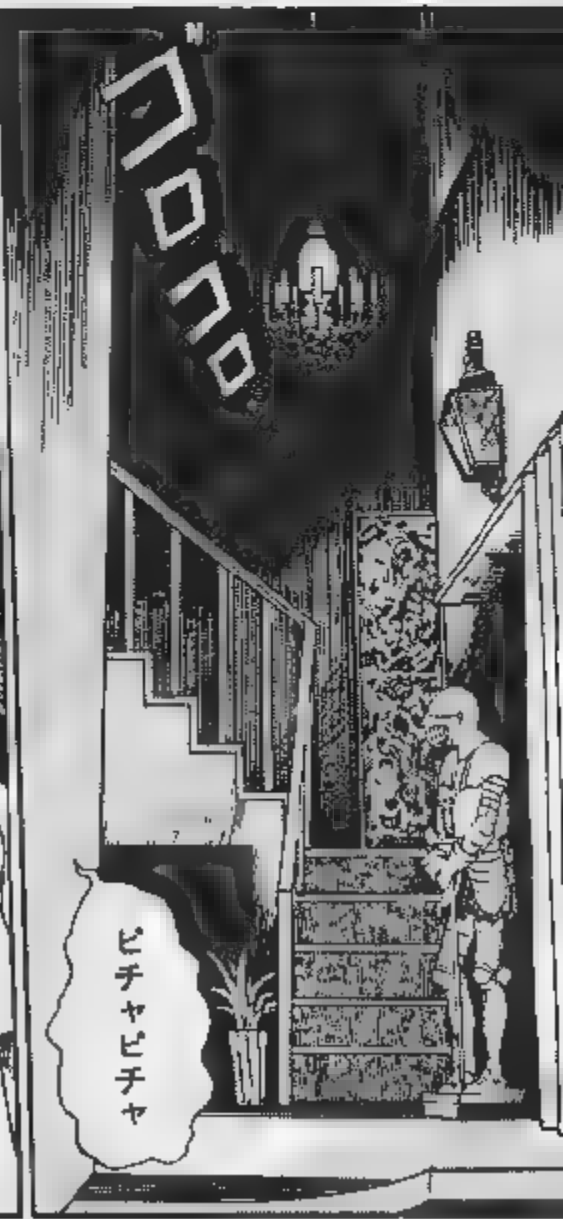
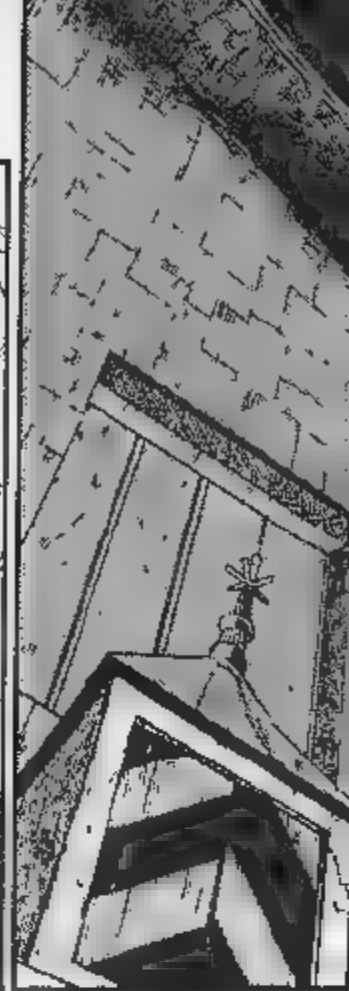
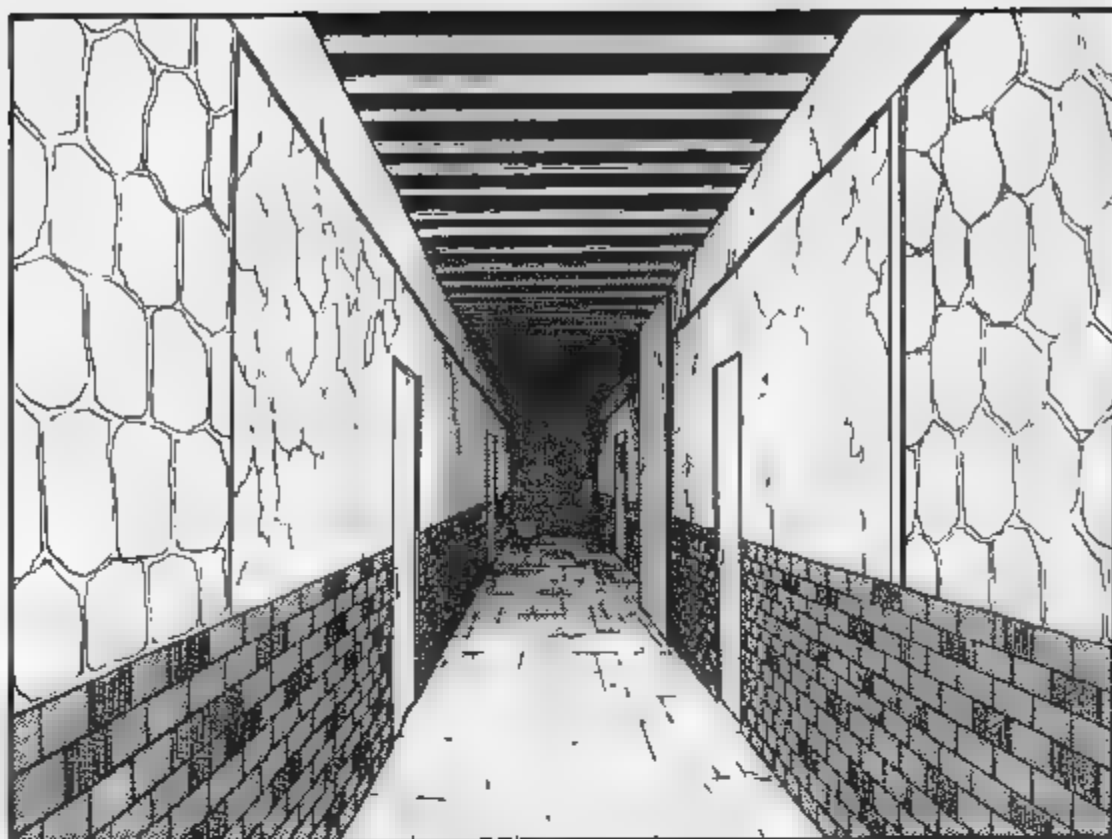
屋

やしき

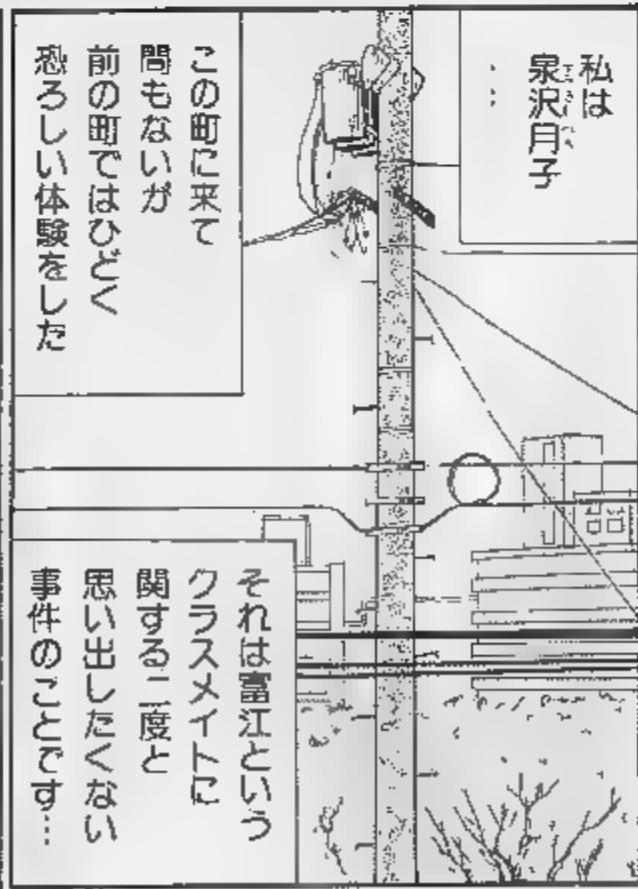
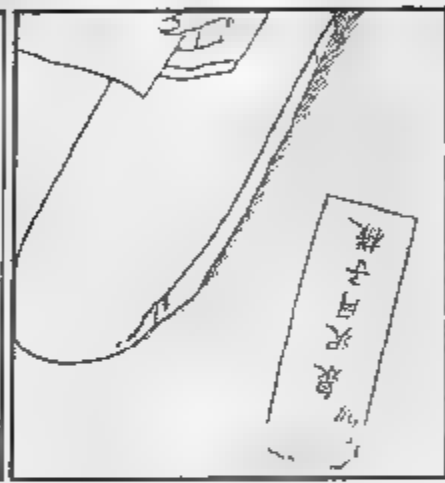
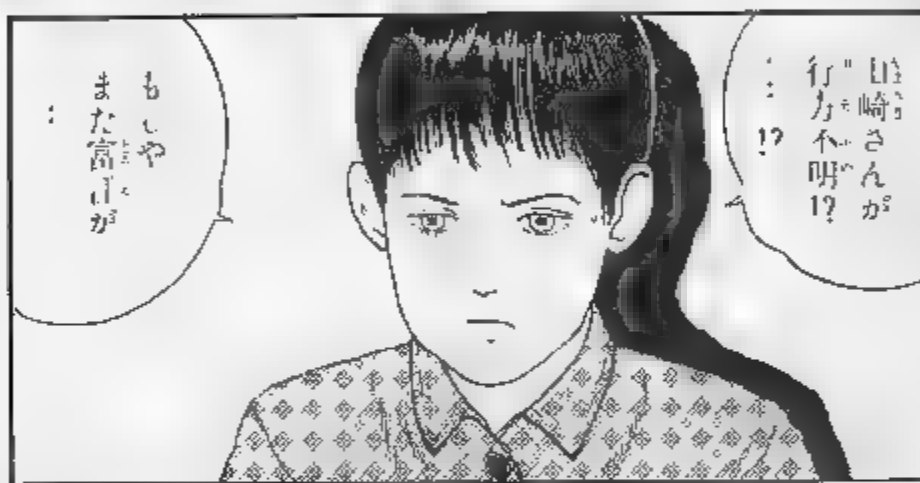
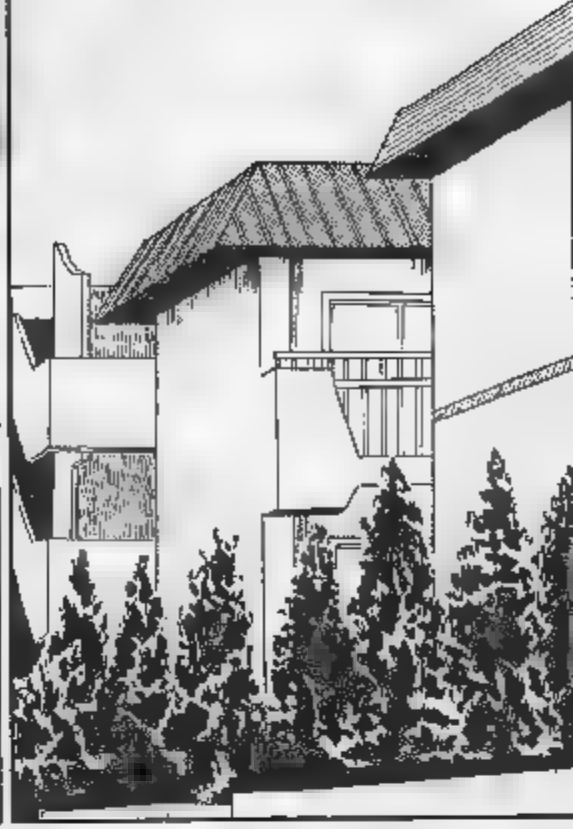
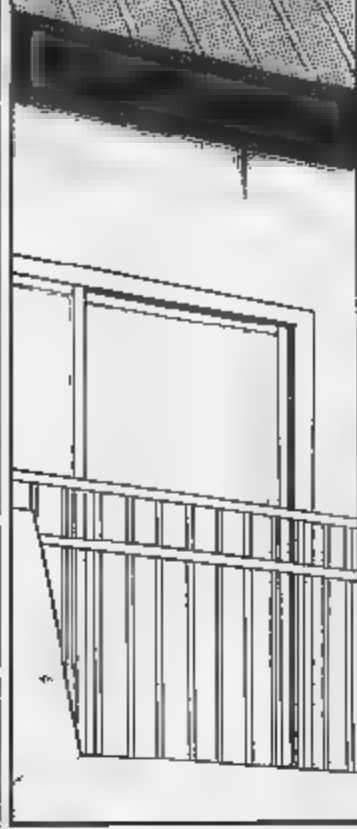
敷

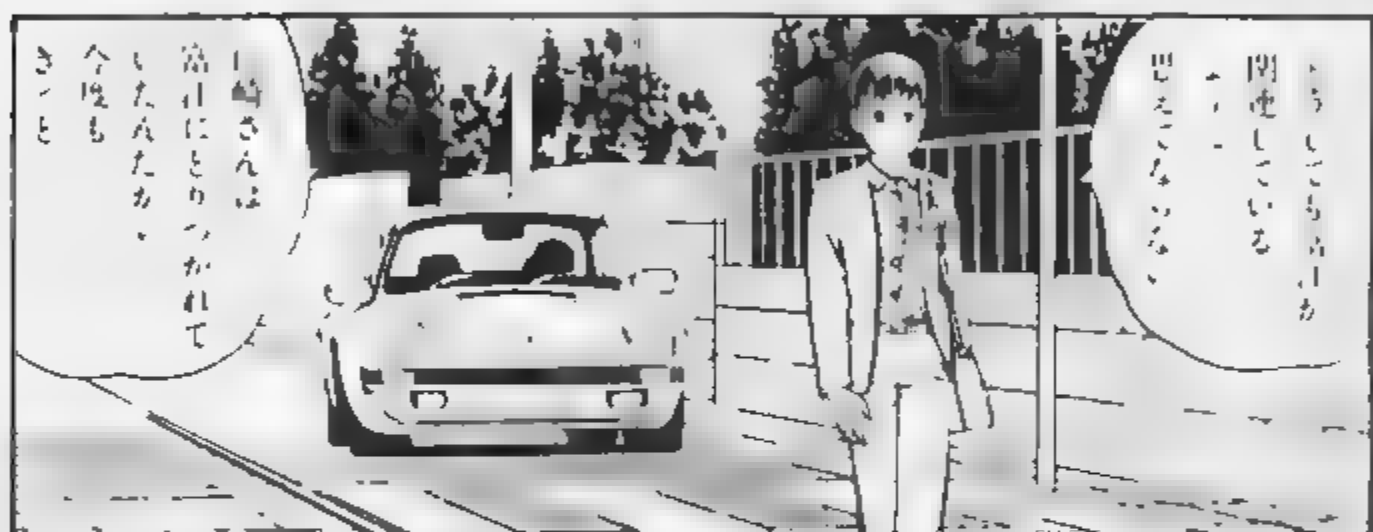
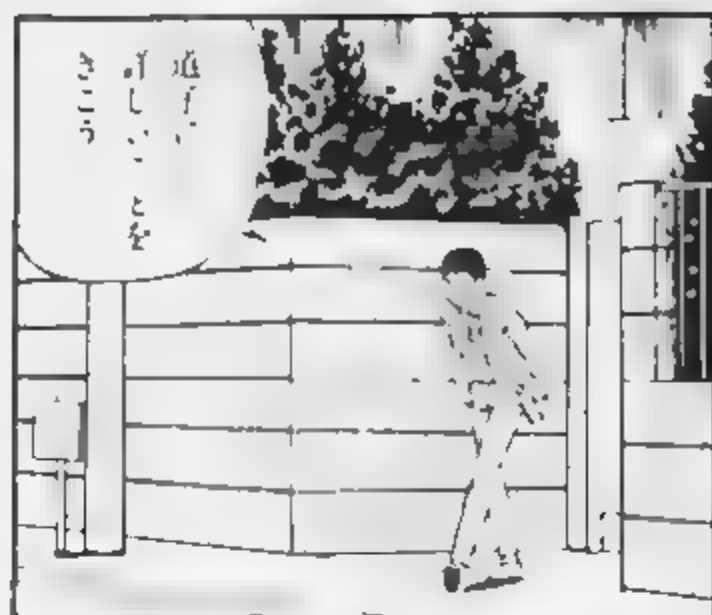
МОНГО

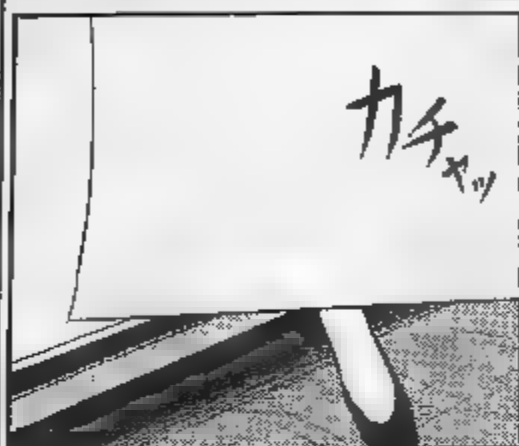
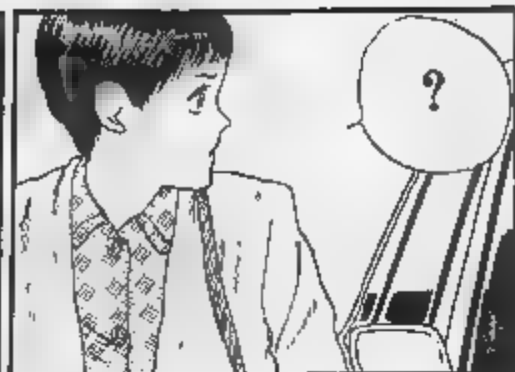


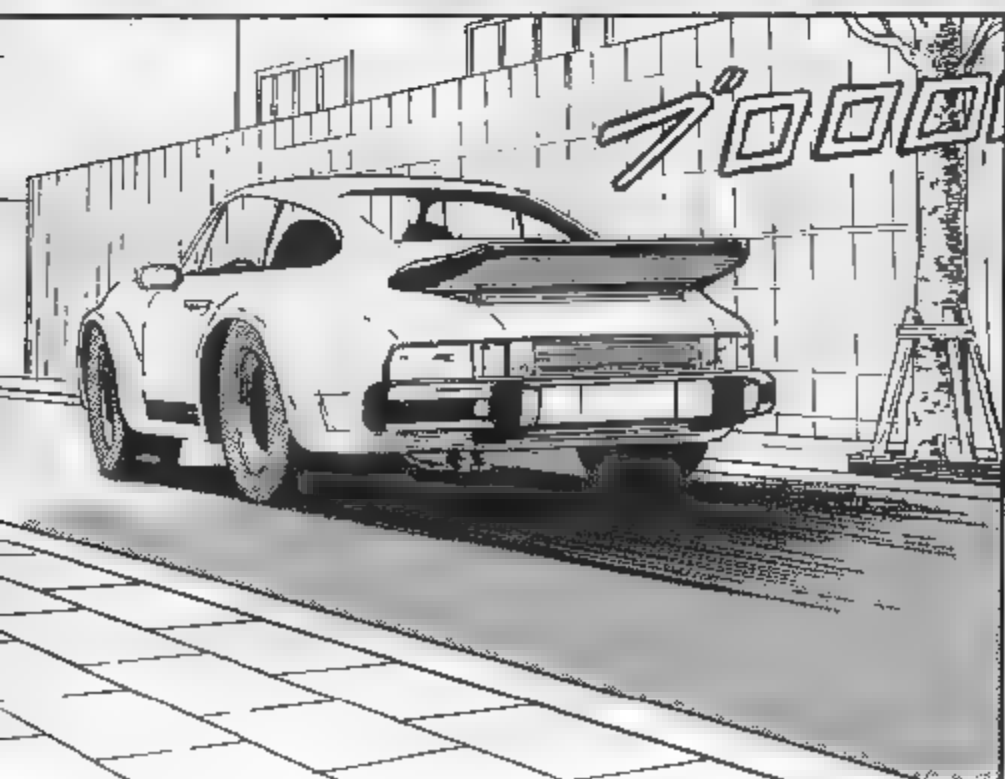




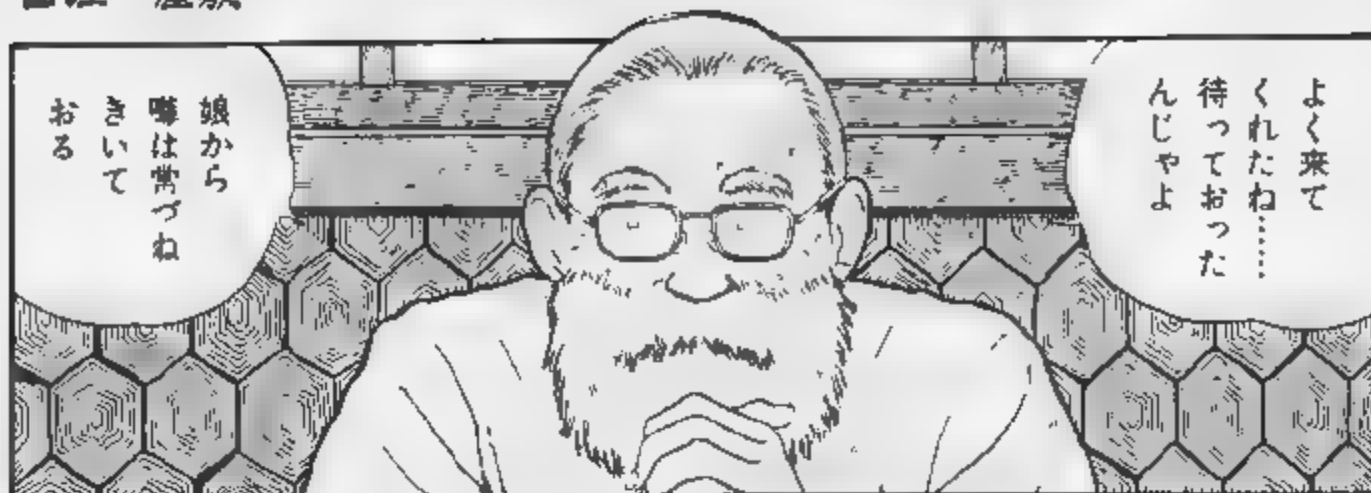












山崎さんなんて、
いないわよ
なんで彼が
ここにいる
わけ!?

彼のことなど
知ったこと
じゃないわ

だました
のね

私は本気で
男を好きになんか
ならないわ

娘にとって
男は
単なる
飾りじゃ

娘は
自分以外には
興味はない……

自分を
他人に
どう
見せるか

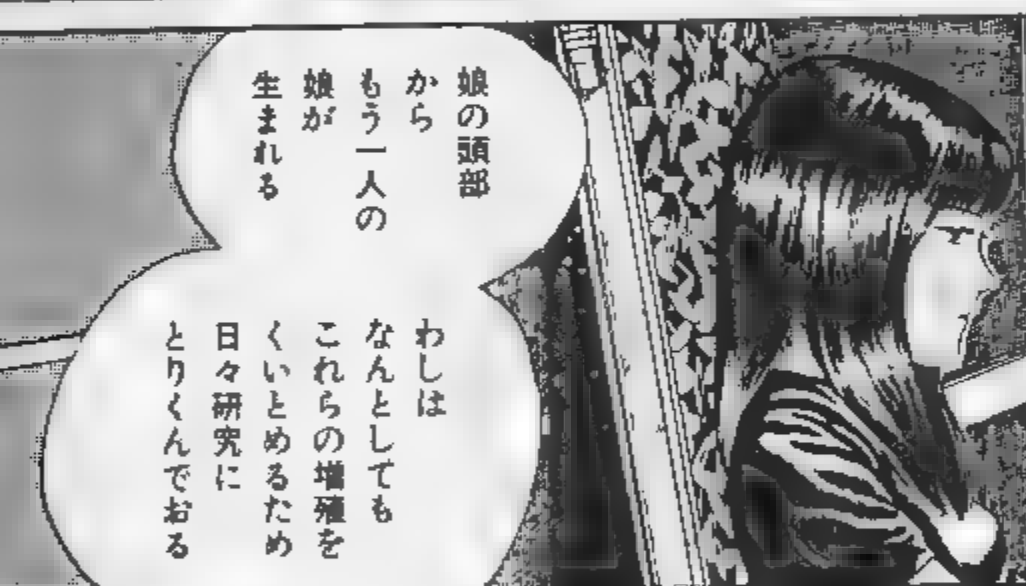
それが
最大の
関心事
じゃ

それは
他人から
愛される
ためでは
なく……
自分自身を
より愛する
ためじゃ

男たちは
勘違いをして
娘に夢中に
なるのだが……

どういうわけか
娘に深入り
した男たちは
娘の体を
バラバラに
しようとする
……

一体
この娘の何が
男たちに
そうさせる
のか……





見たまえ
あれが分裂の
状態じゃ
強酸に漬けて
あるため
成長は
止まって
おるが……
しかし
あれだけの強酸にも
耐え得る組織の
再生力を持つとる



すばらしいとは
思わんかね



どうだね……
君も私の
研究に
手をかして
くれんか……

冗談じゃ
ないわ
私帰ります



おねがいじゃ
……
私の実験台に
なって
おくれ……

たしかに
娘の体液や
その他の怪しげな
薬品を君に
注射するのだが……



しかし
何ごとも
チャレンジしや

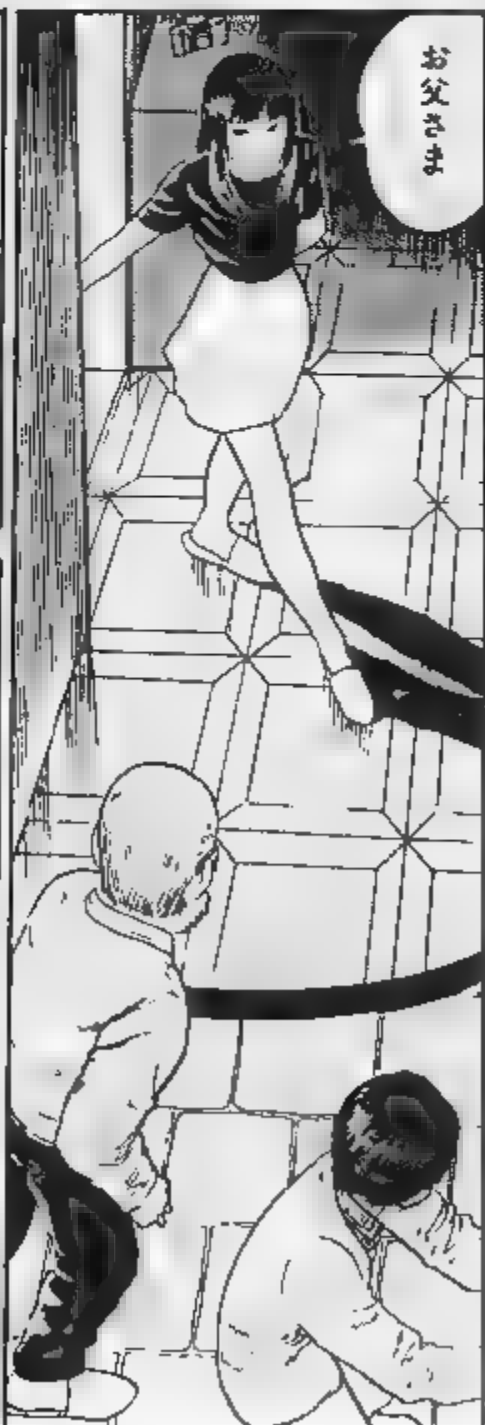


ビチャ
ビチャ



娘や！
鉢の蓋を
閉めなさい

ガスで
のどをいためて
しまおうよ！



お父さま



お父さまつたら
前にもチャレンジし
て失敗したじゃない
……ひどいものが
できちゃって……

いつまで
こんなこと
続ける
つもり？

もう
しばらくの
我慢じゃ……
必ずおまえを
治してやる……



前から
それ
ばかり
……
私もう
飽きたわ
あなたの
お芝居には
……

今までは
おもしろいから
つきあってた
けど……



もう
やめ
たら？

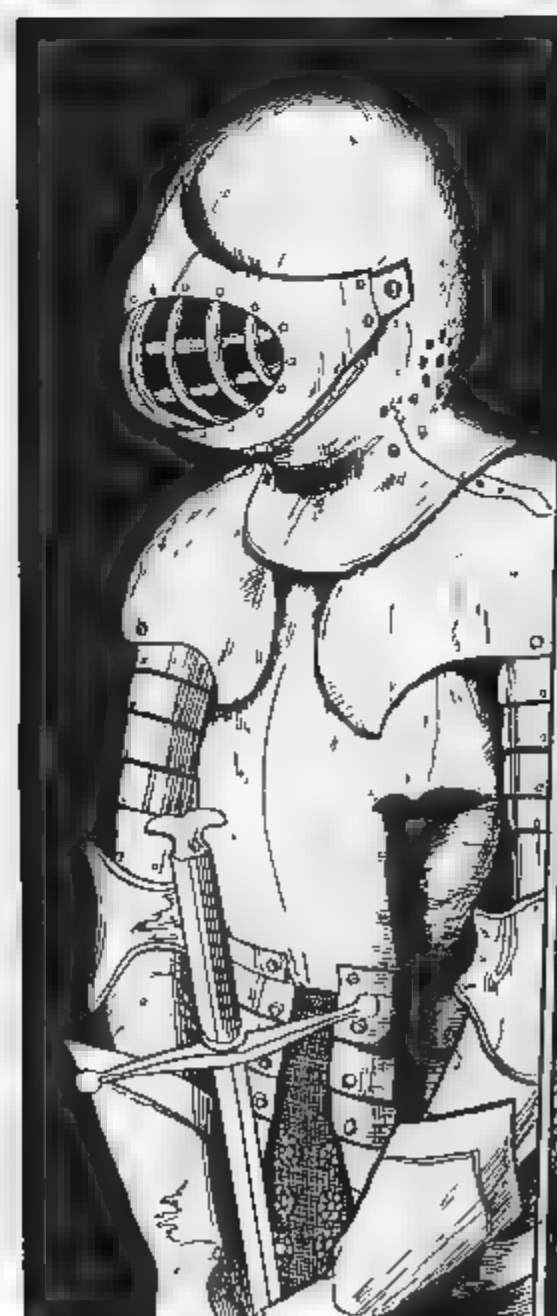
そんな格好
しなきゃ
私と対等に
お話ができないの？

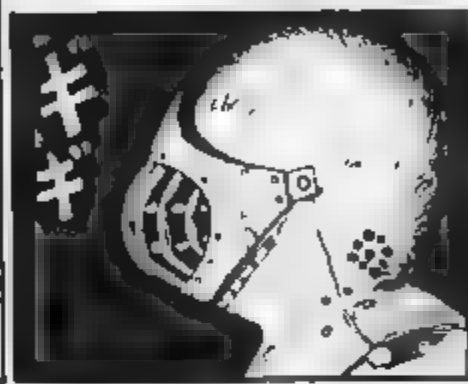
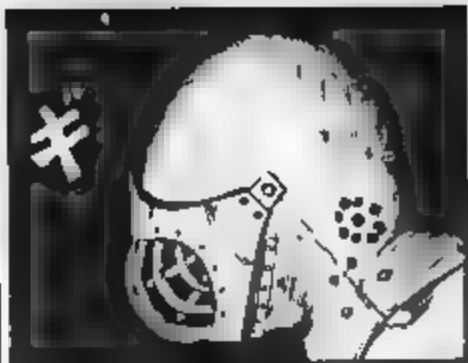


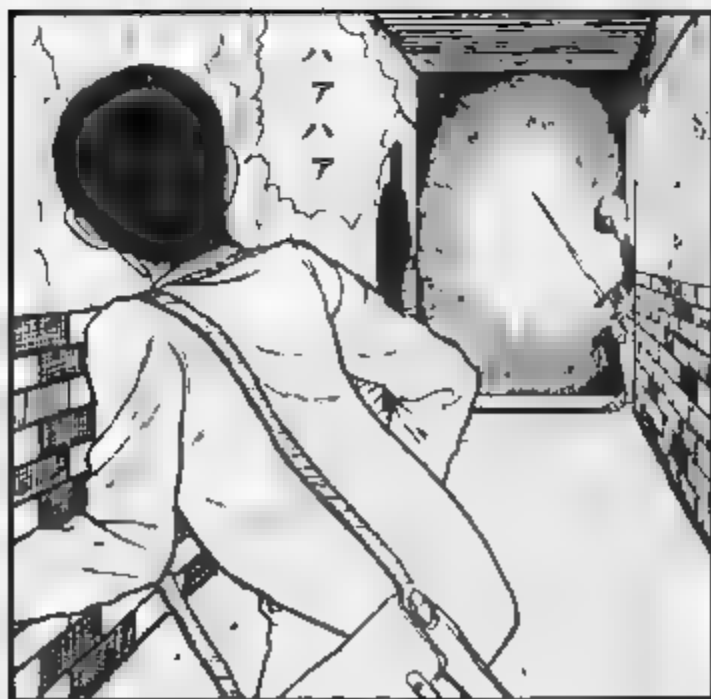
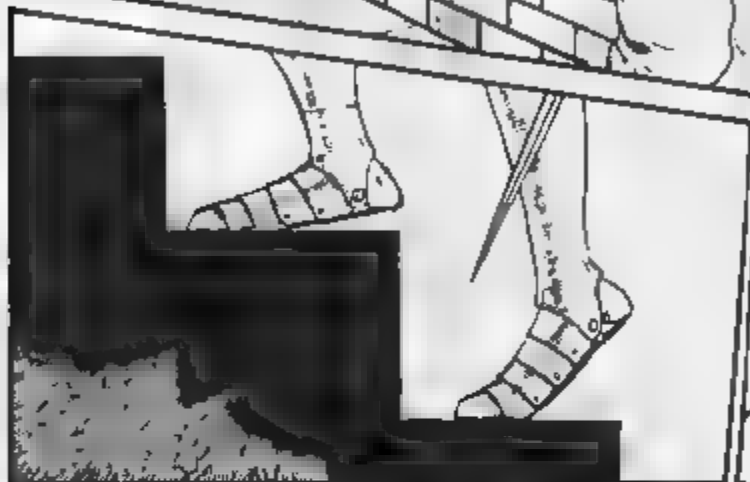
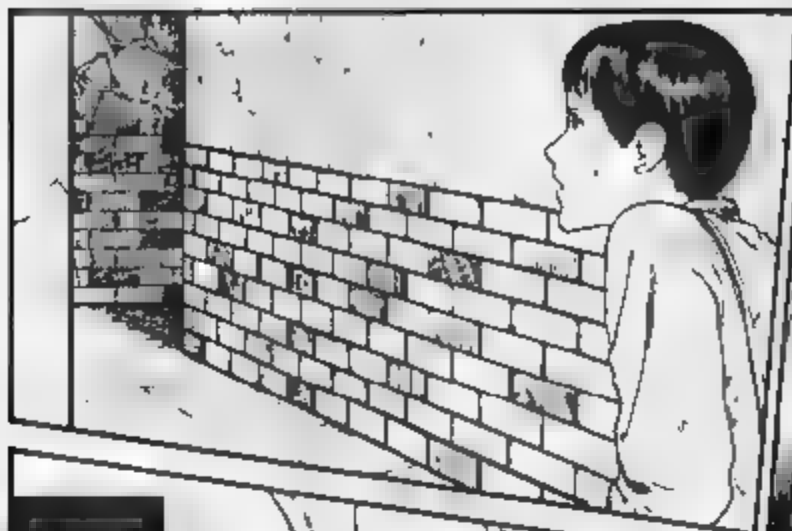
ギヤ~~~~ツ

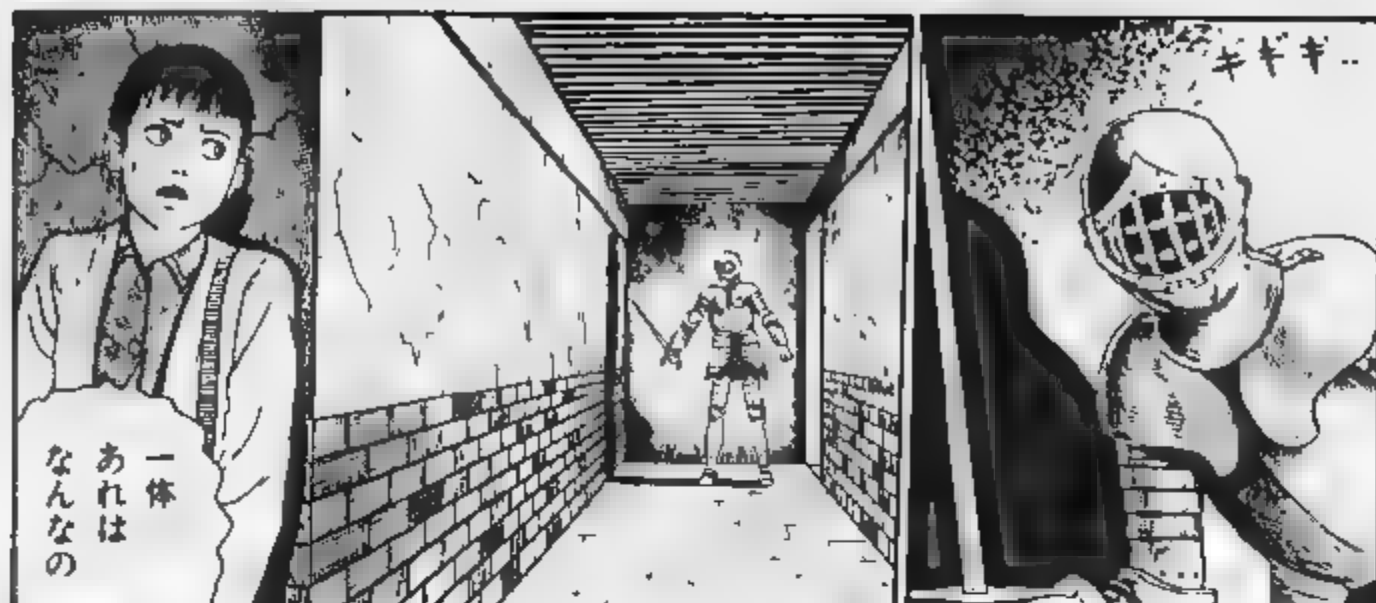


目覚め
なさいっ













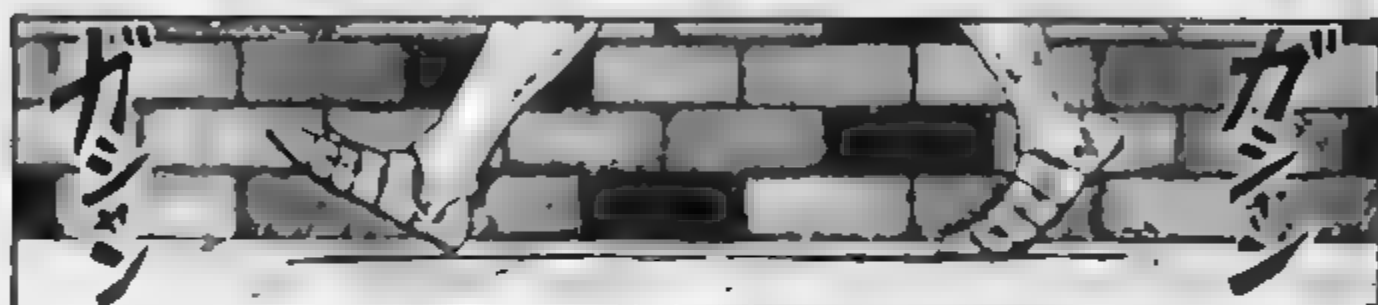
本道に私を
居すつもり
あるのかしら？

本道は何か
別の目的が
あるんしや
ないの？

仮面を
とると
顔口に
なるのわ

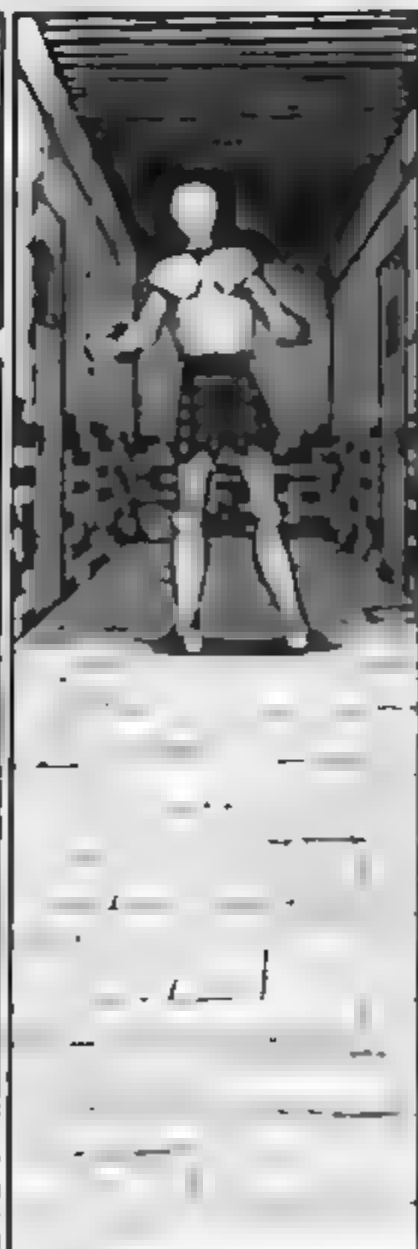
高木
先生！

ヒヒヒ
ヒヒヒ



お嬢さん
…あんたも
ひといい途中に
かわった
ものだ……

わしを
ここに閉じ込め
たのは
あの二人なんじや



覚えておくれ……
あれは百の結めの
ことしやった

忘れもせん……
暗闇の定る
星の夜

一人の若い女が
すふぬれになって
やってきた

玄關に
出たのは
わしの
娘しやった

その女は
一晩泊めて
ほしいと
いった

かわいそうに
どうぞ入って

哀れに思った
娘が女を
中に入れようと
すると
女は
もう一人
連れがいる
と言いだした

女の背後には
あの男が
立っておったの
じゃ……

二人は
応接室に
通されたが
気味の悪い
連中で

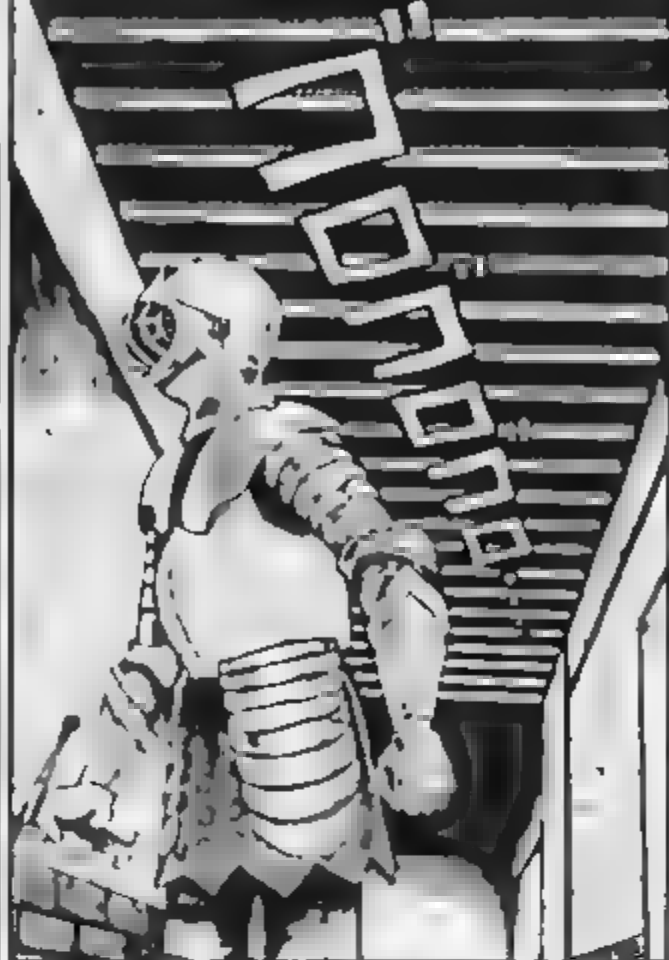
特に男は何も
しゃべらず目つきが
異常だった……

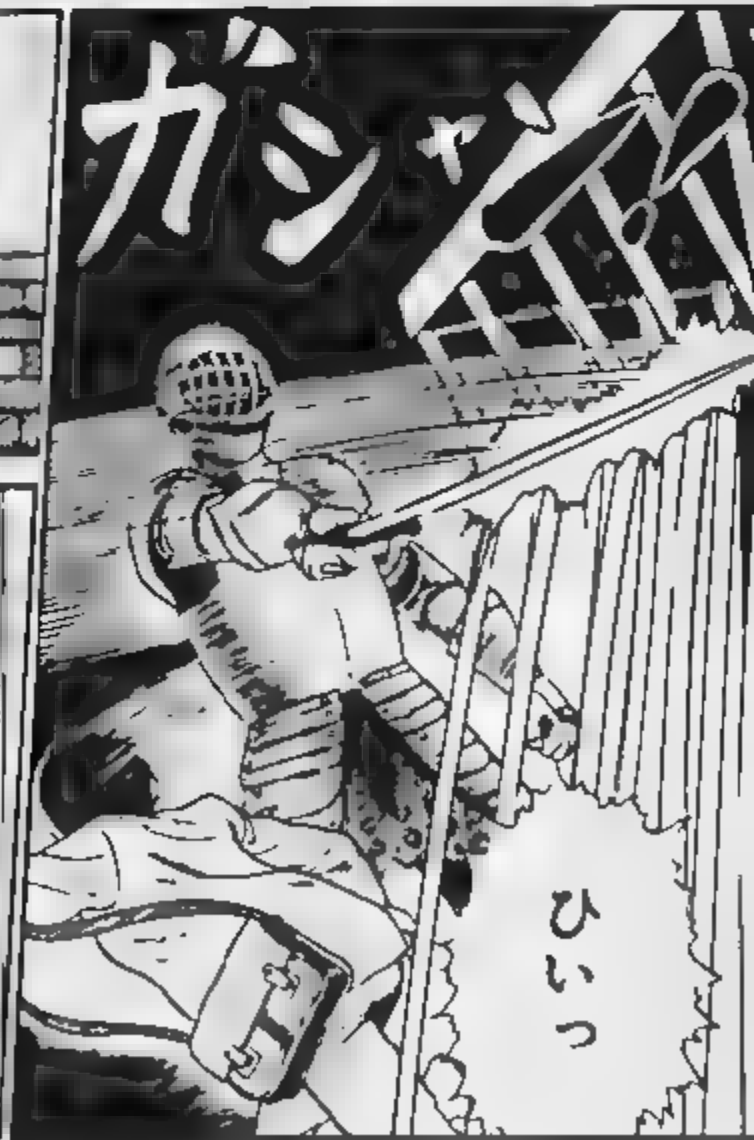
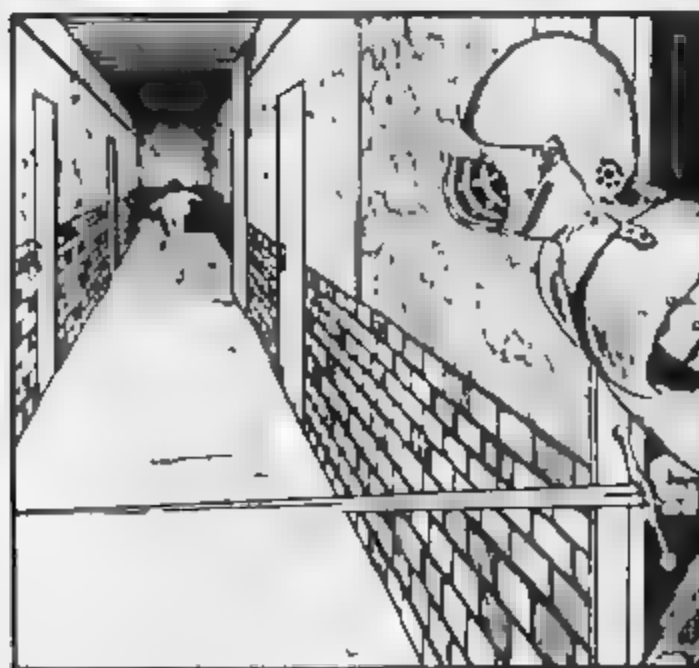
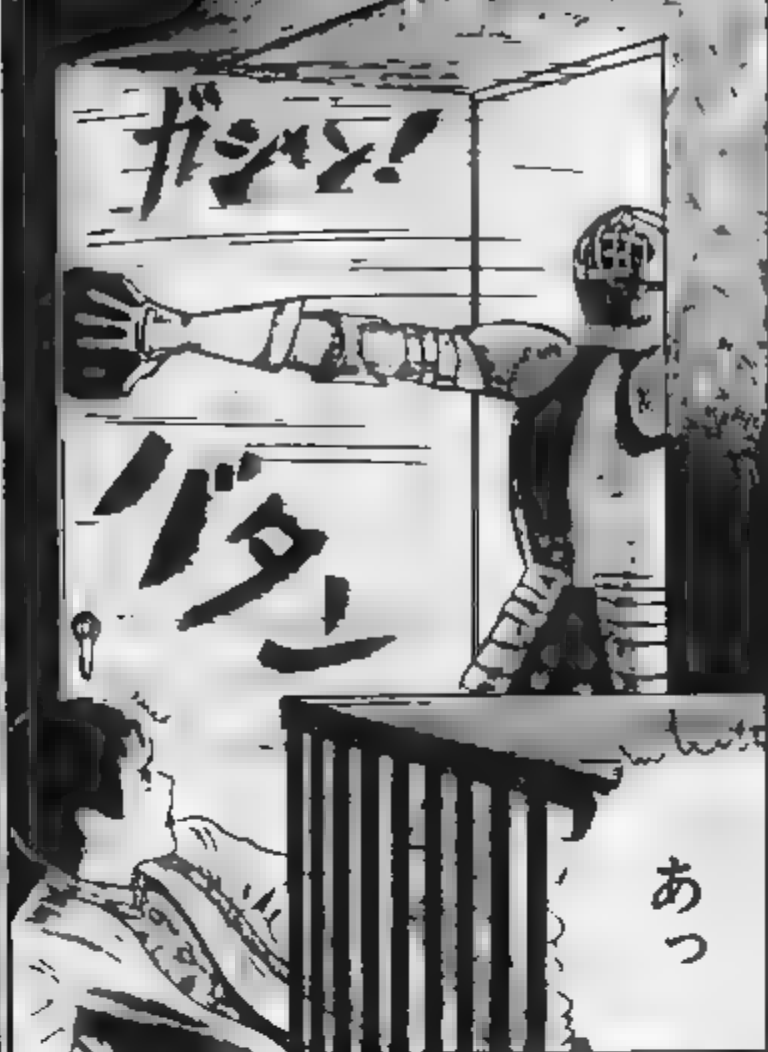
あの時すぐに
追い返す
べきじゃった

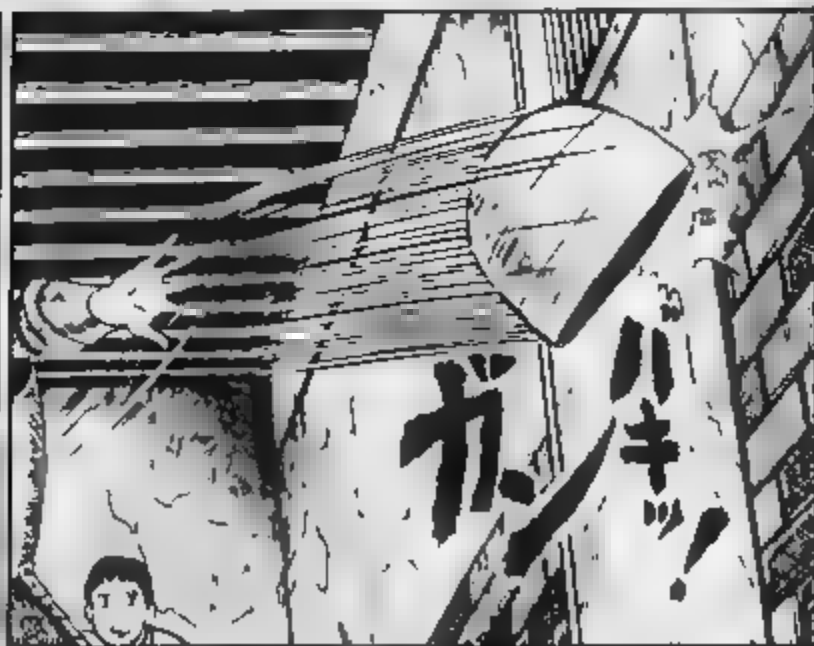
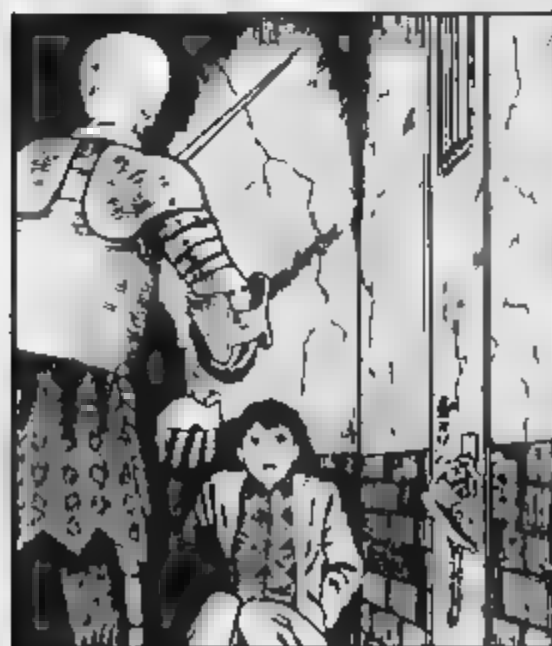
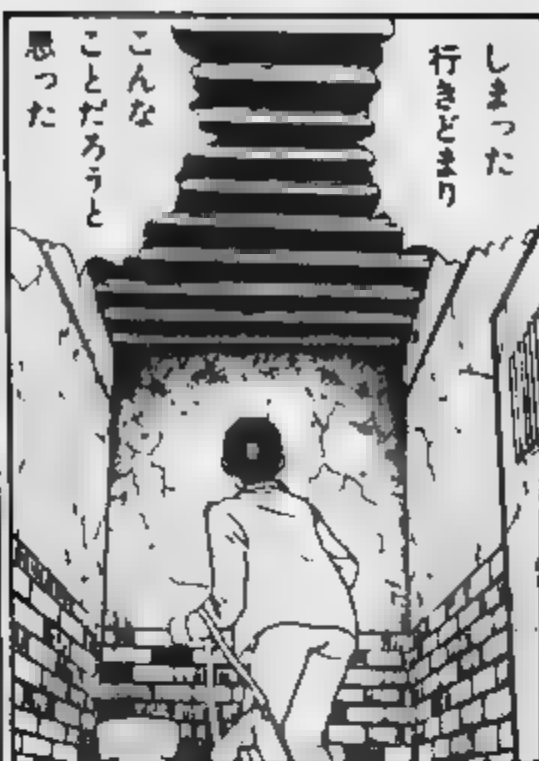
連中は
その夜のうちに
凶悪な侵略者
と化したのじゃ

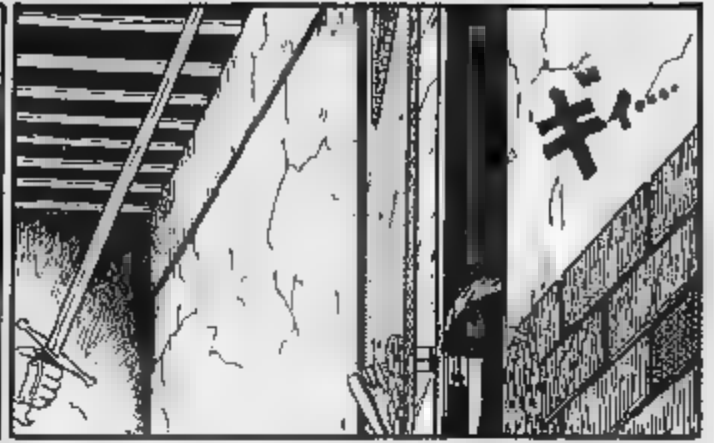
奴らは
わしと娘に
なりすまし

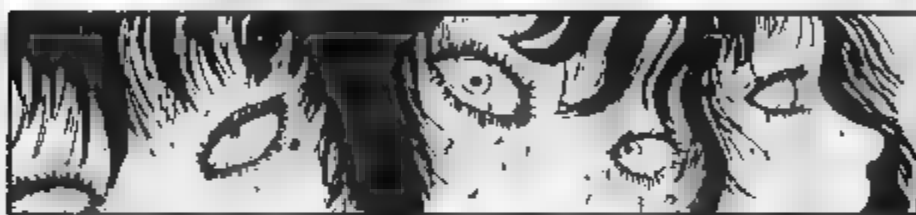
この屋敷で
夜な夜な
神を恐れぬ
研究に精を出して
おるのじゃ

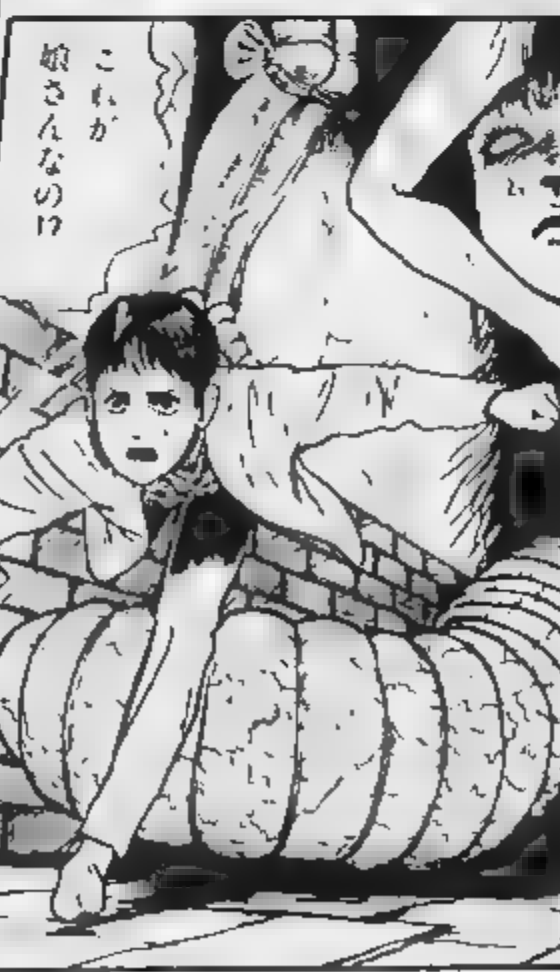


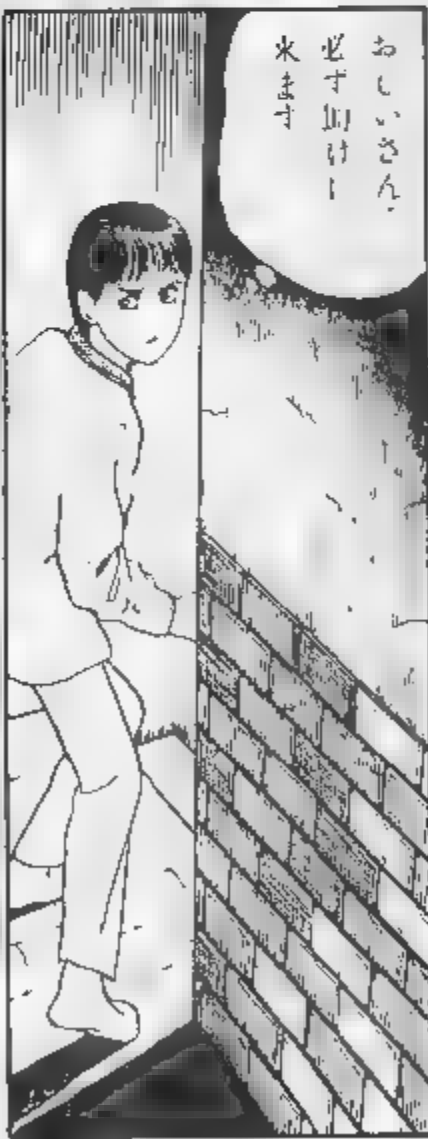
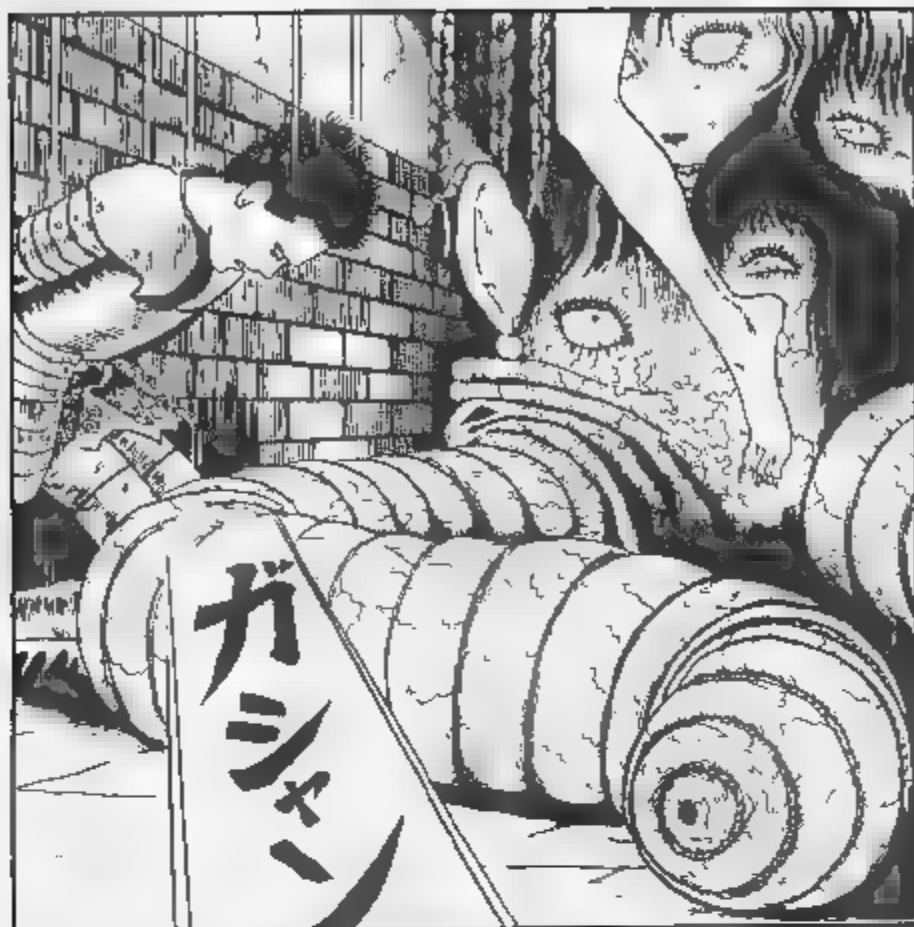


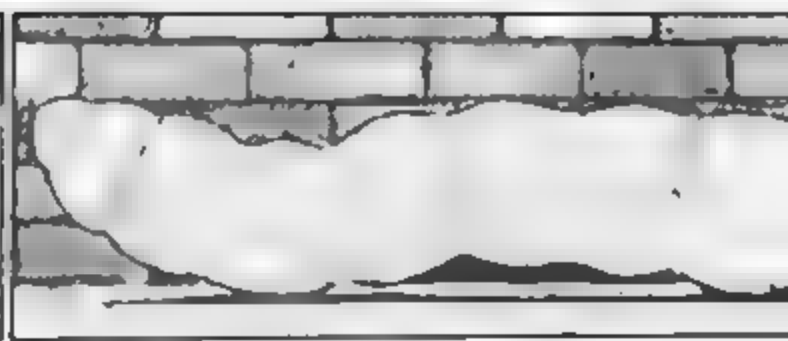
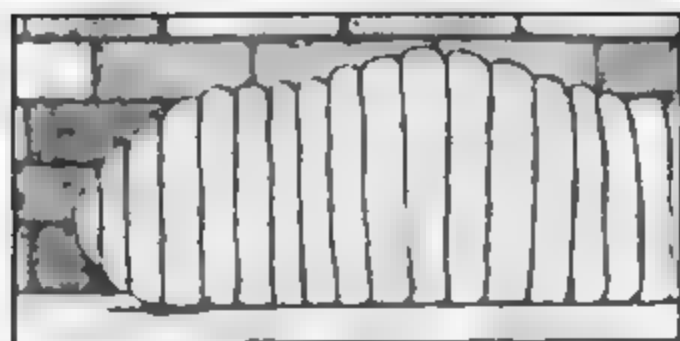










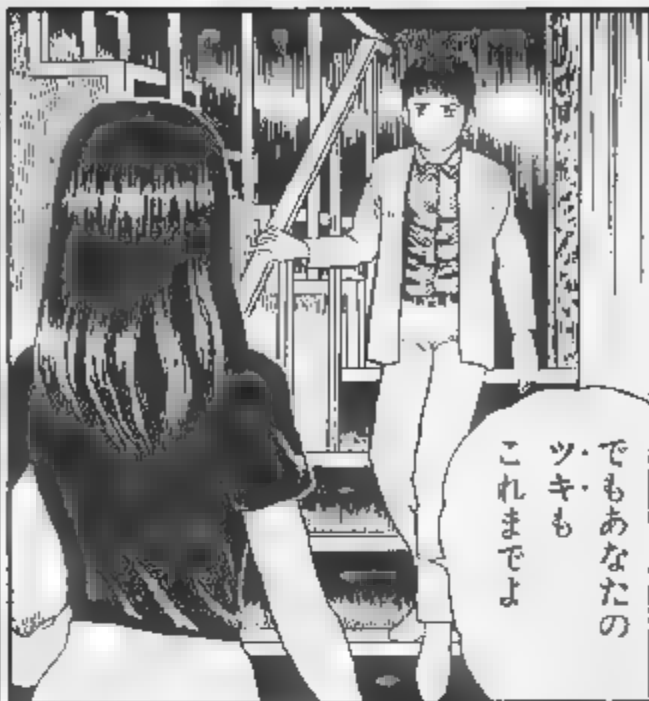




私の
本質?



富江さん……
二階から
あなたの
本質が
やってくる
わよ……



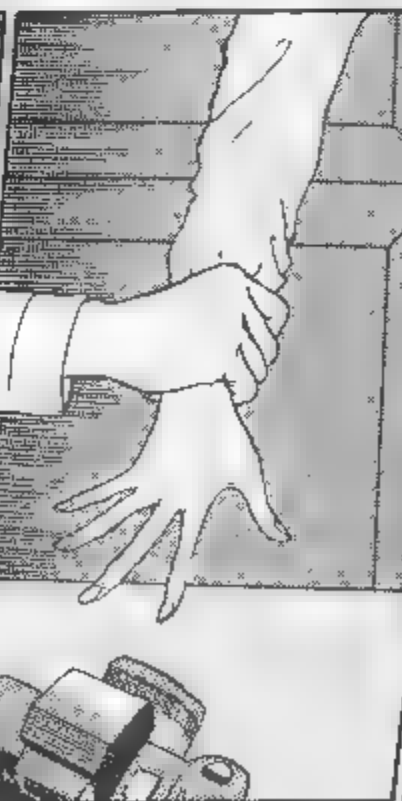
でもあなたの
ツキも
これまでに



私もう
あなたに
何言われても
平気なの
とりみだしたり
しないわ



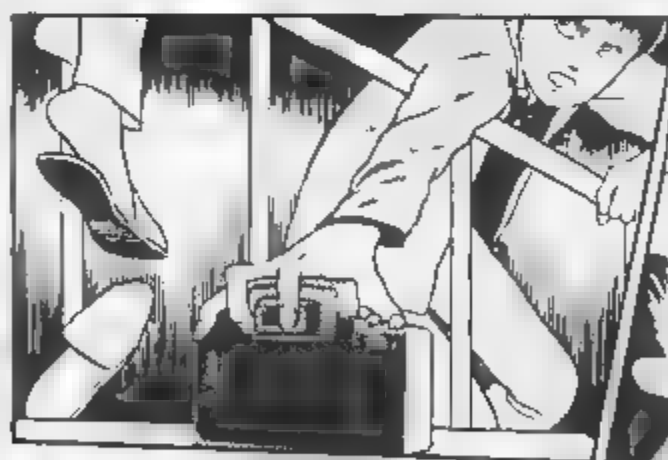
はっ

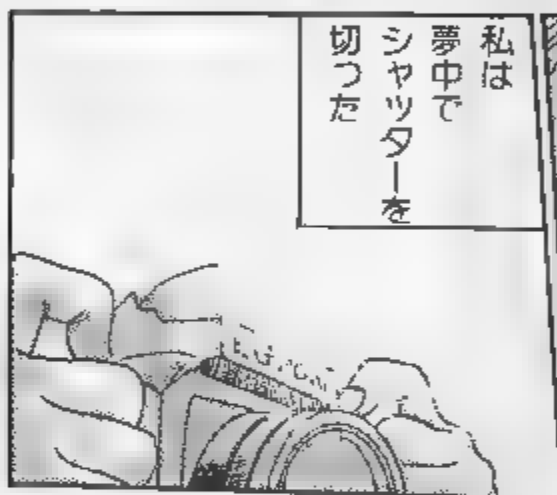
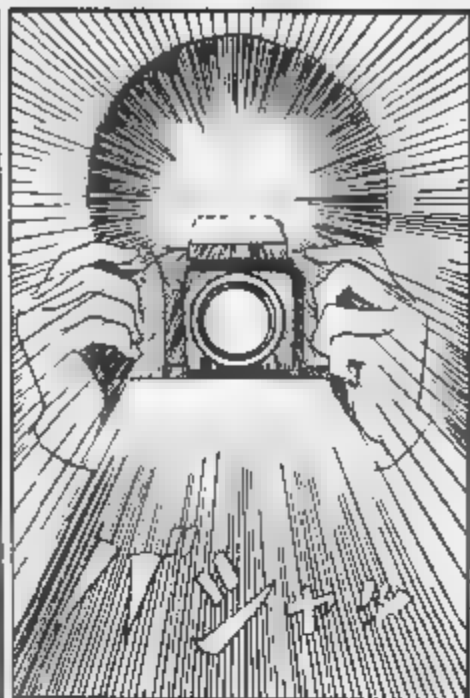
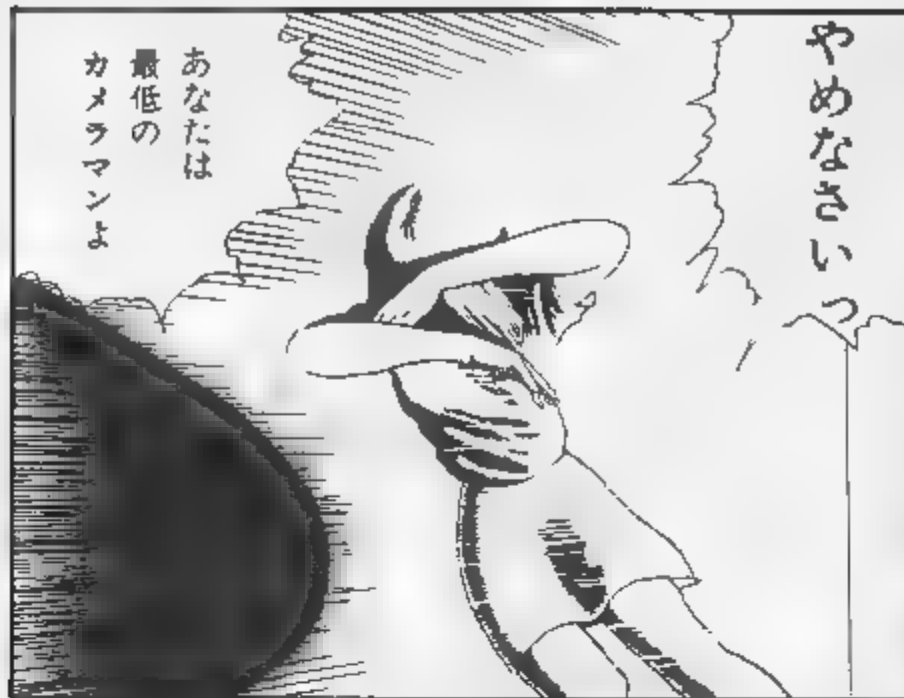


これでも
とりみださない
かしら?

月子君……
お願いだ……
ぜひとも
実験台に

ウフフフ





そしてその後
どうしたのか
覚えていない

どうやら
夢中では口を
捜しあて
逃げ出したらしい

気がつくこ
屋敷の
塀の外に
いた



警察が足を
ふみ入れた時は

すでに屋敷は
もぬけのから
で……

二階から
やせ衰えた
老人が救出
された他は
何も見つから
なかった

あの連中は
どこへ
行ったのだろう
そして
あの怪物は、

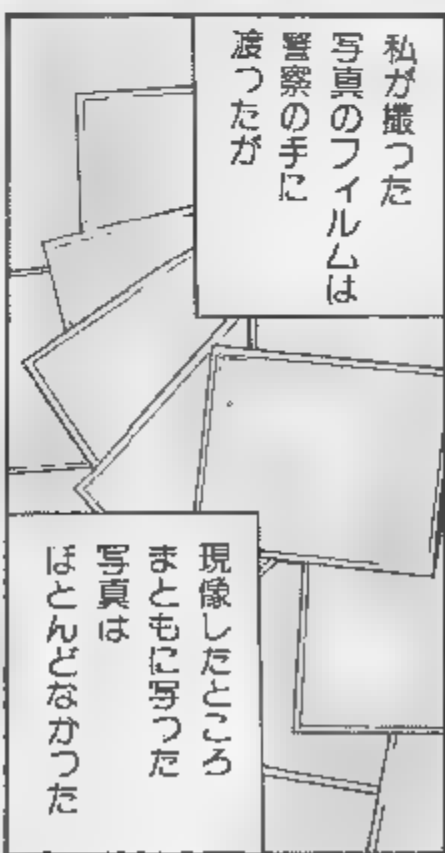


私が撮った
写真のフィルムは
警察の手に
渡ったが

ただ一枚だけ
階段を写したものが
あつたが富江や
怪物の姿はなく

そこには
悲しげな
女性ひとり
写っていた

現像したところ
まともに写った
写真は
ほとんどなかった



富江・復讐



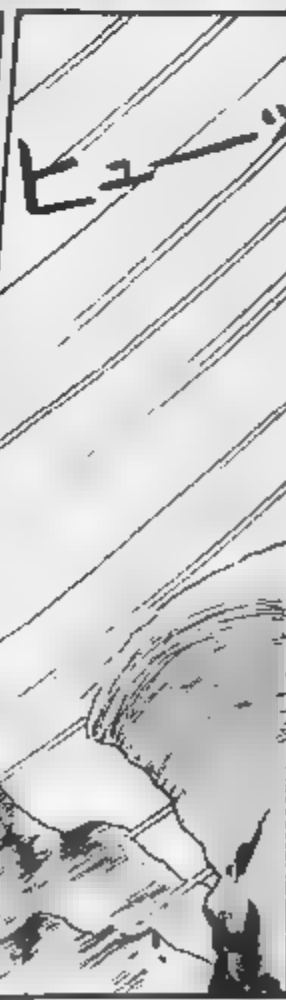




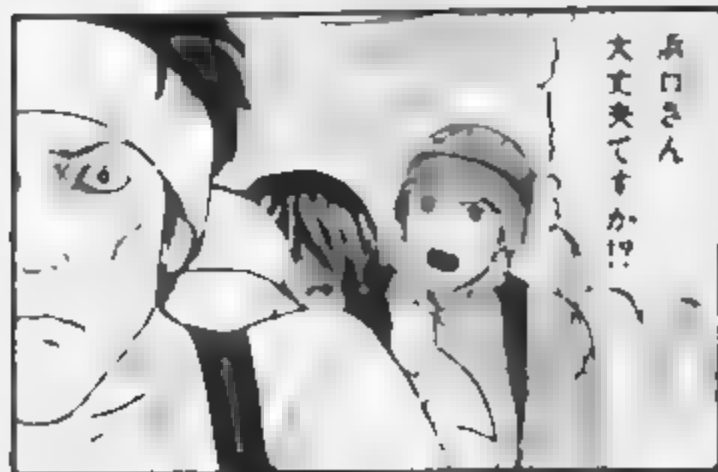
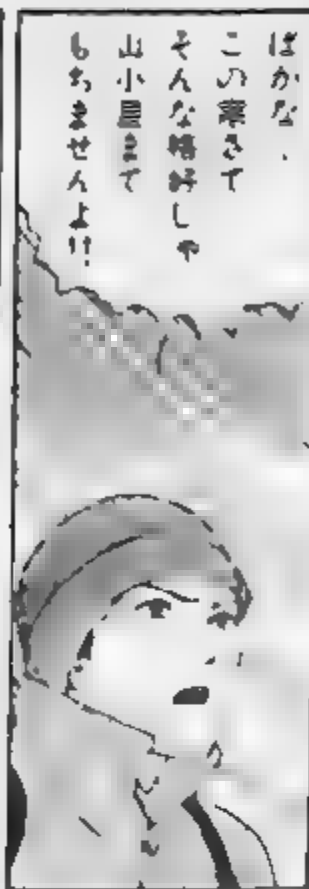








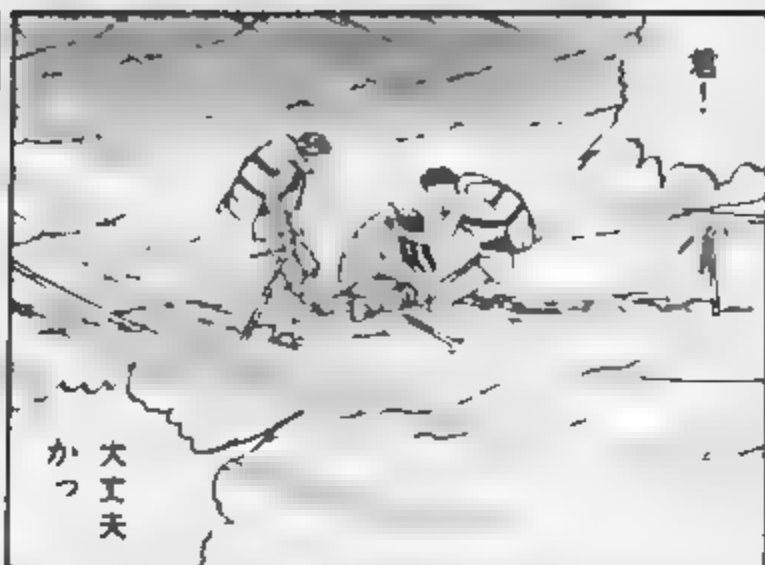


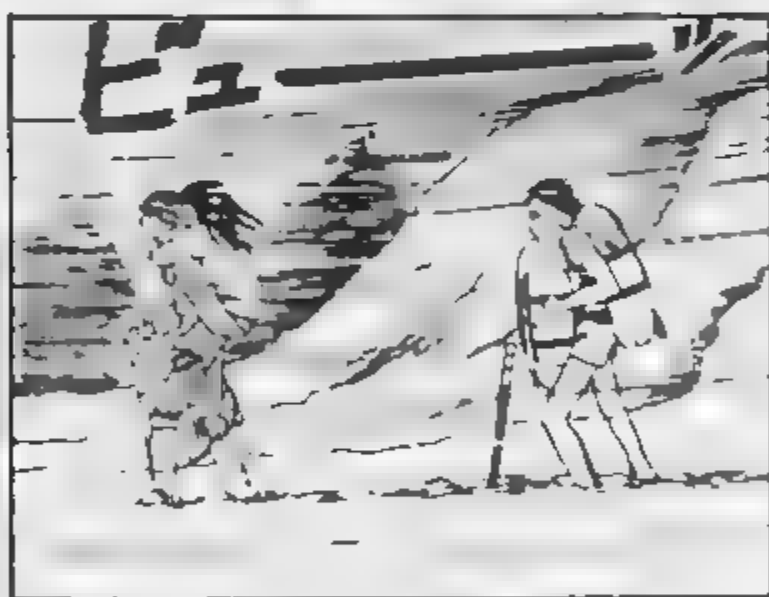




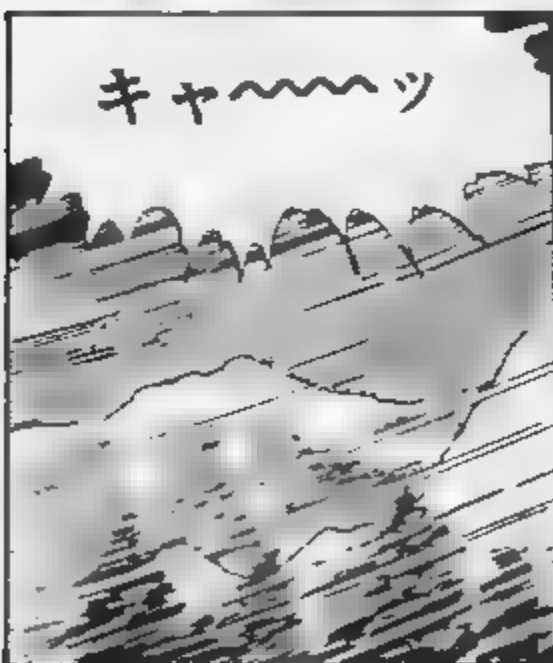


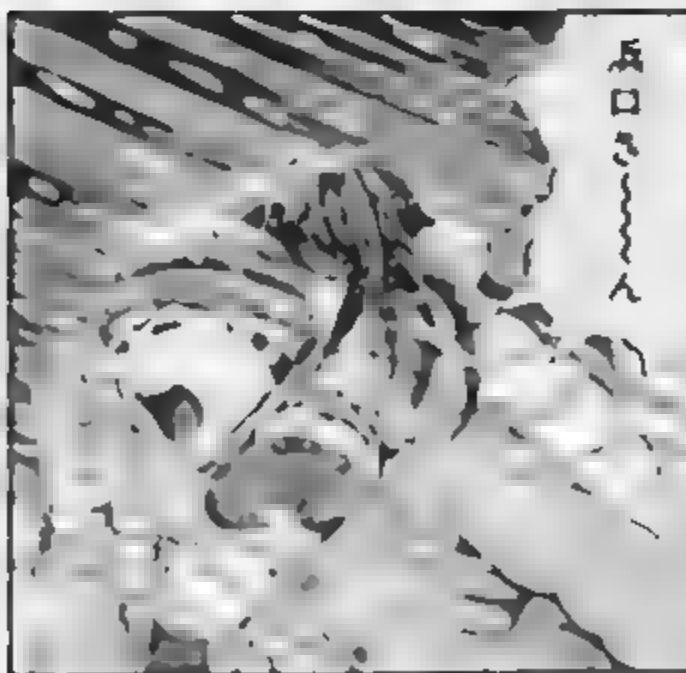
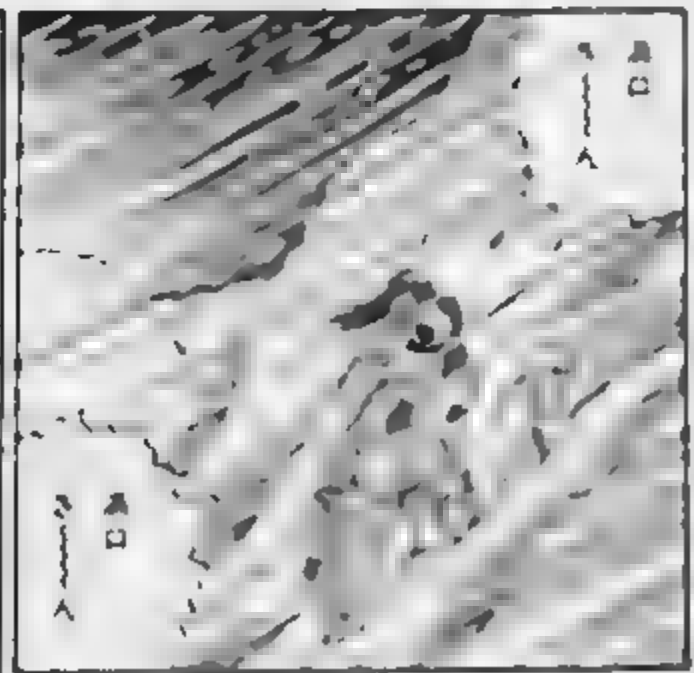
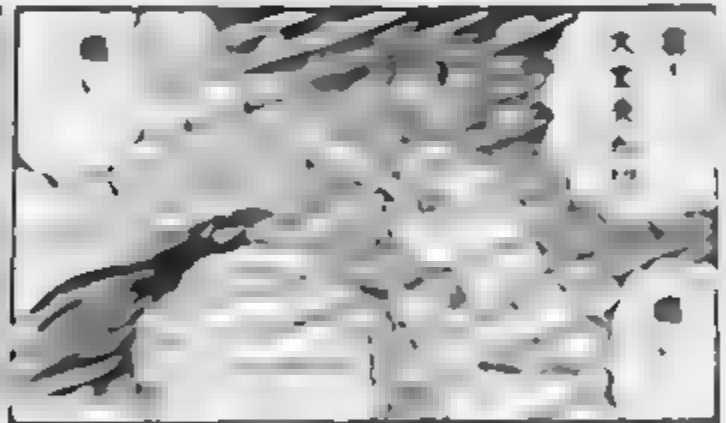
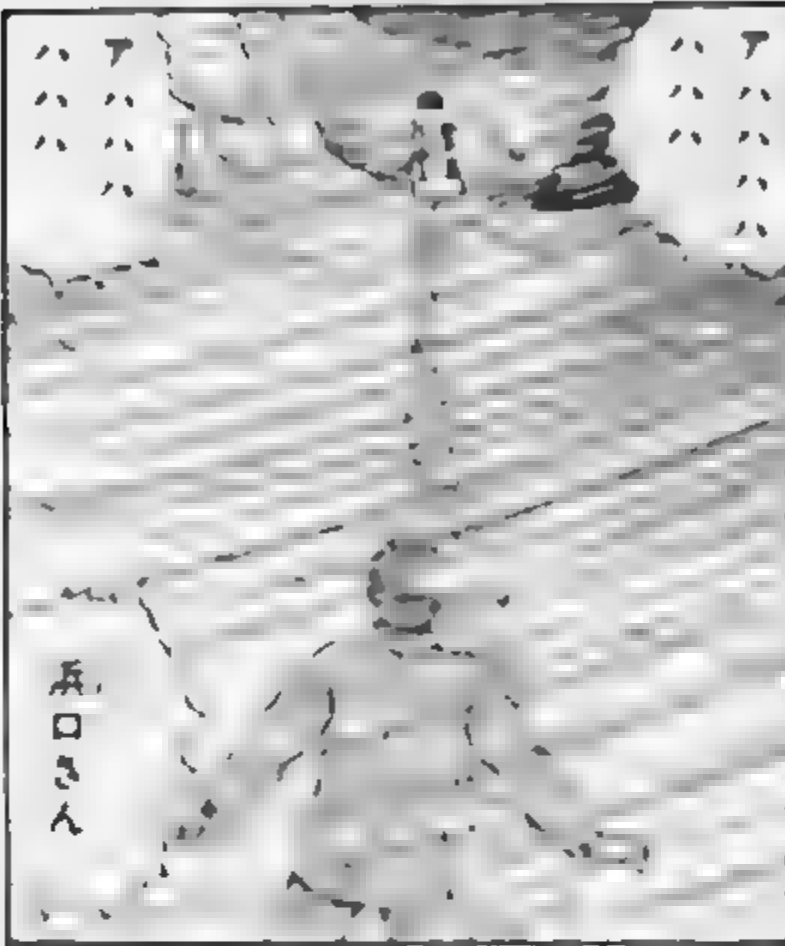
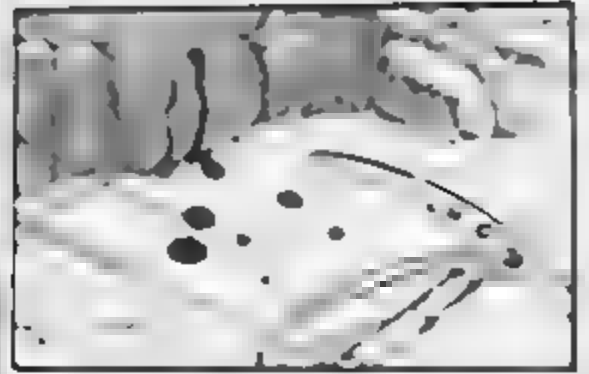


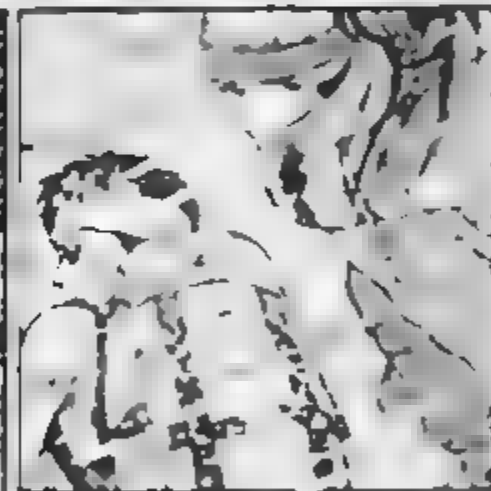
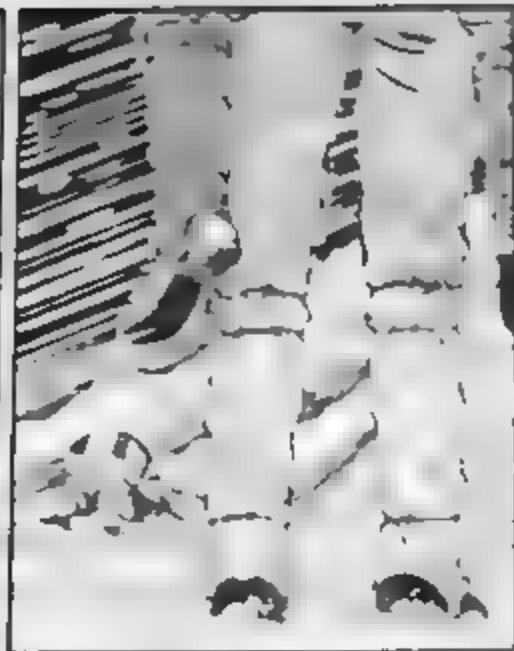


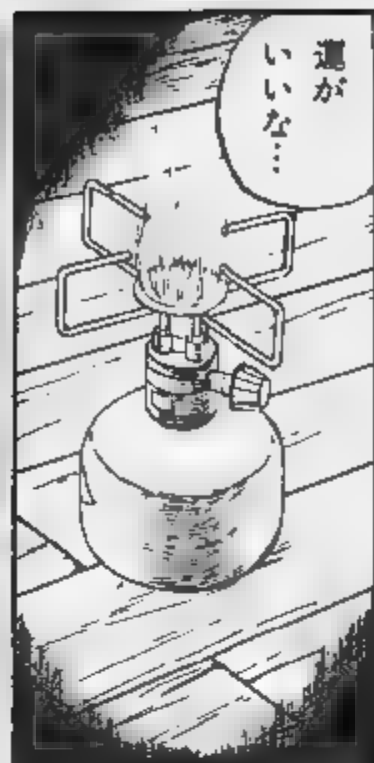


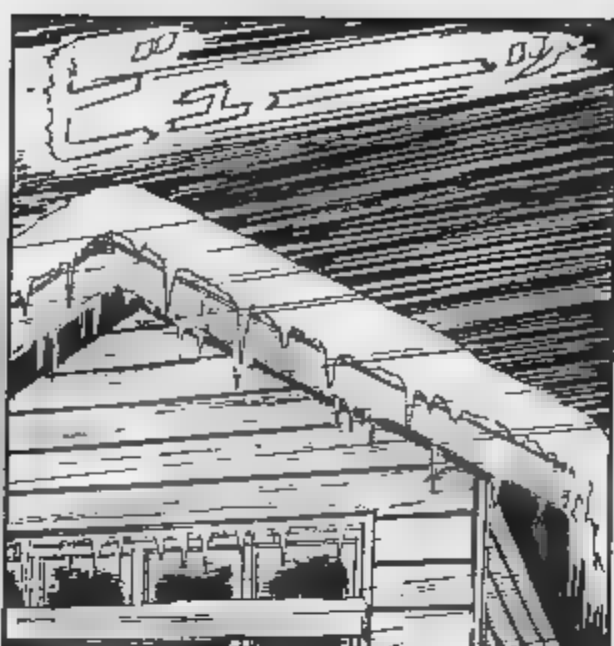










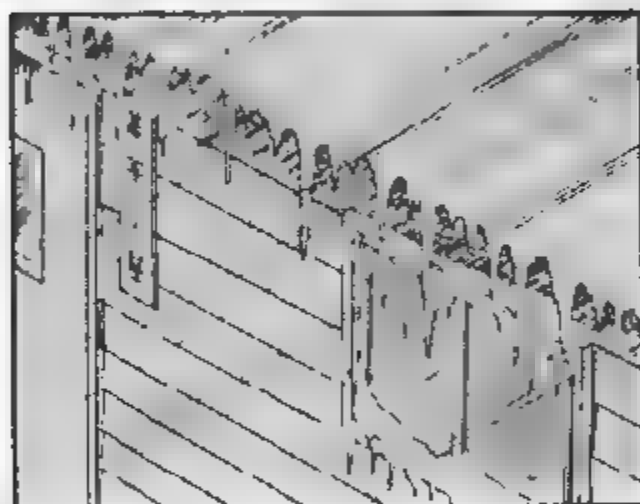


実際 兄貴は
この辺の山は
よく登っていた
……さっきまで
一緒にたつた
浜口さんや
土井さんは
実は兄貴の
登山仲間で

彼らと
よく登ってた
らしい

しかし届出も
なしに一人で
登るなんて
初めてのことで
浜口さんも
首をかしげて
いたよ

……とにかく
もしそれが
兄貴なら
この山で遭難
してるかも知
れないんだ



ストーブ
つけようか

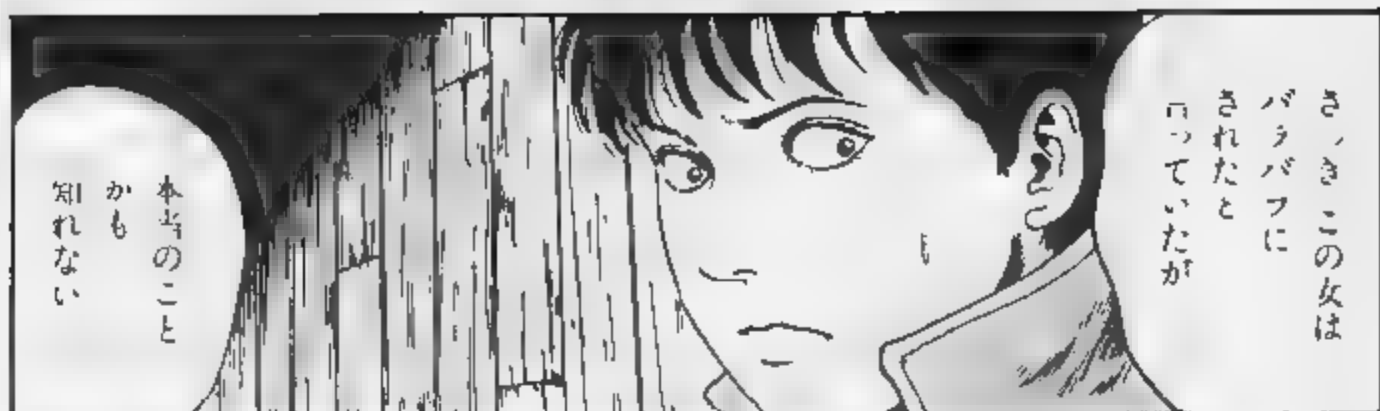
ふう……
寒いわ





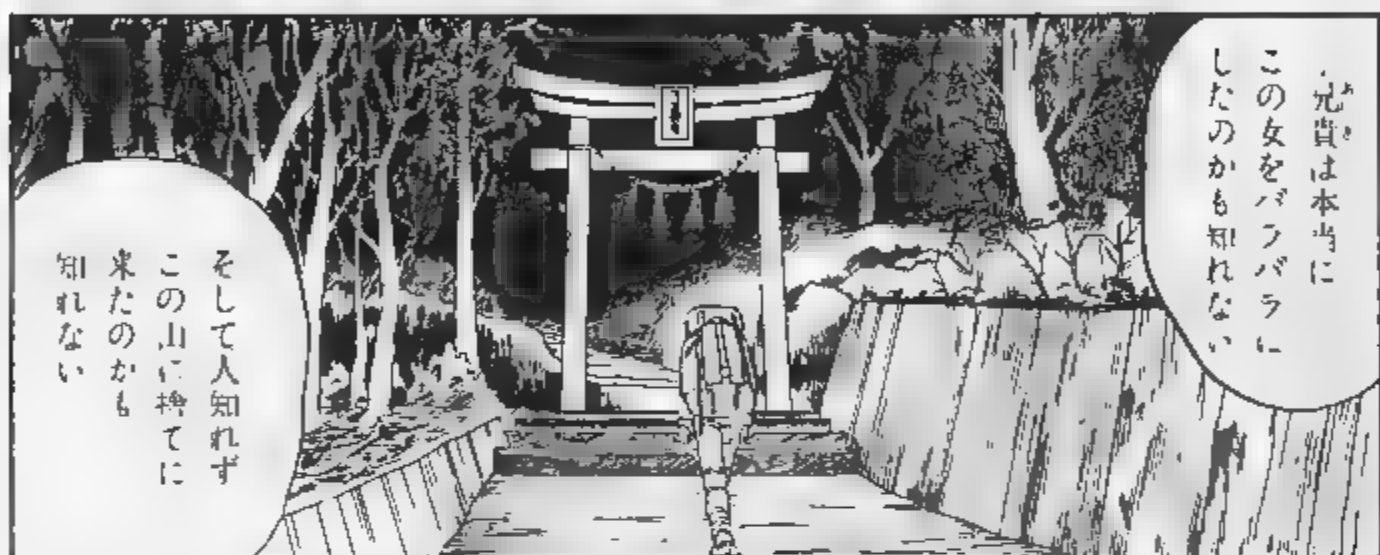






さ、きこの女は
バラバフに
されたと
口っていたが

本当のこと
かも
知れない



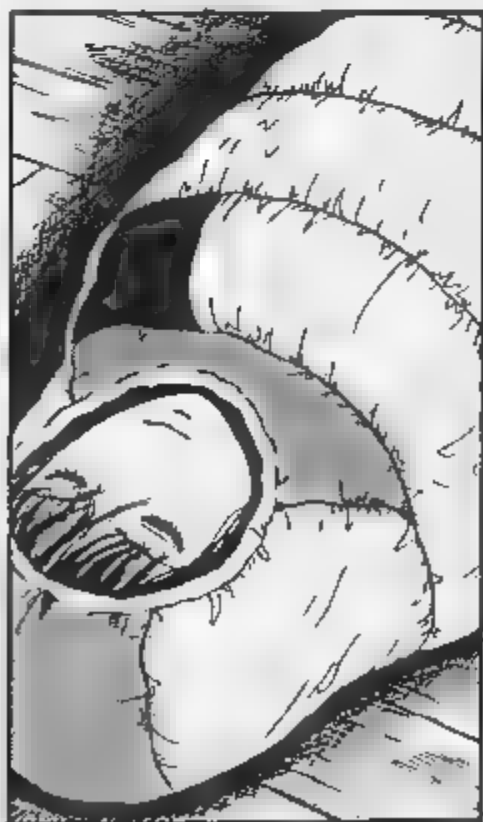
元貴は本当に
この女をバラバラに
したのかも知れない

そして人知れず
この山に捨てに
来たのかも
知れない



……
この女が
邪魔に
なつたから
?……

いや……
違う……

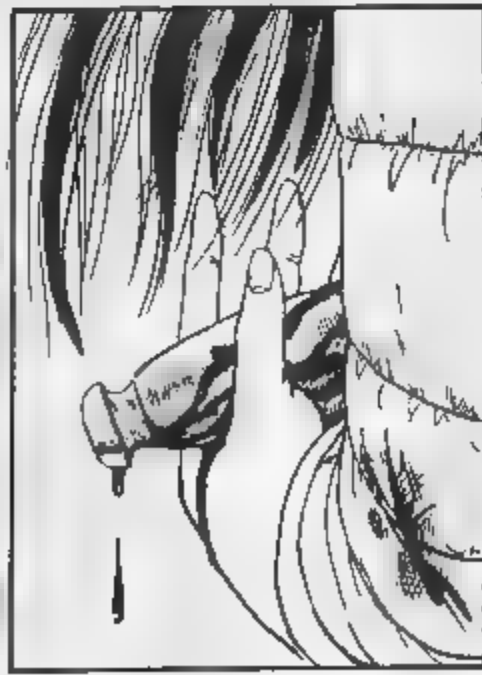


……
俺は何を
考えてるんだろう
……だったら今
目の前にいるこの女は
一体何なんだ



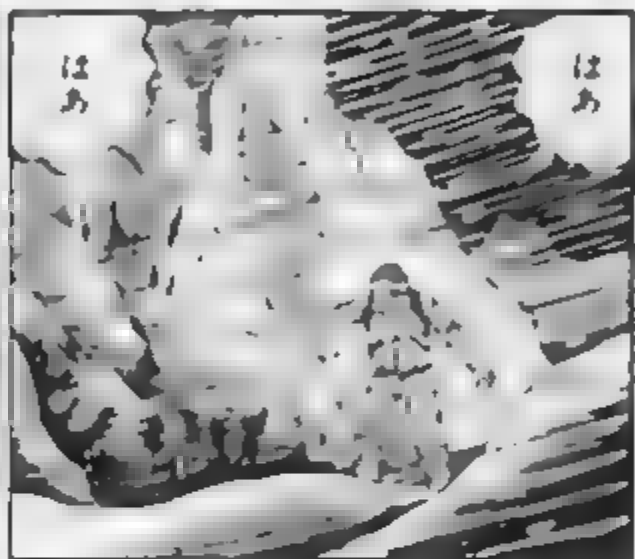
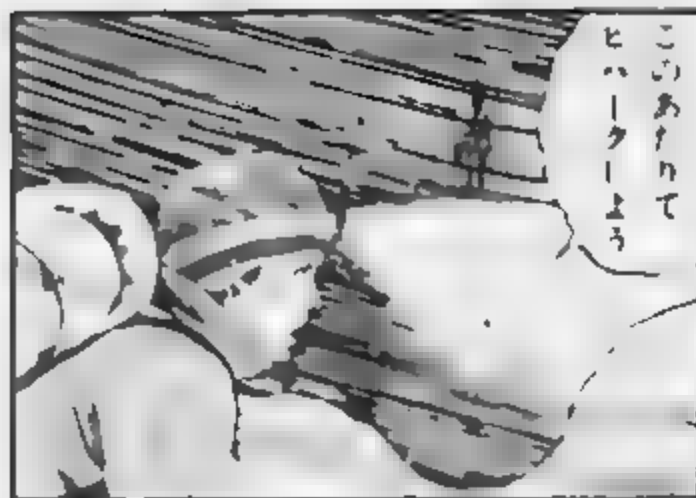
元貴は
衝動にかられて
やったんだ……
やむにやまれず
愛していたから
こそ
やったんだ

ギャ~~~~ッ













富江・復讐＊おわり

鏡

たきつぼ

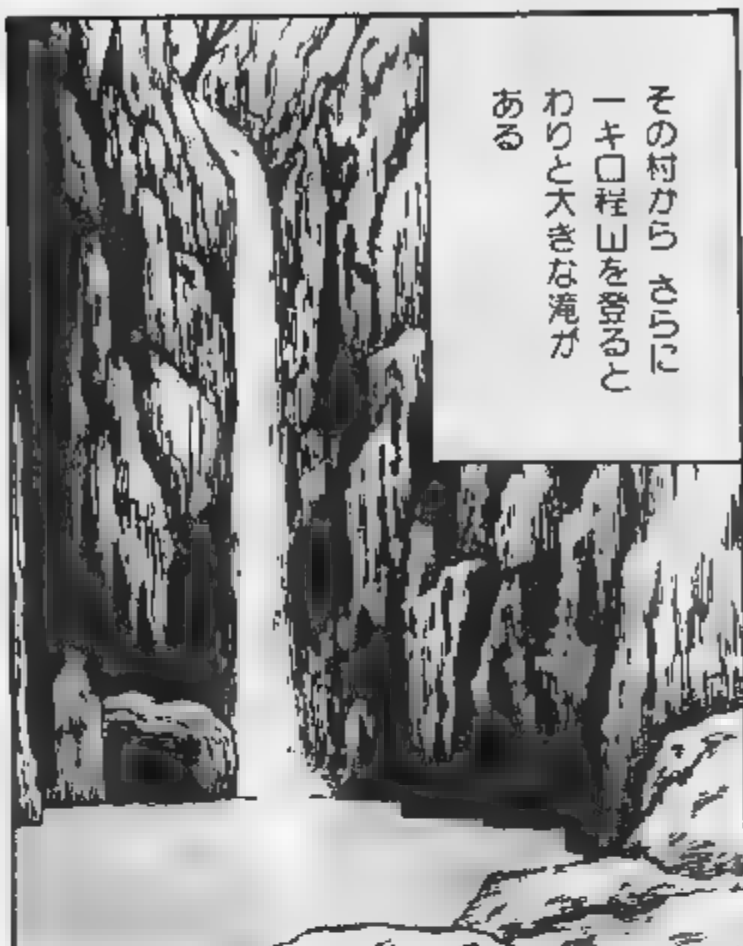
壺



山の奥にある
小さな村



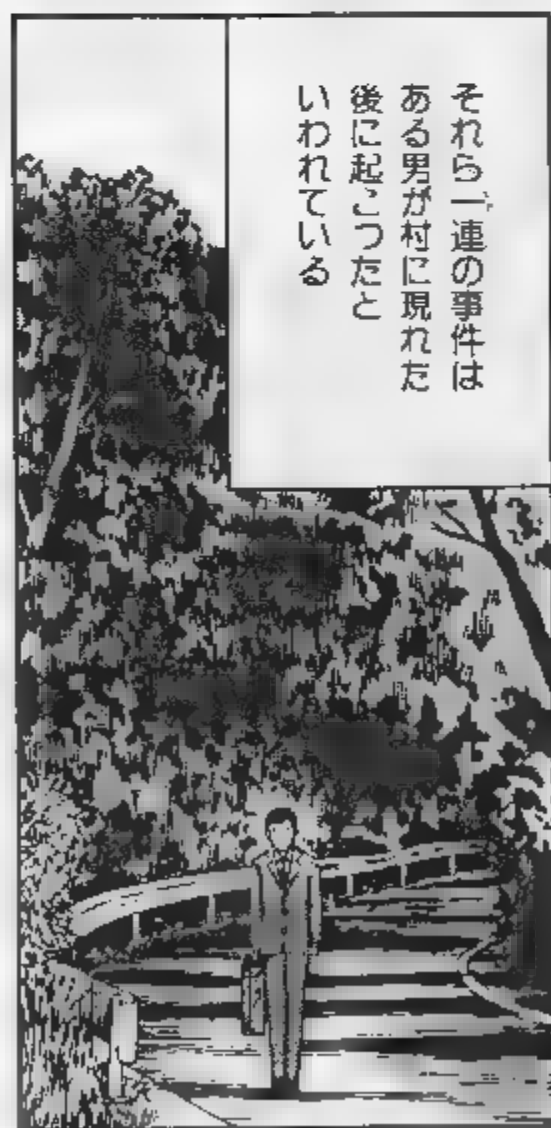
その村から さらに
一キロ程山を登ると
わりと大きな滝が
ある



この滝が
自殺の名所と
なつたのは
ごく最近の事
だ



それら一連の事件は
ある男が村に現れた
後に起こつたと
いわれている



そしてその後に
村を襲つた
身の毛もよだつ
出来事





その男は
妙な物を売り歩く
セールスマン
だったという



奥さん
少しお時間
いただけ
ませんか

耳よりな
話がある
んですよ

押し売り
なら結構
ですよ



こんにちは

今日は
悪い天気
ですねえ



奥さん
お子さんは
？

いませんよ
みんな都金へ
出ちゃった
からね

なんにも
買わない
よ



フフフ 私は
押し売りじゃ
ありませんよ

幸せを提供
する者ですよ

それはお林しい
……
こういう村では
どこも若者が
出て行ってしまっ
てお困りのよう
ですよ……

だから
どうした
のさ

そんな方にぜひ
おすすめしたいのが
これなんです

これ
です

何だい
その包み
は

お宅は立派な畑が
あるから 畑に埋めて
みたらどうでしょう？
定期的に水をあげれば
そのうち可愛らしい
女の子が畑からニョッキリ
生えてきますよ

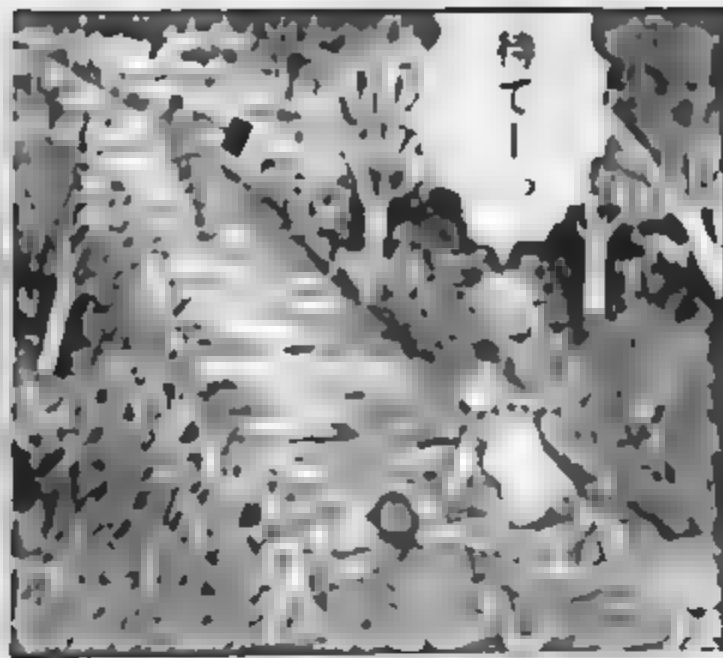
これは 実は私が
可愛がっていた女の子
の素が入っているのです
ええほんとに……

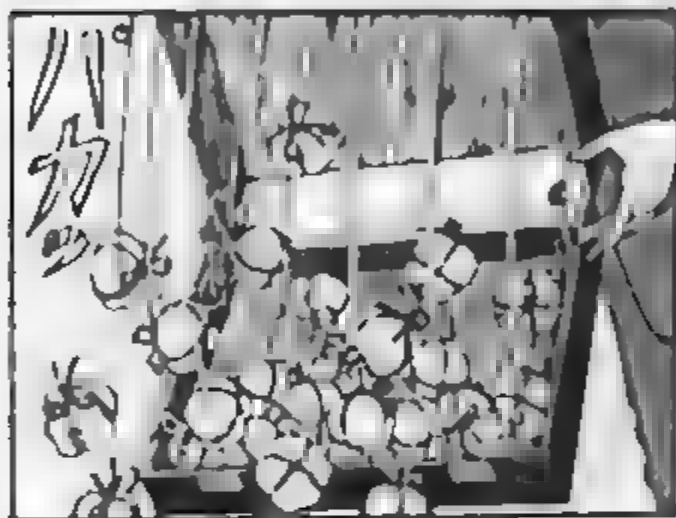
環境によっては
成長のしかたが不気味
だったりしますが
成長してしまえば
人間の姿になりますから
ご心配なく

とびきりの美人だから
婿養子だってすぐに来る
これで過疎問題は解消
ですよ……どうですか？
いいでしょう

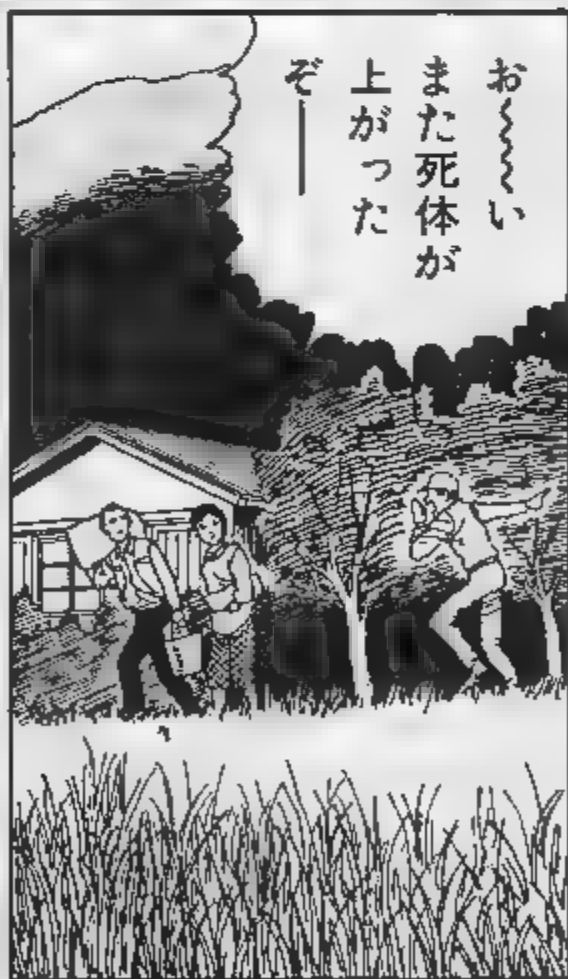
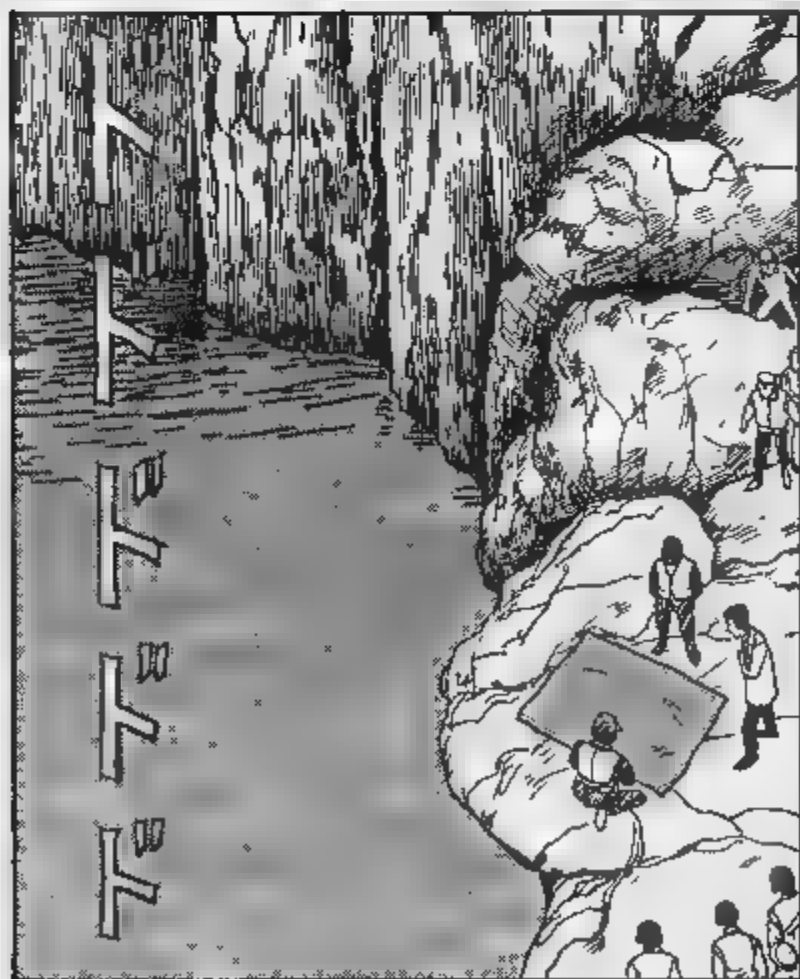


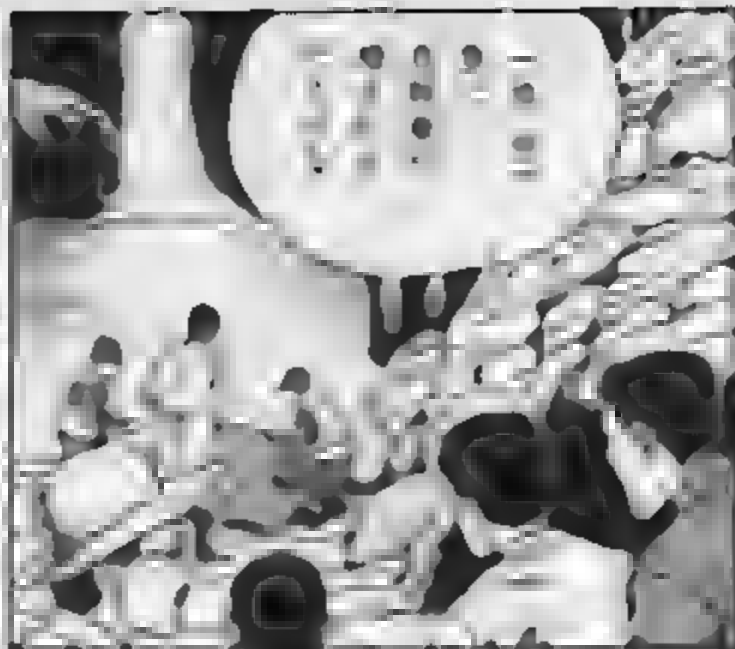
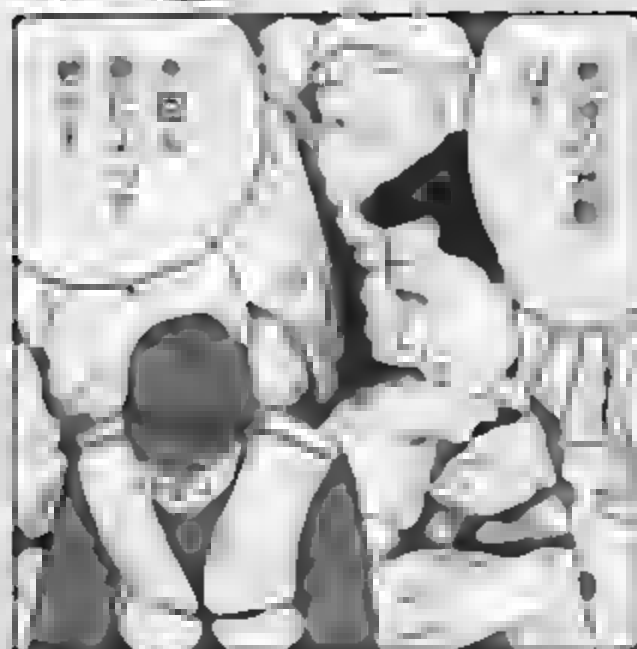














おい本当に
ここで
釣るのか?



その後も
自殺者が
出たが

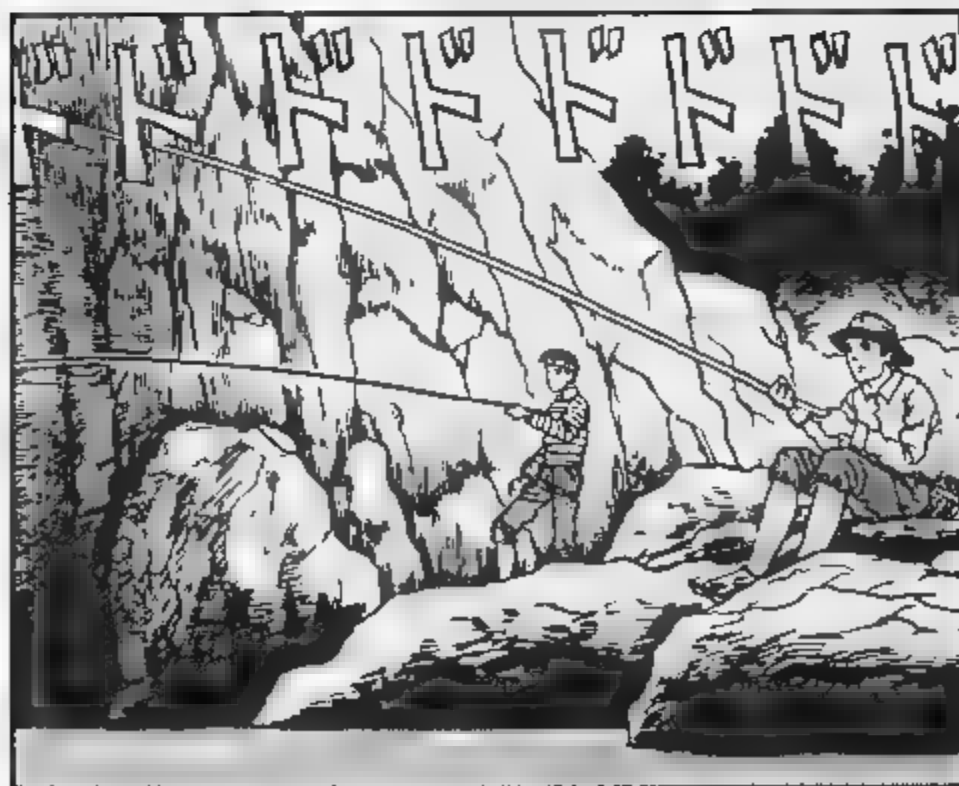
もう一度よく
考えよう。
あの世は暗く、
そして寒い。

妙な事にこの庵に
飛び込むのは
若い男に限られて
いたという



でも気味悪いなあ
自殺の名所で
釣りなんて

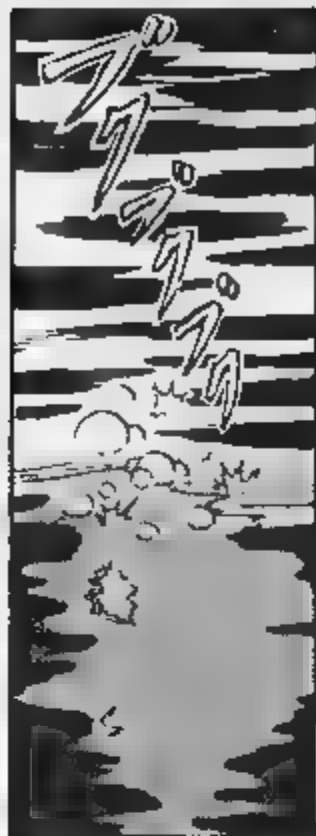
そうさ ここには
得体の知れない魚が
いるらしいぞ

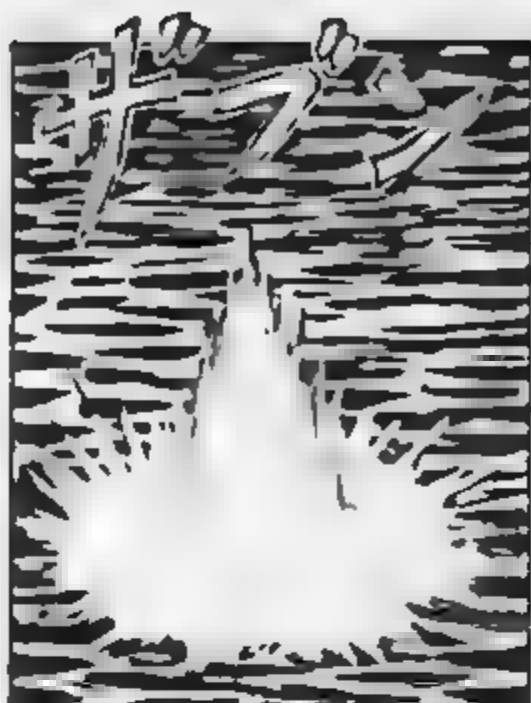


へへっ…
気にしない
気にしない
気にしない



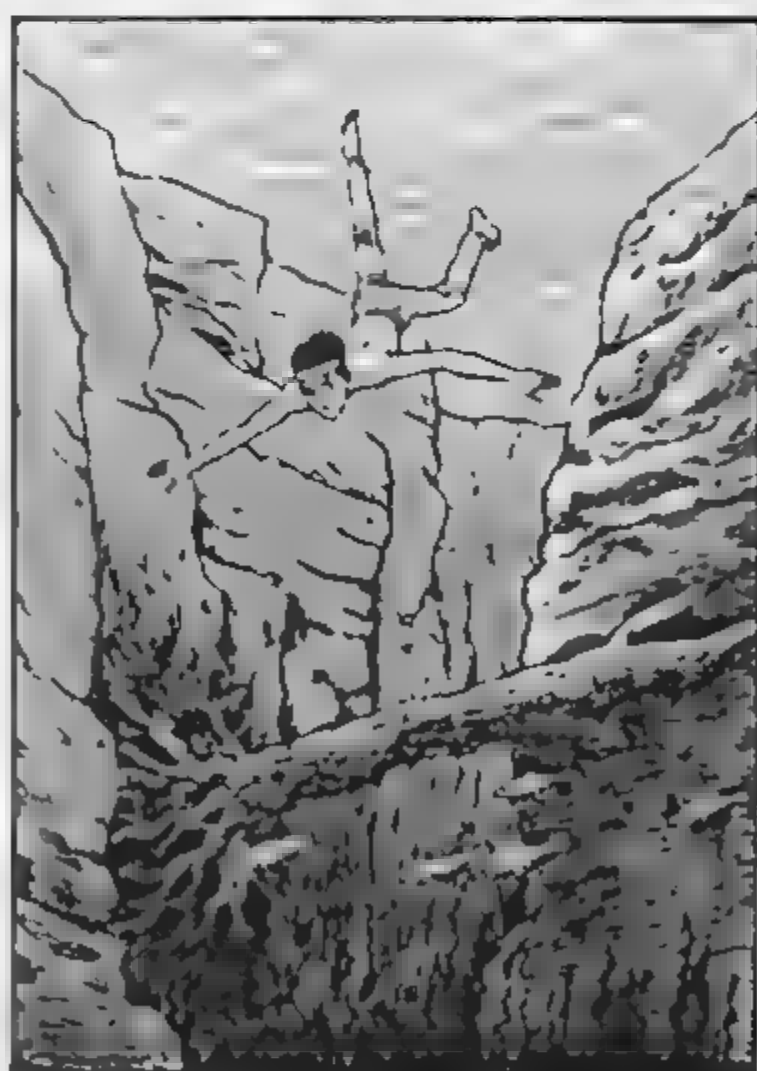






しか

水に
飛び込んだ
人が何だ
だつても
上がつてこ
ない
ので



心配になつた
もう一人も水に
飛び込んだとい
う

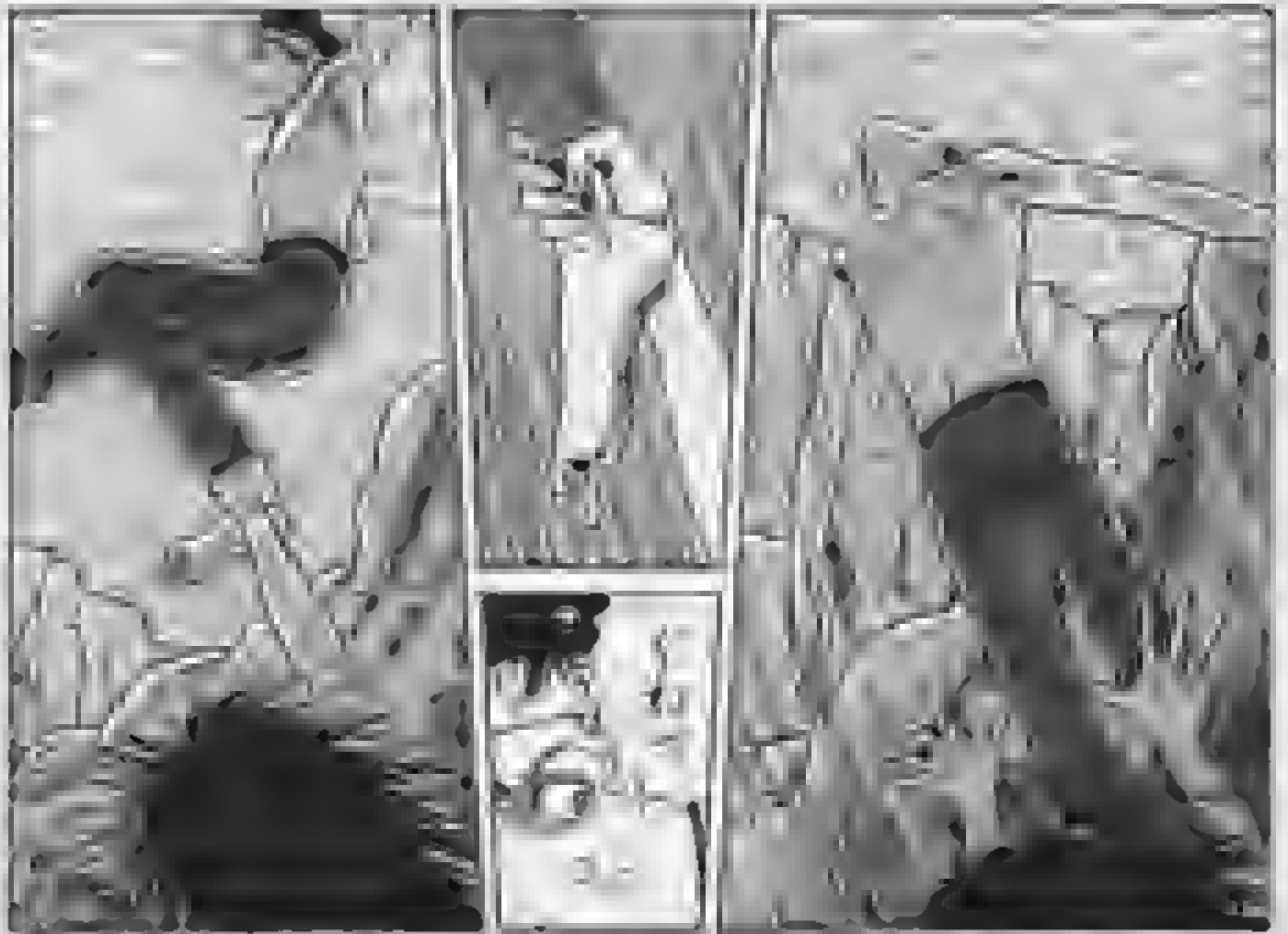
やっへえ



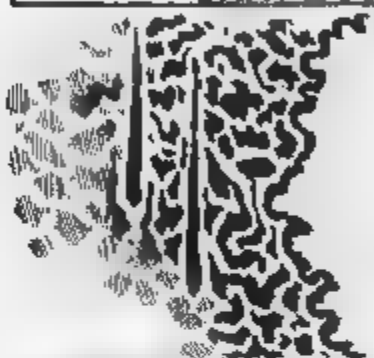
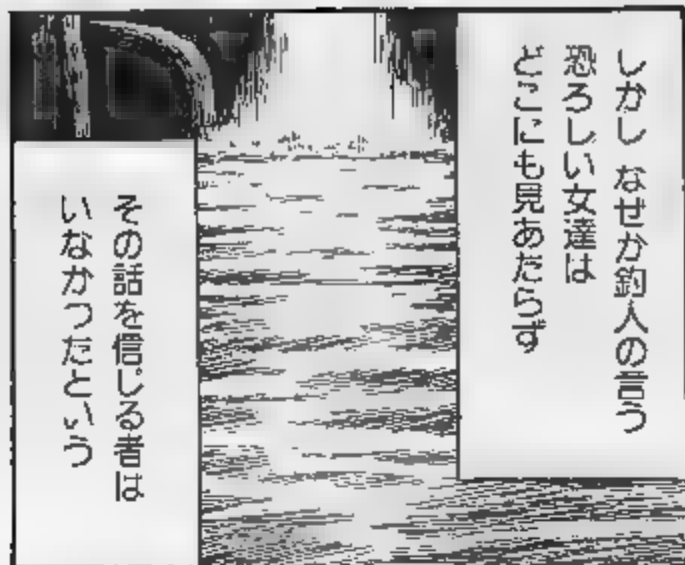




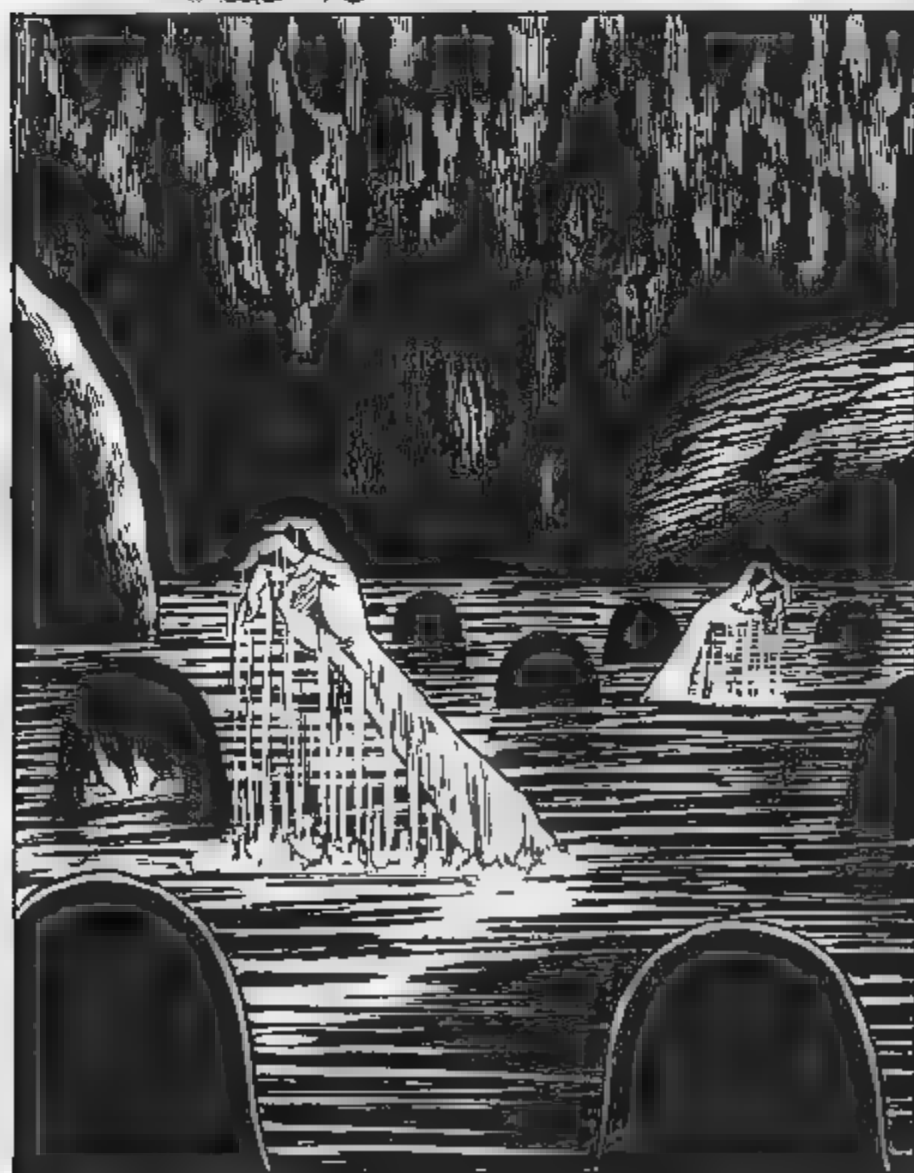
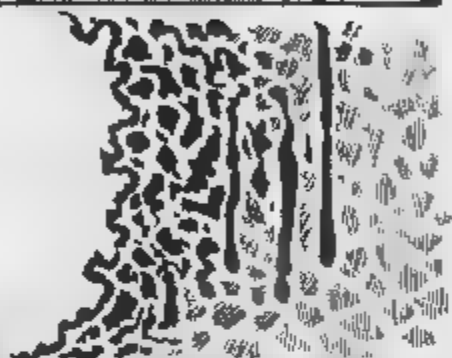


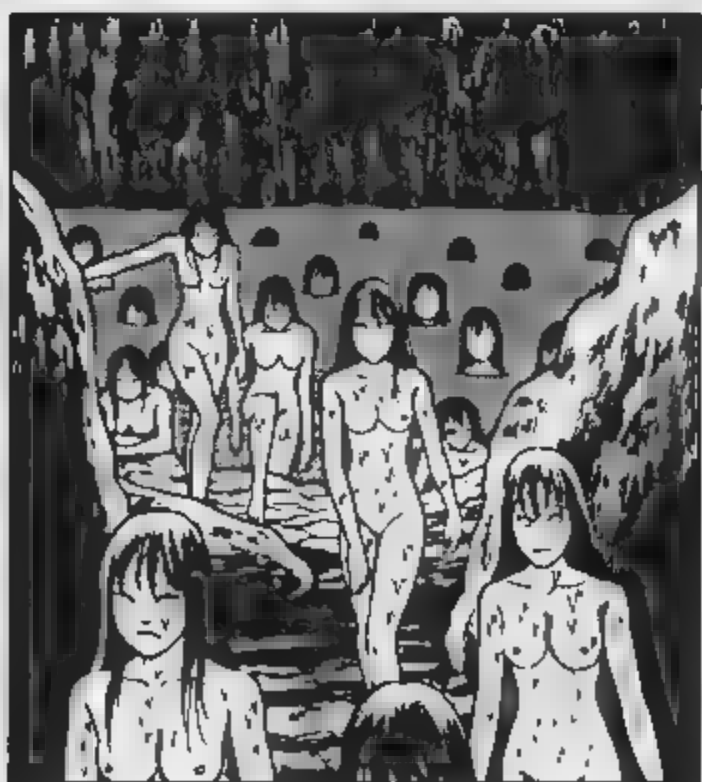
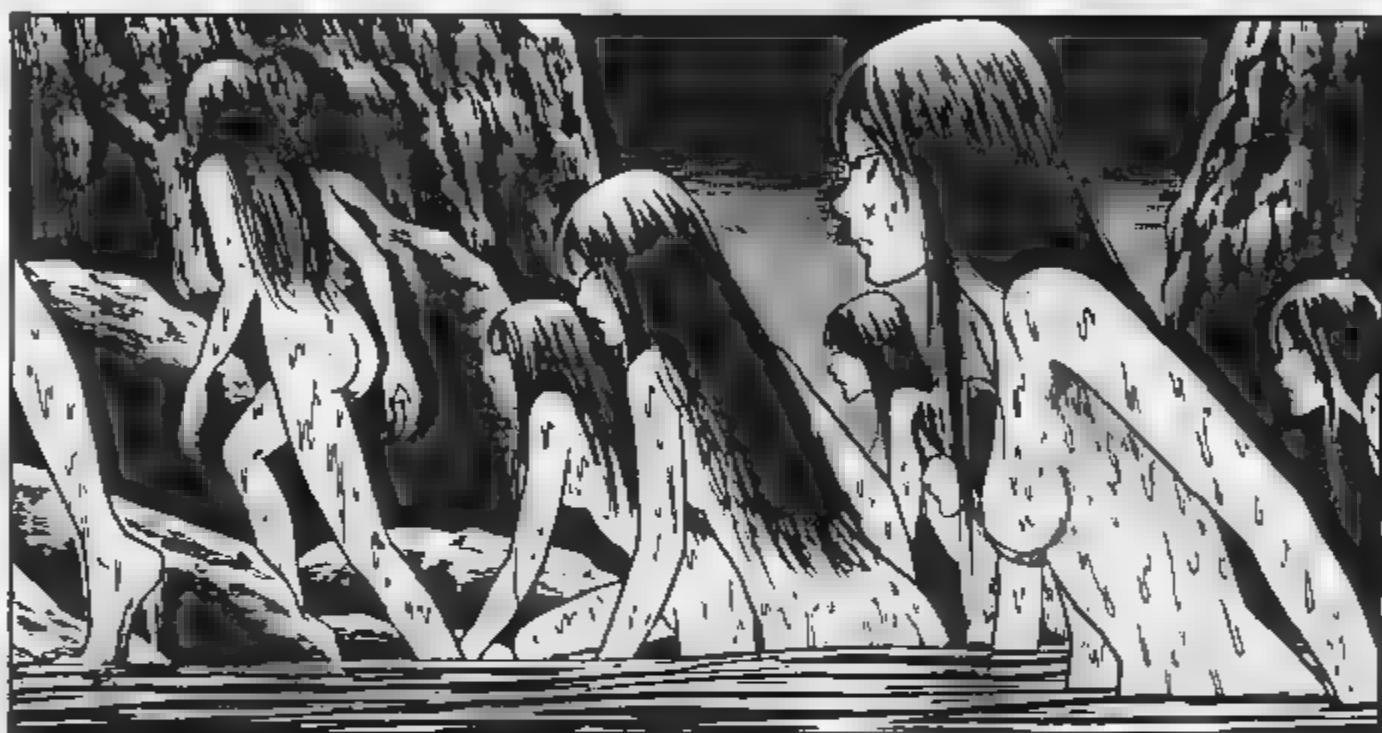


逃げてても
無駄よ~~~~~



身の毛も
よだつ
光景が
村の人々を
震えあがらせ
たのは
それから
しばらくして
からだつた
という

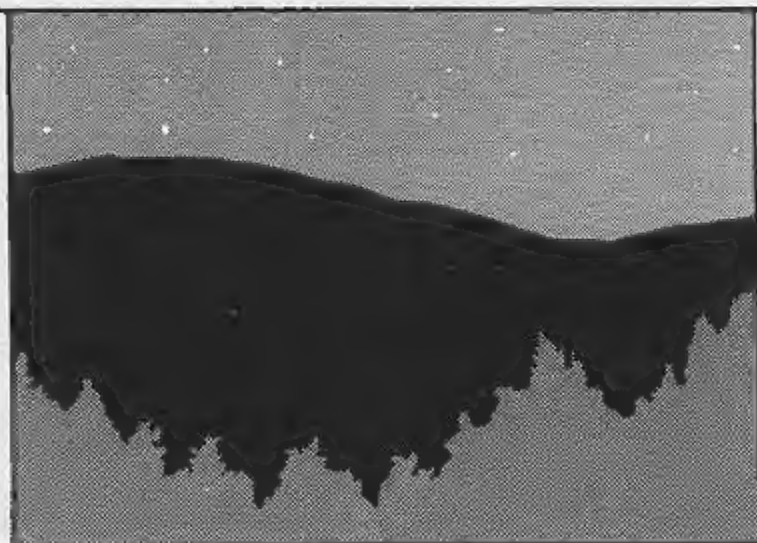








多くの村人が
この不気味な行進を
目撃したという



この妙な集団はやがて
散り散りになつて
夜のやみに消えていった
ということだ

＜ あとがき ＞

私が中学生の時、同級生のK君が亡くなりました。小さな田舎町での交通事故死は珍しい上に、顔なじみの同級生が突然この世の人ではなくなったという事実には私達は大変なショックを受けました。

葬式が終わっても、しばらくは皆口々に「信じられない」と話し合ったものです。私はその時、死んだK君がひょっこり学校にやって来ても不思議でないような気がしました。

『富江』はこの時の思いがもとになっています。

ところで富江の細胞が増殖して、その個体数が増えるというアイデアはあまり自慢できるものではありません。なぜならこれは、私の尊敬する楳図かずお先生がすでに同様のテーマで描いておられるからです。

富江シリーズに独自のものがあるとすれば、それは男達が無意識に富江を増殖させてしまうという所でしょう。これは当時第1作を読んだ職場の先輩Hさんから富江殺害に級友全員が加わる理由づけが弱いと指摘され、それを受けて考えた苦しまぎれの設定です。そんな行きあたりばったりの状況で描き継いだ本シリーズは無理の多い稚拙な（ちせつ）ものですが、しかしこれがなかったら、おそらく今日まで漫画を続けられなかったかも知れず、私にとっては大切なものとなりました。

最後になりますが、今回私の作品集の新装版を出すにあたり、今まで応援して下さった読者の皆様をはじめ、ハロウィン編集部の皆様、特に『富江』以来すべての作品にアドバイスを下さっている原田利康様に心より感謝の意を表します。

1997年9月

伊藤潤二

伊藤潤二恐怖マンガCOLLECTION①

富江

平成9年10月30日第1刷発行
平成12年8月5日第7刷発行

著者……伊藤潤二

©Junji Ito

発行人……君島志郎

印刷……フォト印刷株式会社

製本……光和製本株式会社

発行所……株式会社朝日ソノラマ

〒104-0061 東京都中央区銀座6-11-7 オリコムビル

TEL (3572) 3180 (営業) (3572) 3190 (編集)

振替 00120-6-40311

ASAHI SONORAMA Printed in Japan

乱丁、落丁がありましたらおとりかえいたします。

ISBN4-257-90313-9